network TAMA

第9回 多摩の学生 まちづくり・ものづくり コンペティション

テーマ　多摩の明るい未来は、挑戦する君達によって拓かれる！

2023 報告書

公益社団法人
学術・文化・産業ネットワーク多摩

目　次

ご　挨　拶　3

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩

会　長　冲永佳史（学校法人帝京大学　理事長・学長）…… 4

副会長・審査委員長　八木敏郎（多摩信用金庫　会長）…… 5

専務理事・プログラムエグゼクティブ　細野助博（中央大学　名誉教授）…… 6

第 1 章　実施概要　7

第 2 章　審査　13

審査委員紹介…… 14

エントリー団体一覧…… 15

第一次審査結果…… 17

第二次審査結果（最終審査結果）…… 18

第 3 章　表彰団体　19

第 4 章　表彰団体以外のエントリーシート　83

第 5 章　講評・総評　117

総評　西浦副審査委員長…… 118

講評　各審査委員…… 119

ご　挨　拶

公益社団法人　学術・文化・産業ネットワーク多摩
会　長　**冲 永 佳 史**
（学校法人帝京大学　理事長・学長）

「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション」は、産官学連携組織の強みを生かして、2014 年より開催してまいりました。

これまでのコンペティションの中で発表されてきた提案には実際に実現した取り組みもあるなど、先進的な提案を広く取り上げることに努めてまいりました（例：2021 年度奨励賞・こどもホスピスと産業観光を組み合わせたプラン）。

第９回を迎えた今年度はコロナ禍以降､初の対面での審査となりました。１次審査ではエントリーシートによる書類審査、２次審査プレゼンテーションの対面審査により実施しています。31 チームという多くの団体からの応募があり、どのチームの提案も完成度が高かったのですが、最優秀賞は創価大学安田ゼミが４回連続で選ばれました。

さて、本年度で特筆すべきことは二次審査に出場した 12 団体のプレゼンテーション発表を１つの会場で行いましたことです。長丁場にはなりましたが、学生の皆さんはお互いの発表を聞くことで刺激を受け、審査委員の皆様は二次審査に出場した団体すべての若い学生達の新鮮で革新的なアイディアを聞くことができました。それにより、多摩地域の課題や学生ならではのアイディアが共有され、より明確化されたかと思います。

また、学生の皆さんはフィールドワークの実行、そしてプレゼンテーション発表という機会を通して学術的な成長をしていることでしょう。インフォーマルな交流会として設けられました懇親会でも賞授与式が行われ、その後に活発な議論が再燃したようです。

最後に、応募してくださった学生の皆様、指導を担当された教員の皆様、審査を担当いただいた審査委員の皆様に心より御礼申し上げます。また、本事業に協賛いただいた多摩地域の各社の皆様に心より感謝申し上げます。

今回提案された学生たちのアイディアが、学生たちの今後に、そして多摩地域の持続的発展のために活用されることを祈っています。

今後ともネットワーク多摩の事業にご協力をよろしくお願い致します。

公益社団法人　学術・文化・産業ネットワーク多摩
副会長・審査委員長　八 木 敏 郎
（多摩信用金庫　会長）

「第 9 回多摩の学生まちづくり･ものづくりコンペティション 2023」は 4 年ぶりの対面方式により、無事開催することができました。関係者の皆様には深く感謝します。また、今回も多くの学生の皆さんに本コンペティションへ応募いただいたことを大変嬉しく思います。

どのチームの内容も非常に優れておりましたが、厳正な審査の結果、創価大学　安田ゼミ　eyes の「誰もが排泄を我慢しなくていい登山街道へ」が最優秀賞となりました。

今回は「多摩の明るい未来は､挑戦する君達によって拓かれる！」をテーマとして開催しましたが、皆さん多摩の明るい未来を実現するために、地域の課題に対してとても良く考察されており大変レベルが高いと感じました。アフターコロナにより､対面での活動の幅が広がる中で､実践的なフィールドワークは大変学びが多かったのではないでしょうか。デジタルネイティブと呼ばれているように皆さんの世代は、インターネット上や非対面で物事を完結させる力に大変優れています。その力を持った皆さんが、自ら組み立てた理論を実際に現地調査、実践する中で得た気づきは、皆さんの更なる成長に繋がったはずです。理論がなくては実践できませんし、実践なくして理論は検証できません。皆さんには、今後も自ら考えたことを実践してみる、現場に足を運んでみるということを是非忘れないでいただきたいと思います。

皆さんは今後も困難な状況に直面し、失敗や挫折を経験することもあるかと思います。しかし、失敗や挫折は挑戦する人にのみ与えられる学び、経験です。ときには人の手を借りながら諦めず乗り越えることで明るい未来が切り開かれます。新たな価値創造の担い手になるのは、若く柔軟な発想を持つ皆さんです。長期的な視点を持ち様々な課題に挑戦してくださることを期待しています。

そして将来、皆さんや本コンペティションが創造し、成功したものが、ロールモデルとして日本全国へ広がり、日本の経済発展に寄与する。そうなることを願っております。

最後になりますが、参加してくださった学生の皆さん、ご担当されている教員の皆さま、審査員の皆さま、そして多大なご支援いただきました団体、協賛企業の皆さま、全ての関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いします。

公益社団法人　学術・文化・産業ネットワーク多摩
専務理事・エグゼクティブプロデューサー　細 野 助 博
（中央大学　名誉教授）

「選ばれること」の本質

まちづくりやものづくりは、その「まち」や「もの」が誰かに選ばれなければ、価値がない、意味がないという厳然たる事実を踏まえなければなりません。インバウンドの数がコロナ前に戻ろうとしています。憧れの日本、四季が美しい日本、和食と温泉の日本。潜在的なニーズが一気に顕在化しています。円安が外国人に値ごろ感を与えたからでしょうか。逆に日本への技能実習生、出稼ぎ数、留学者数は少し減っているようです。円安傾向の定着で、一方で選ばれ、他方で選ばれなくなっています。

まちの選択も同じです。「選ばれ方」が問題なのです。ファーストベスト（最善）の選択か、セカンドベスト（次善）の選択かを区別しなくてはなりません。もちろん、前者に優先権があります。セカンドベストの選択は、いつでも交換の対象になります。居住地の選択には様々な問題が絡みます。予算の問題、時間の問題、家族規模の問題、環境の問題などなど。

高度成長時代に端を発した地方の余剰人口は、一斉に東京、大阪、名古屋、福岡などの大都市を目指しました。ちなみに東京都は年間 30 万人規模の人口増加が続きました。ですから都心部の家賃も地価のうなぎのぼりで、宅地開発の重点は郊外に移ります。

こうして「郊外時代」が生まれましたが、郊外居住を選択した人たちの大半には、セカンドベストの選択でした。それでも賃金上昇で専業主婦の増加、家族規模の拡大でもう一部屋欲しい、新しいライフスタイルの戸建て居住へのあこがれもありますが、私鉄各線の郊外延線と都心部乗り入れで郊外時代は加速化してゆきます。住宅ローンもなんとか組めるという経済制約とぎりぎりの時間制約から、都心では叶えられない居住サービスを求め郊外へというセカンドベストの選択が行われたのです。

バブル崩壊とともに始まった遊休地の一斉放出で、新たに生まれた都心部の若干値段高めの大規模マンションも、共働きでローン返済可能で通勤時間も大幅に節約と、都心回帰は一石二鳥のファーストベストの選択となります。家族規模も縮小し 2005 年に「都心回帰の時代」が本格化します。

コロナの蔓延で一時都心部の人口の 5 万人ほどの減少が起こりますが、その住み替えの選択対象は、23 区に近い、川崎、横浜、埼玉、千葉で 90%。残りの 10%が多摩地域のなるべく都心部に近いところ。多摩地域の都心アクセスは劣位なのです。共働きは、経済制約よりも時間制約のほうにウエイトを移しますから、コロナ感染の沈静化で再び都心回帰が戻ることになります。

では人口減少時代の今日、多摩地域はセカンドベストの地位を解消できるのか。『鏡の国のアリス』の中で意地悪な「赤の女王」は、「そこに留まりたかったら、一生懸命走りなさい」と命令します。まさしく、今の多摩地域に必要なアドバイスなのです。この状況をしっかり押さえた上で、学生の皆さんには若者らしい「まちづくり・ものづくり」をデザインして欲しいのです。今年度も力作が多かったことは認めます。しかし、局所最適な取り組みが目立ったことも確かです。何ものにも囚われない若い発想で、多摩の重大課題の発見・学問的に裏付けられた調査研究・そして実効的な解決策の提示という手際よい展開をこれからも大いに期待したいと思います。明年度も意欲的な応募作が寄せられることを、今から楽しみにしております。今年度応募された全学生諸君、そして懇切にご指導くださった先生方、本当にご苦労様でした。

第１章
実施概要

第９回多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション 2023
まちづくり・ものづくり部門　概要

■ テーマ　多摩の明るい未来は、挑戦する君達によって拓かれる！

■ 目　的

多摩地域は都心回帰の動向、中心市街地の商店街の衰退、生活圏の広域化に伴う行政圏との齟齬、少子高齢社会の進展と自治体財政のひっ迫といった「生活に直結」する地域課題に直面しています。これら課題の抜本的な解決に、何ものにも縛られない若い学生達の新鮮で革新的なアイデアが求められています。

単なる狭域的な地域課題としてとらえるのではなく、多摩全体の問題を言う視点で考えると同時に、全国各地域で同様に直面している課題としてとらえて欲しいのです。短期的解決が可能なものと中長期的な取り組みが必要とされるものなど、多摩地域は“多種多様な課題の最先端地域”であるという見方もできます。都会から中山間地まで控えた多摩地域の課題を君たちのアイデアで解決をすることが、日本全国の課題解決につながる先進事例となることが期待できるのです。

そして、課題を解決するための資源も多摩地域に満ちあふれています。たとえば、古くからの豊かな自然環境、地域固有の文化に加え、多数の高等教育・研究機関、大中小の先端企業も集積しています。ですから、新旧織り交ぜた地域資源を十分に活用できる強みを活かすことができます。

本事業は、産学官連携のフロンティアを常に拡張することを通じて人材育成を行う使命（「まちづくりはひとづくり」）を旗印に、地域活性化事業を率先して実践している（公益社団法人）学術・文化・産業ネットワーク多摩を代表する事業の一つです。

本事業を通して、多摩地域の若い人材とアイデアを発見するとともに、若者からの提案が行政やコミュニティ、中小企業、商店街などを含めた多摩地域全体の“元気”につながり、多摩地域の魅力づくりの一助となることを目指します。と同時に参加する学生諸君の「学術的な成長」も併せて目的としております。

地域が抱える重要課題の発見を通じて、机上のプランから抜け出し、キャンパスと現場の往復過程を伴うフィールドワークの成果をどのように活かしていくか、そしてサイエンス（理論）とアート（方法）が有機的につながった斬新かつ革新的な作品を大いに歓迎します。

どうか多摩の明るい未来創造のため、若い学生諸君の力を貸してください。

■ エントリー部門

まちづくり・ものづくり部門

①まちという空間の社会的・経済的・文化的活動による地域活性化への貢献につながるもの

②ソフトも含めリアルとヴァーチャルのいずれの存在で社会問題の解決につながるもの

● **審査委員からの推奨テーマ**

「多摩の人口高齢化と団地再生の必要性と対策」

上記テーマに興味を持たれたゼミはぜひこちらのテーマでの応募をしてください。

● **審査委員からの推奨キーワード**

下記のキーワードを提案いたしますので、テーマ設定の参考になればよいのではないかと審査委員から意見がありました。

キーワード一覧

「空き家問題・AI 活用・デジタル社会・ゼロカーボン・外国人労働者・多様性・子育て・女性活躍・農と食」

もちろん、従来のように上記テーマ、キーワード以外の自由な内容での応募も受け付けています。

■ エントリー資格

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩加盟の大学・短大・高専のゼミ・研究室または担当教職員の元で活動を行っている学生団体

■ 第一次審査（予選）

エントリーシートによる書類審査

第一次審査は、エントリーシートから提案のオリジナリティや実現性、効果の有用性を採点し、第二次審査に進む団体を 10 団体程度に絞らせていただきます。

エントリー期間　　2023 年 7 月 5 日（水）～ 19 日（水）15 時

エントリー方法

● ホームページからエントリーシートをダウンロード

● machidukuri@nw-tama.jp へ提出

審査と配点

各界において第一線で活躍する方々に審査をお願いし、統計学的計算により偏りを調整した得点で評価をします。

第一次審査合格発表　　2023 年 9 月 5 日（火）

ホームページで発表します。

審査項目と配点基準（第１次審査）

審査項目	配点
オリジナリティ	15 点
分析方法の妥当性、信頼性	5 点
結果考察の客観性	10 点
提案の実現性、社会的有用性	15 点
記述表現力	5 点
合　計	50 点

■ 第二次審査（本選）

第二次審査は、第一次審査を合格した団体によるプレゼンテーションを審査させていただきます。
当日発表に使うプレゼンテーションのデータは事前に提出をしていただきます。

日　時　　2023 年 11 月 25 日（土）10:00 ～ 17:30（予定）

詳細は第二次審査の通過団体にお知らせします。

発表形式

プレゼン発表形式

- 10 分以内
- タイムオーバーは 2 点減点。
- 自己紹介等の時間は上記に含まない。
- ファイル形式は、Microsoft　PowerPoint（画面サイズ 16：9）

審査と配点

各界において第一線で活躍する方々に審査をお願いし、統計学的計算により偏りを調整した得点で評価をします。

提出物の提出期間　　2023 年 11 月 1 日（水）～ 10 日（金）15:00

審査項目と配点基準（第 2 次審査）

審査項目	配点
オリジナリティ	10 点
分析方法の妥当性、信頼性	10 点
結果考察の客観性	20 点
提案の実現性、社会的有用性	5 点
プレゼンテーション力	5 点
合　計	50 点

■ 表彰内容と研究費

学術賞

最優秀賞　1 団体　　100,000 円
優 秀 賞　2 団体　各 50,000 円
奨 励 賞　数団体　各 30,000 円

ビジネス賞

ビジネス大賞　1 団体　　100,000 円
ビジネス優秀賞　2 団体　各 50,000 円
ビジネス奨励賞　数団体　各 30,000 円

■ 団体への注意と連絡事項

・期日後や当日のデータの差し替えは原則不可。差し替えた場合は審査無効とする。
・データ未提出の団体はコンペティションを辞退したとし、プレゼン発表は行えない。
・データ修正がある場合は、当日発表時間内で説明を行うこと。
・修正版資料を配布したい場合は、発表前に審査委員へ配布して下さい。
・1ゼミ・1研究室（3団体）までのエントリーとし､学生団体は担当教職員の元で活動を行うこと。
・プレゼン発表で使用するファイルの形式は、Microsoft PowerPoint（16:9）で使用すること。
・プレゼン発表では事務局が用意するPC（Windows10 Pro）を使用します。
・事務局からの連絡は、団体代表者（学生）を通じて連絡をする。
・学生は懇親会・結果発表・閉会式まで参加とし、審査委員及び協力企業機関担当者との交流を図ること。
・懇親会費は非加盟機関5,000円（１人)、学生は無料とする。※院生は5,000円とする。

■ スケジュール一覧

1, まちづくり・ものづくり部門

日付	内容
7月5日（水）	エントリー開始
7月19日（水）15：00	エントリー締め切り
9月5日（火）	第一次審査発表
9月12日（火）	第二次審査出場団体への連絡
11月1日（水）	第二次審査データ受付開始
11月10日（金）15:00	第二次審査データ提出締め切り
11月25日（土）	第二次審査（本選）・表彰式

■ 運　営

主催：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩
協賛：エム・ケー株式会社／金澤建設株式会社／たなべ物産株式会社／東洋システム株式会社／株式会社メトロール／吉野化成株式会社／京西テクノス株式会社／株式会社吉増製作所
株式会社立飛ホールディングス
後援：昭島市／国立市／小金井市／立川市／多摩市／八王子市／日野市／福生市／町田市／公益財団法人東京市町村自治調査会
協力：ネットワーク多摩加盟機関

第２章

審　査

審査委員紹介

プログラムエグゼクティブ

細野　助博　　公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩　専務理事
中央大学　名誉教授

審査委員長

八木　敏郎　　公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩　副会長
多摩信用金庫　会長

副審査委員長

西浦　定継　　公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩　常務理事
明星大学　教授

審査委員

雨宮　克也　　三井不動産 株式会社　建設企画部長
三井不動産エンジニアリング 株式会社　代表取締役社長
飯島　泰裕　　青山学院大学　社会情報学部社会情報学科　教授　※一次審査のみ
井上　成　　三菱地所 株式会社　エリアマネジメント企画部　担当部長
荻島　正義　　福生市　企画財政部 企画調整課　課長
木内　基容子　公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩　常務理事
八王子市　副市長
久保　憲一　　一般社団法人立飛総合研究所　理事長
小林　久恵　　エム・ケー 株式会社　専務取締役
高田　康宏　　町田市　政策経営部企画政策課　担当課長
田中　準也　　立川市　副市長
田渕　隆俊　　中央大学　国際経営学部　教授
東浦　亮典　　東急株式会社　常務執行役員　フューチャー・デザイン・ラボ沿線生活創造事業部長
波戸　尚子　　日野市　副市長
早川　修　　昭島市　副市長　※一次審査のみ
永澤　貞雄　　昭島市　企画部長　※二次審査のみ
平井　宏一　　独立行政法人都市再生機構　東日本賃貸住宅本部多摩エリア経営部ストック活用計画課
課長　※一次審査のみ
小澤　一郎　　独立行政法人都市再生機構　東日本賃貸住宅本部多摩エリア経営部　次長　※二次
審査のみ
簑島　紀章　　国立市　政策経営部 政策経営課　政策経営課長
村井　隆三　　医療法人社団おなか会おなかクリニック　理事長・院長
元木　博　　東京都市長会　事務局　企画政策室長
矢部　俊男　　森ビル 株式会社　都市開発本部計画企画部メディア企画部　参与
和田　清美　　東京都立大学　都市環境学部　名誉教授・客員教授

エントリー団体一覧

エントリーNo.	学校名	ゼミ名・団体名	チーム名	タイトル
1	中央大学	宮本ゼミ	レンコン	コツコツ増やそうできること！
2	中央大学	FLP 山﨑ゼミ	FLP 山﨑ゼミ　C 生	多摩団地のコミュニティ再生
3	明星大学	熊本ゼミ	Official 日野団 dism	あつまれゲームの団地
4	玉川大学	長谷川ゼミ	町田地域活性化隊	Z 世代向けのイベントづくり in 町田
5	創価女子短期大学	国分ゼミ	創短 SWANS	私たちが一生住みたいまちづくり
6	玉川大学	体育・スポーツ教育学ゼミ	ほな、坂いこかー？	坂のまち元気プロジェクト
7	法政大学	杉浦ゼミ	江戸東京野菜チーム	江戸東京野菜 de 学食
8	亜細亜大学	後藤康浩ゼミ	チームミライ	高齢者のリバビリティを高めることが、多摩地域を活性化する
9	亜細亜大学	後藤康浩ゼミ	Agog	多摩市にアミューズメントパークを作ろう
10	亜細亜大学	卒業研究ゼミナール	あいすくりぃむ	新たな団地の可能性
11	中央大学	宮本ゼミ	宮本塾	学びの街、八王子市へ！
12	中央大学	宮本ゼミ	さとる食堂	さとる食堂で子供たちの貧困を救おう！
13	亜細亜大学	高石ゼミ	ビストロアジア	八王子産サラダボウル
14	法政大学	水野研究室	CREW	実践型教育プログラム「Camp in Campus」
15	創価女子短期大学	青野ゼミ	多摩活性化 A7	多摩団地活性化プロジェクト
16	玉川大学	長谷川ゼミ	sun	大学から１番身近な地域問題を解決して、よりよい関係を築いていく。
17	和光大学	公共政策ゼミナール	グループ A	ちょこサイ通勤
18	亜細亜大学	高石ゼミ	Re. 多摩団地	Tama Awesome Shops
19	亜細亜大学	高石ゼミ	AUSP	年中楽しめることができるアウトドアサウナ
20	東京都立大学	都市政策科学科	チーム smkhk	ラジオ体操でみんなが元気に！

エントリー No.	学校名	ゼミ名・団体名	チーム名	タイトル
21	東京都立大学	都市環境学部 都市政策科学科	チーム A	「多摩大祭り」によって祭りを復興
22	玉川大学	立野ゼミ	立野ゼミ第２班	児童養育施設建設計画
23	創価大学	勘坂ゼミ	えすでぃーじー 湯	八王子の銭湯を学生で活性化
24	明星大学	明星大学経済学 公認団体 EADS	EADS多摩コン支部	商店街から作る地域発展
25	法政大学	杉浦ゼミ	A 班	多摩の空き家活用
26	玉川大学	石川ゼミ	こうじのお庭	かつての賑わいを取り戻す多摩地域団地再生プロジェクト
27	玉川大学	立野ゼミ	立野ゼミ第１班	商店街巡りでポイント GET 連携スタンプラリー in 高尾
28	創価大学	安田ゼミ	耀	建設現場における仮設トイレの悪臭問題を解決
29	亜細亜大学	白井ゼミ	多摩リベンジャーズ	多摩リベンジャーズ
30	創価大学	安田ゼミ	eyes	誰もが排泄を我慢しなくていい登山街道へ
31	法政大学	杉浦ゼミ	チーム３	魅力発見！

第一次審査結果

【第一次審査合格チーム】

エントリーNo.	学校名	ゼミ名・団体名	チーム名	タイトル
1	中央大学	宮本ゼミ	レンコン	コツコツ増やそうできること！
2	中央大学	FLP 山﨑ゼミ	FLP 山﨑ゼミ　C 生	多摩団地のコミュニティ再生
3	明星大学	熊本ゼミ	Official 日野団 dism	あつまれゲームの団地
6	玉川大学	体育・スポーツ教育学ゼミ	ほな、坂いこかー？	坂のまち元気プロジェクト
7	法政大学	杉浦ゼミ	江戸東京野菜チーム	江戸東京野菜 de 学食
8	亜細亜大学	後藤康浩ゼミ	チームミライ	高齢者のリバビリティを高めることが、多摩地域を活性化する
12	中央大学	宮本ゼミ	さとる食堂	さとる食堂で子供たちの貧困を救おう！
14	法政大学	水野研究室	CREW	実践型教育プログラム「Camp in Campus」
18	亜細亜大学	高石ゼミ	Re. 多摩団地	Tama Awesome Shops
20	東京都立大学	都市政策科学科	チーム smkhk	ラジオ体操でみんなが元気に！
21	東京都立大学	都市環境学部都市政策科学科	チーム A	「多摩大祭り」によって祭りを復興
30	創価大学	安田ゼミ	eyes	誰もが排泄を我慢しなくていい登山街道へ

第二次審査結果

【学術賞】

各賞	エントリーNo.	大学名　ゼミ名・団体名　チーム名 タイトル
最優秀賞	30	創価大学　安田ゼミ　eyes 誰もが排泄を我慢しなくていい登山街道へ
優秀賞	14	法政大学　水野研究室　CREW 実践型教育プログラム「Camp in Campus」
優秀賞	18	亜細亜大学　高石ゼミ　Re. 多摩団地 Tama Awesome Shops
奨励賞	2	中央大学　FLP 山﨑ゼミ　FLP 山﨑ゼミ　C 生 多摩団地のコミュニティ再生
奨励賞	3	明星大学　熊本ゼミ　Official 日野団 dism あつまれゲームの団地

【ビジネス賞】

各賞	エントリーNo.	大学名　ゼミ名・団体名　チーム名 タイトル
ビジネス大賞	30	創価大学　安田ゼミ　eyes 誰もが排泄を我慢しなくていい登山街道へ
ビジネス優秀賞	2	中央大学　FLP 山﨑ゼミ　FLP 山﨑ゼミ　C 生 多摩団地のコミュニティ再生
ビジネス優秀賞	18	亜細亜大学　高石ゼミ　Re. 多摩団地 Tama Awesome Shops
ビジネス奨励賞	7	法政大学　杉浦ゼミ　江戸東京野菜チーム 江戸東京野菜 de 学食
ビジネス奨励賞	14	法政大学　水野研究室　CREW 実践型教育プログラム「Camp in Campus」

第３章

表彰団体

エントリー No.30

創価大学　安田ゼミ　eyes

最優秀賞・ビジネス大賞

対象地域：多摩地域

誰もが排泄を我慢しなくていい登山街道へ

～ゼロカーボンシティへの実現の一助に～

キーワード：仮設トイレ、登山、山のトイレ、携帯トイレ、ゼロカーボン

メンバー　小田川一弘・上運天香太郎・安藤秀一・高承佑・西ノ原龍馬　　担当教員　安田賢憲

まちづくりの目的・概要

【概要】

私達は多摩地域にある山のトイレ設置数が少ないという問題の改善を通して、トイレ環境の整備を目指し、携帯トイレ利用の環境作りを行う。また、施策を通してゼロカーボンの推進にも寄与したい。

【現状】

多摩地域は東京都屈指の登山地域であるが、登山口や山小屋のみトイレが設置され、山道にトイレが少ない現状にある。独自アンケート（n=53）によると、71.6% の登山客はトイレの数の少なさを感じている。しかし、新しいトイレの設置は容易ではない。なぜなら、環境省（2019）によると、新しいトイレの設置には 700 万～ 5800 万円と多額の費用がかかるからだ。したがって、山のトイレ数の不足に対して、新しいトイレの設置は困難である。

【ターゲットの特徴】

トイレ不足の問題を特に抱える登山客は女性である。総務省（2021）によると登山・ハイキングを行う人は 861.4 万人で、この内 46.7％が女性である。また、登山客を対象にした独自アンケート（N ＝ 114）でも 49.2％が女性であり、特に女性から登山道での野外排泄に関して恥ずかしさや安全性の不安の声が多く挙げられた。

【課題】

トイレ不足問題の解決策として、常設・仮設トイレがない場所でも排泄が可能な「携帯トイレ」に着目する。しかし、20 代女性の登山客から「携帯トイレは持っているが使用経験がない」という声など、登山客は携帯トイレの使用に消極的であることが判明した。そして、独自ヒアリングか

ら課題は次の 2 点である事が分かった。

1 点目は、携帯トイレ使用時のプライバシーの確保が困難なことだ。実際、20 代女性の登山客から「草むらや茂みがあっても人の目が気になる。仕切りは絶対に欲しい」などの声を聞いた。

2 点目は、使用済みの携帯トイレは廃棄が困難なため、登山中に持ち歩かなければいけないことだ。独自アンケート（n = 61）によると、登山客の 37.5% は「使用済みの携帯トイレの廃棄が困難」なことを理由に携帯トイレを使用していないと回答している。

【施策】

私達は、携帯トイレ、携帯トイレ用仮設テント（以下仮設テントとする）、携帯トイレ用ゴミ箱の 3 点の設置を提案する。施策によって、登山客は仮設テント内で携帯トイレを人目を気にせずに使用できる。そして、使用後は仮設テント近くの携帯トイレ用ゴミ箱へ廃棄する。この仮設テントは、8000 円程度と安価で設置が可能だ。また、携帯トイレ用ゴミ箱に「ミミズコンポスト」を導入することで、ゼロカーボンの推進にも寄与する。ミミズコンポストとは、有機廃棄物をミミズが分解することで、良質な土に変換する仕組みである。

施策により、多摩地域の登山におけるトイレ問題を改善し、多摩地域の山という観光資源の活性化への寄与とともにゼロカーボンの推進を目指す。

効果の見通し

【施策の効果】

登山客の「排泄の我慢」の改善と、携帯トイレ使用時のプライバシー保護が期待される。

【多摩地域全域の山の登山客全員に本施策が使用された場合の効果について】

多摩地域の登山客数は 67.1 万人、施策の年間利用回数は約 52 万回になると推定される。

その場合、推定 164.7t の使用済み携帯トイレを焼却処理する際に発生する二酸化炭素をゼロにすることが可能である。

先行研究・連携団体

【1 次情報】

登山客アンケート（N = 114）（2023 年 6 月 5 日～同年 6 月 18 日実施）https://docs.google.com/forms/u/1/d/1eKqAONE59IS70vZk62Ti4Y50363twFy1bOs9_mppP3Q/edit?usp=drive_web

登山客ヒアリング（N=7）（2023 年 6 月 21 日～同年 7 月 14 日実施）

多摩地域の管理所へのヒアリング（N=5）（2023 年 7 月 12 日～同年 7 月 18 日実地）

多摩地域の市役所・役場へのヒアリング（N=4）（2023 年 7 月 12 日～同年 7 月 18 日実施）

山荘へのヒアリング（N=2）（2023 年 7 月 13 日～同年 7 月 15 日実施）

【2 次情報】

多摩市（2023）「気候非常事態宣言を共同で表明しました」https://www.city.tama.lg.jp/kurashi/kankyo/ondanka/1002199.html（閲覧日：2023 年 7 月 19 日）

総務省統計局（2021）「令和 3 年社会生活基本調査の結果（総務省統計局）生活行動に関する結果スポーツ全国」https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/index.htm（閲覧日：2023 年 7 月 19 日）

環境省（2019）「国立公園等における山岳環境保全のあり方に係る検討会」https://www.env.go.jp/nature/%E8%B3%87%E6%96%995_riyousyahutangakunosanntei%EF%BC%88suitei%EF%BC%89.pdf（閲覧日：2023 年 7 月 19 日）

アピールポイント

①当事者の生の声を大切に活動している。登山客については、多摩の山岳地域に直接足を運び、114 名へのアンケート調査や 7 名へのデプスヒアリングを行った。また、長野県の乗鞍高原や名古屋市の夏山フェスタにて、トイレ問題に耳を傾けてきた。山の管理者についても、多摩環境事務所など計 15 名にヒアリングを行った。

②多摩地域のビジョンであるゼロカーボンの実現可能性がある施策を検討している。ゼロカーボンという全国的に取り組むべき課題に着目し、施策を提案する。

担当教員からのコメント

この度、学生が最優秀賞ならびにビジネス大賞を頂戴でき、担当教員として大変光栄であり、嬉しく思っております。この結果は多くの方にご支援を賜ることができたからこそであり、ご厚情を賜った全ての方に深謝申し上げます。

ここで、私がゼミ運営で心がけていることを簡単に紹介させていただきます。私が最も心を砕いていることは、ゼミに集ってくれた学生がワンチームになる環境を整えることとやればできる！と思ってもらうことです。そのために、①学生に目的意識を持ってもらうこと、②学生と信頼関係を築くこと、③チーム活動に際して目的と手段を混同しないようにアドバイスすること、などに留意しています。

まず、目的意識を持ってもらうために「学ぶ意義」を語るようにしています。そのためにゼミ活動を通して学んだ知識を知恵に転換するスキルを磨くと同時に、人間的な成長を期待していることを学生に伝え、「誠実」「挑戦」「感謝」「常に問え」「限界突破」「結果にこだわる」等の価値観を磨いていこうと語っています。というのも、これら価値観は社会で信頼を勝ち取る源泉であり、将来、学生が苦境に陥った時の糧になると考えているためで、その重要性を折々に語っています。また親御さんが高い学費を支払ってくれているのは、子供の幸せを願っているからであり、周囲には君の幸せや成長を願っている人が数多くいるはずで、その人達に恩返しするために成長しよう！と周囲の期待に気づくように働きかけています。その上で、ゼミ活動を通して自分がどうなりたいのかをしっかり考え、この一年、スキルと価値観を磨くために自分に時間を投資していこう、と何度も語るようにしています。

次に、信頼関係を築くために「対話」と「励まし」を意識的に行っています。対話では、学生の価値観や特性を理解することに努め、ゼミ活動でどんな挑戦をすることでどんな成長ができるのかを一緒に考えるようにしています。また、日々の活動の中で、学生の挑戦や努力している点を見つけ、褒め、感謝するようにしています。また、失敗した時には激励を基調に、何が悪かったのか、次にどういうアクションをすればいいのかなどを一緒に考えるように努めています。

最後に、目的と手段を混同しないために、本学創立者が語った「事業を左右せよ、事業に左右されるな。」とのビジネス指針を適宜伝え、学生が自身の取り組みが誰の何のためのものなのか、を常に意識するように気を配っています。とりわけ、提案活動は当事者を中心とする全ての利害関係者に喜んでもらうことが目的であり、知識を活用することはその手段にすぎず、提案活動のために当事者を利用してはならない、とアドバイスしています。

毎年、学生は変わりますし、問題関心も異なるため、「今年はうまくいくのだろうか」との思いを持ちながら、薄氷を踏む思いで学生に伴走しています。また、上記のようなことをきめ細かく実践するには、時間がいくらあっても足りません。その為、ゼミ活動経験者の上級生に一緒に後輩のサポートをしてくれるようにお願いしています。幸い「後輩を自分以上の人材に！」との気概で共に汗してくれる上級生や卒業しても後輩サポートに関わってくれる OBOG がおり、本当に有り難

く思っています。

振り返ってみると、私は学生に育ててもらっている、と感じます。日々、学生の成長を信じ、待つ難しさ、自分の弱さを認め、乗り越える難しさ、などに直面していますが、学生の真っ直ぐさ、健気さに触れ、ハッとさせられることが少なくありません。引き続き、学生第一を胸に、社会に資する人材育成に邁進して参りたいと思っています。

プレゼンテーション資料

川苔山登山口
Mt.Kawanori entrance
百尋の滝
Hyakuhirono Waterfall

多摩の振興プラン

～人の暮らしと自然が調和し、誰もが輝くまちを目指して～

自然環境の保全と調和

観光資源としての自然の活用

出典：東京都総務局行政部振興企画課（https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/05gyousei/sinkou/tama_shinkouplan2/tamaplan200.pdf/　閲覧日：2023年7月16日）

eyes

小田川一弘
上運天香太郎
西ノ原龍馬
安藤秀一
濱諒生
Ko Seungwoo

7

多摩地域登山の現状

現状分析

多摩地域の山岳数

多摩地域の登山客数

約24.1万人（推定）

約12.8万人　約11.3万人

出典：日本山岳会東京多摩支部（2022）「多摩百山」（https://jac.tokyo/tama100/ 閲覧日:2023年7月28日）
総務省統計局（2021）「令和3年社会生活基本調査の結果　生活行動に関する結果　スポーツ全国」
（https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/index.htm/ 閲覧日:2023年8月2日）

8

トイレ問題が発生しやすい山の条件

現状分析

山道にトイレが設置されていない

トイレ間の距離が遠い(登山時間5時間以上)

多摩地域でこの条件に当てはまる山の代表例

雲取山
2,017m
登山ルートによって
トイレ間の距離が遠い

川苔山
1,336m
山道に
トイレがない

10

登山客が抱える登山中の トイレ問題について分析するアンケート調査

アンケート人数
227人

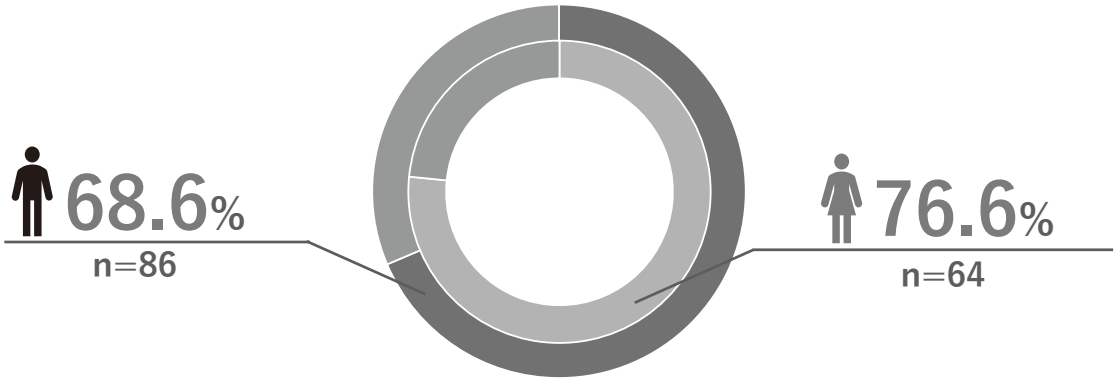
川苔山などへの
実地調査回数
6回

11

出典：独自アンケート（N=227）実施期間2023年7月~11月

山にトイレがなく困った登山客の割合

現状分析

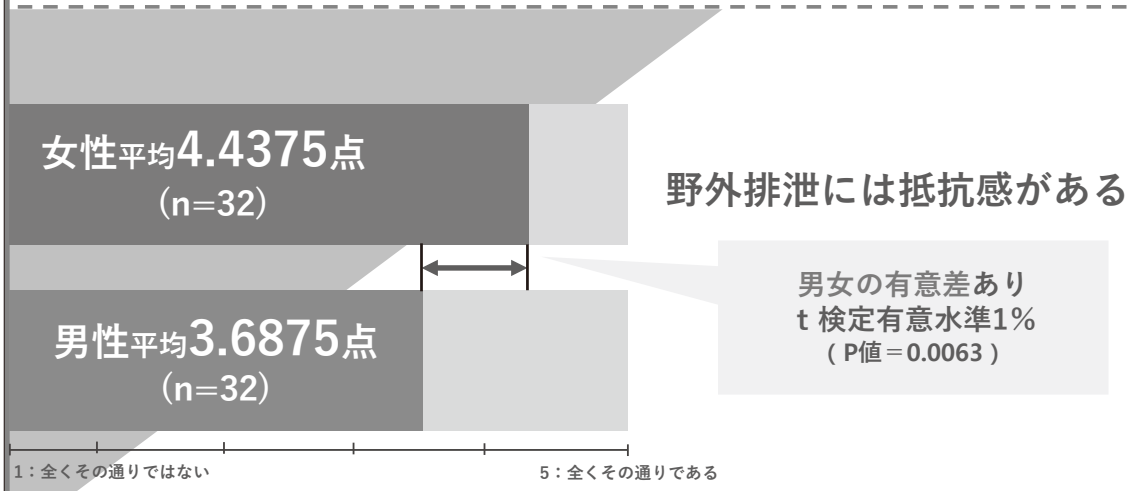


出典：独自アンケート（N=153）実施期間2023年7月~11月

12

男女別の野外排泄への抵抗感

現状分析



野外排泄には抵抗感がある

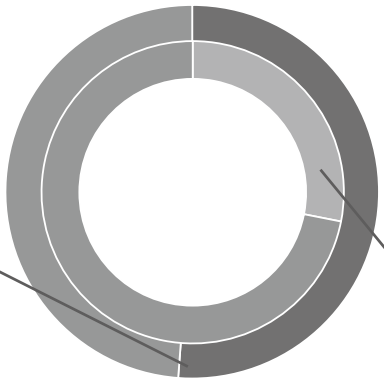
男女の有意差あり
t 検定有意水準1%
（P値＝0.0063）

出典：独自アンケート（n=65）実施期間2023年10月～11月

13

山での野外排泄経験がある登山客の割合

現状分析



51.2%
n=86

28.1%
n=64

男女の回答に有意差あり
カイ二乗検定 有意水準1%
（P値＝0.0072）

出典：独自アンケート（N=153）実施期間2023年7月～11月

14

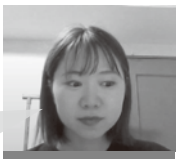
女性登山客ヒアリング

現状分析

50代　女性

トイレがあるかないかで
登山できる山が制限されてしまう

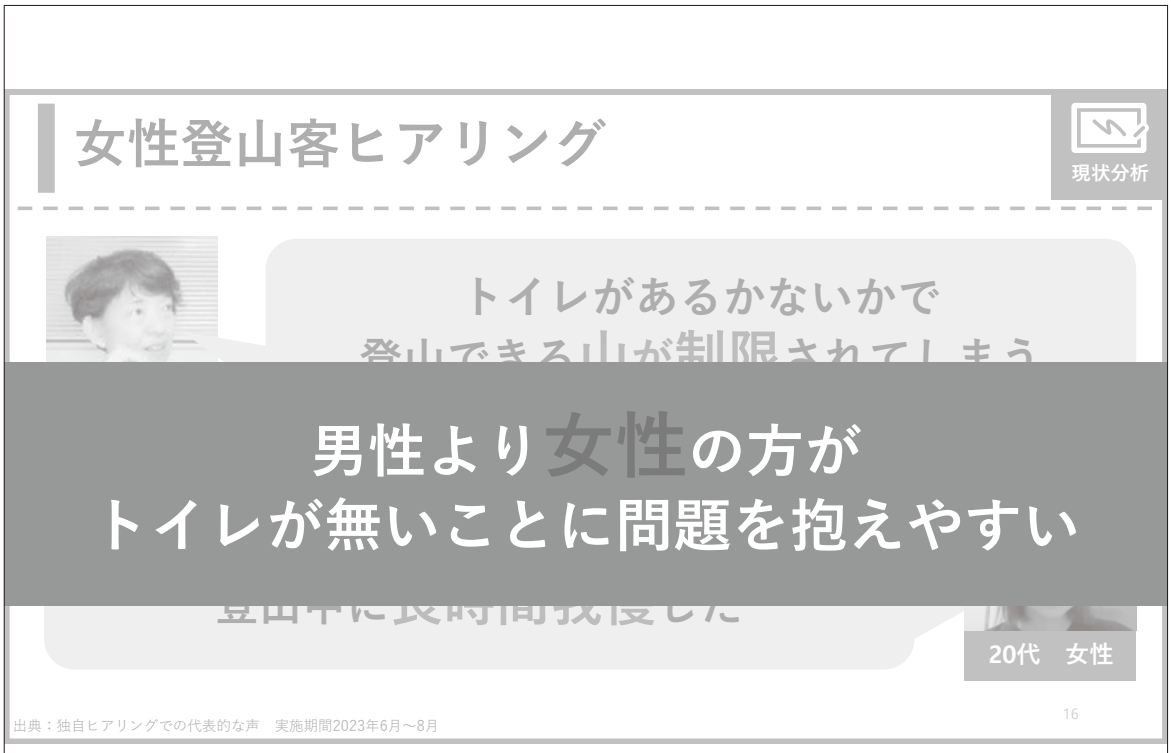
登山口にしかトイレがなく
登山中に長時間我慢した



20代　女性

出典：独自ヒアリングでの代表的な声　実施期間2023年6月～8月

15


女性登山客ヒアリング
現状分析
トイレがあるかないかで
登山できる山が制限されてしまう
男性より女性の方が
トイレが無いことに問題を抱えやすい
登山中に長時間我慢した
20代　女性
出典：独自ヒアリングでの代表的な声　実施期間2023年6月～8月
16

トイレ問題が発生する要因

原因分析

管理者視点

東京都環境局

登山客視点

18

奥多摩地域の山のトイレの管理

原因分析

管理者視点

東京都環境局

奥多摩にある山岳のトイレは
東京都の多摩環境事務所が管理している

19

トイレ問題の発生要因(管理者)

原因分析

維持管理の手間と設置条件から
トイレを増設できていない

常設トイレ

仮設トイレ

多摩環境事務所
自然環境課
自然公園担当：Mさん

設置条件…
インフラ整備状況「電気・水道が通っているか ・運搬のための道路整備がされているか」
地理的特徴「平地なのか・岩場なのか」

出典：独自ヒアリングより　実施日：2023年7月18日

20

トイレ問題の発生要因(登山客)

原因分析

登山客視点

登山用に携帯トイレを購入しているが
携帯トイレを使っていない

21

携帯トイレとは

原因分析

移動中や屋外などの緊急時に使用される
持ち運びができるコンパクトなトイレ

使用方法

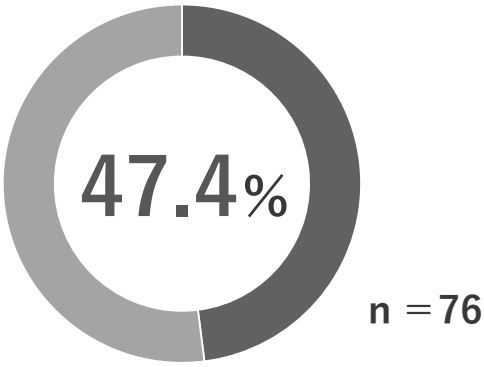
出典：「株式会社エクセルシア社HP」（https://excelsior-inc.com/products/hotilet.html/ 閲覧日:2023年8月2日）

22

携帯トイレ購入率

原因分析

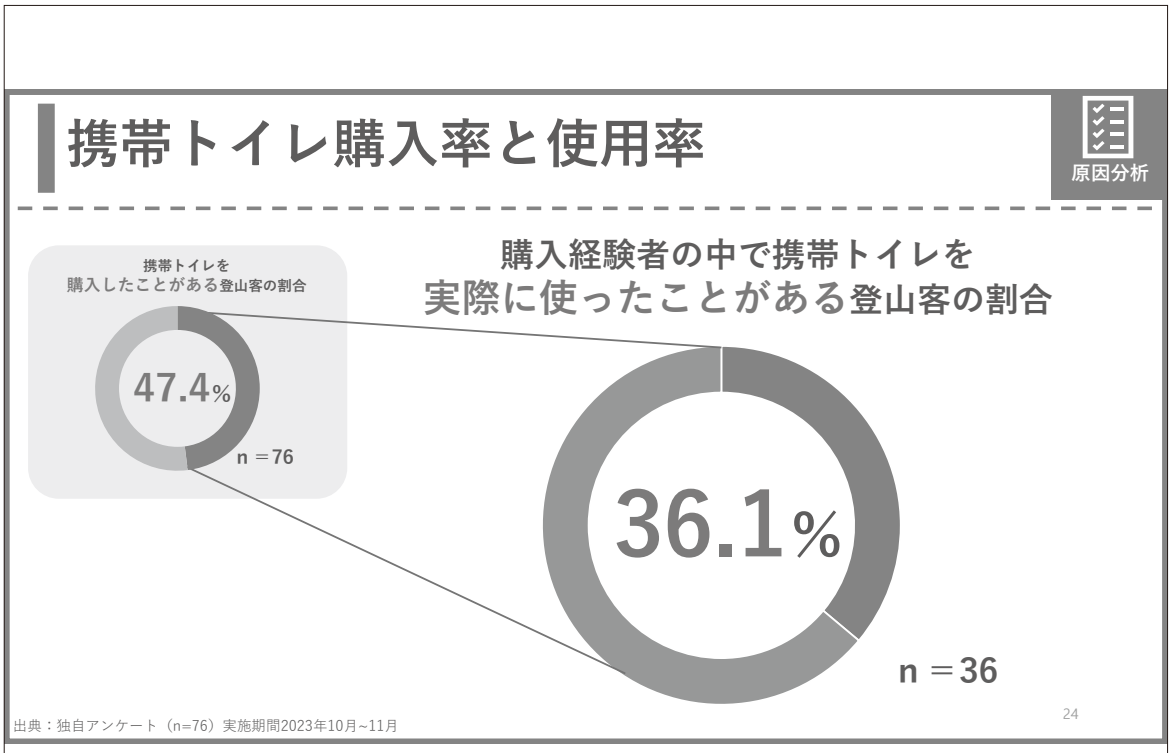
携帯トイレを
購入したことがある登山客の割合

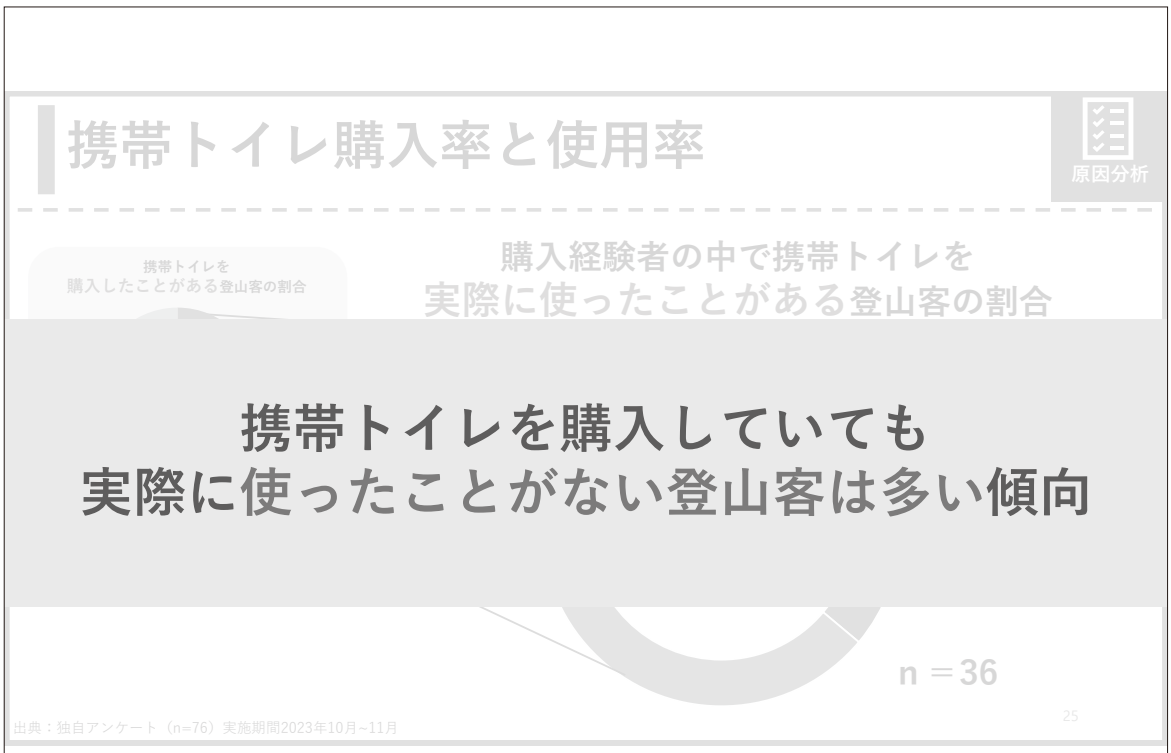


n ＝76

出典：独自アンケート（n=76）実施期間2023年10月~11月

23


携帯トイレ購入率と使用率
原因分析
携帯トイレを
購入したことがある登山客の割合
47.4%
n ＝76
購入経験者の中で携帯トイレを
実際に使ったことがある登山客の割合
36.1%
n ＝36
出典：独自アンケート（n=76）実施期間2023年10月~11月
24


携帯トイレ購入率と使用率
原因分析
携帯トイレを
購入したことがある登山客の割合
購入経験者の中で携帯トイレを
実際に使ったことがある登山客の割合
携帯トイレを購入していても
実際に使ったことがない登山客は多い傾向
n ＝36
出典：独自アンケート（n=76）実施期間2023年10月~11月
25

携帯トイレを使わない理由

原因分析

他の登山客の
目線が気になる

使用済み携帯トイレを
家まで持ち帰りたくない

持ち歩く際の
臭いや漏れが心配

出典：独自ヒアリングより　実施期間2023年6月～8月

26

携帯トイレ使用時の周囲の目に関して

原因分析

①トイレがない場所で、携帯トイレを利用できますか？

②人目を遮るものがあれば、携帯トイレを利用できますか？

1：全くその通りではない　　5：全くその通りである

出典：独自ヒアリング（N=64）実施期間2023年10月～11月

27

携帯トイレ使用時の周囲の目に関して

原因分析

①トイレがない場所で、携帯トイレを利用できますか？

人目を遮るものがあることで
携帯トイレ利用への障壁は下がる

1：全くその通りではない　　5：全くその通りである

出典：独自ヒアリング（N=64）実施期間2023年10月～11月

28

使用後の携帯トイレの持ち帰りに関して

原因分析

使用後の携帯トイレを持ち運びたくないですか？

1：全くその通りではない　　5：全くその通りである

独自アンケート（N=64）実施期間2023年10月～11月

29

臭いや漏れの心配に関して

原因分析

使用済み携帯トイレを入れる専用のバッグがあれば登山中でも持ち歩けますか？

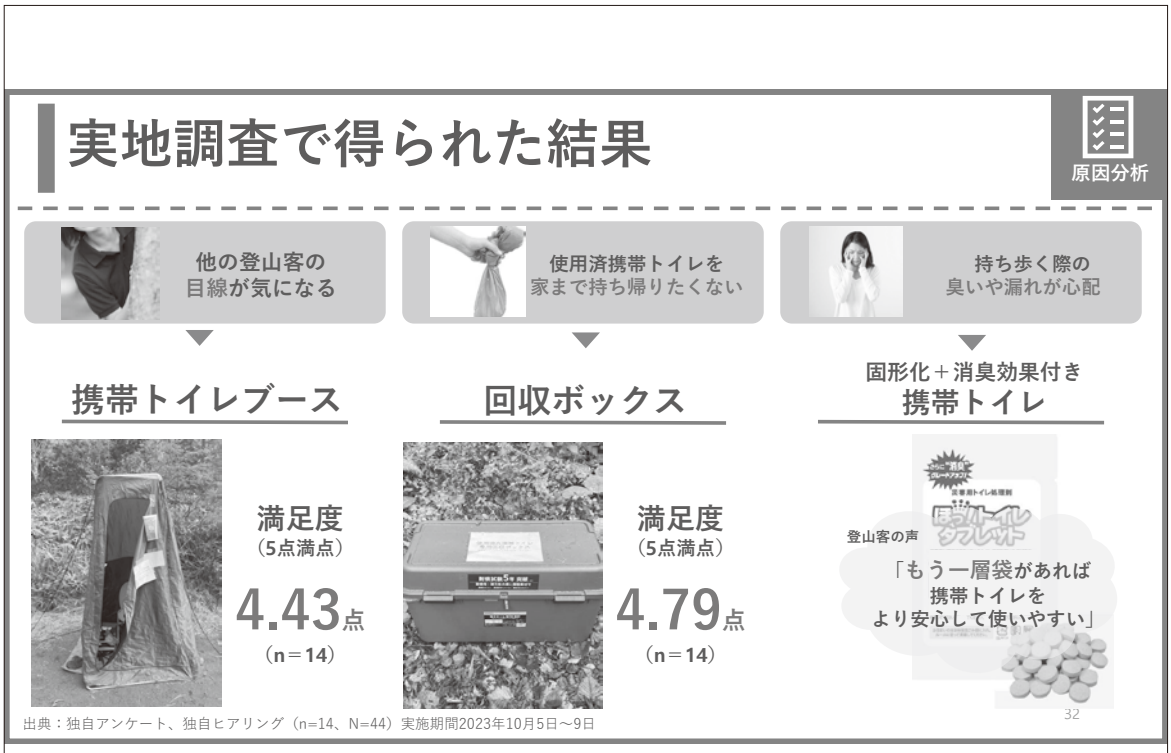
独自アンケート（N=64）実施期間2023年10月～11月

30

携帯トイレ普及に関する実地調査

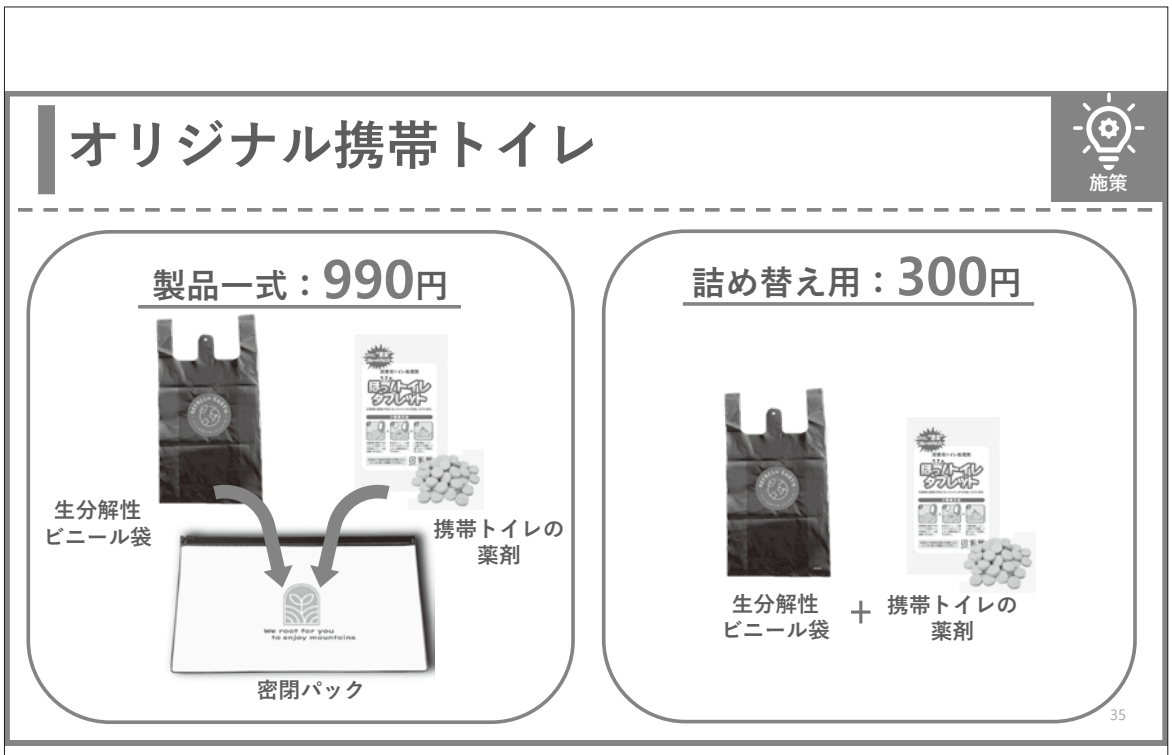
原因分析

31


実地調査で得られた結果
原因分析
他の登山客の
目線が気になる
使用済携帯トイレを
家まで持ち帰りたくない
持ち歩く際の
臭いや漏れが心配
携帯トイレブース
回収ボックス
固形化＋消臭効果付き
携帯トイレ
満足度
（5点満点）
4.43点
（n＝14）
満足度
（5点満点）
4.79点
（n＝14）
登山客の声
「もう一層袋があれば
携帯トイレを
より安心して使いやすい」
出典：独自アンケート、独自ヒアリング（n=14、N=44）実施期間2023年10月5日～9日
32

実地調査で得られた結果
原因分析
他の登山客の
目線が気になる
使用済携帯トイレを
家まで持ち帰りたくない
持ち歩く際の
臭いや漏れが心配
実地検証の情報を基にブース・回収ボックスの設置に加え
製品の改良を行い、問題解決を図る！
4.43点
（N＝14）
4.79点
（N＝14）
携帯トイレを
より安心して使いやすい」
出典：独自アンケート、独自ヒアリング（n=14、N=44）実施期間2023年10月5日～9日
33

～携帯トイレの利用促進プロジェクト～
eyes TATION
アイズステーション
We root for you
to enjoy mountains
オリジナル携帯トイレ
鍵付き回収ボックス
携帯トイレブース
34


オリジナル携帯トイレ
施策
製品一式：990円
生分解性
ビニール袋
携帯トイレの
薬剤
密閉パック
詰め替え用：300円
生分解性
ビニール袋
＋
携帯トイレの
薬剤
35

オリジナル携帯トイレ

施策

特長：
バッグの中に入れず
バックの外側に取り付ける新しい携帯トイレ

開発目的：
持ち歩く際の**臭いや漏れの心配を解消**し
使用へのハードルを下げる

36

オリジナル携帯トイレのニーズ調査

施策

外付けの密閉パックがセットに
なっているなら買いたいと思った！

中身が漏れてしまうことが心配だったので
対策できるなら使いたい！

出典：独自ヒアリングより　実施期間2023年11月

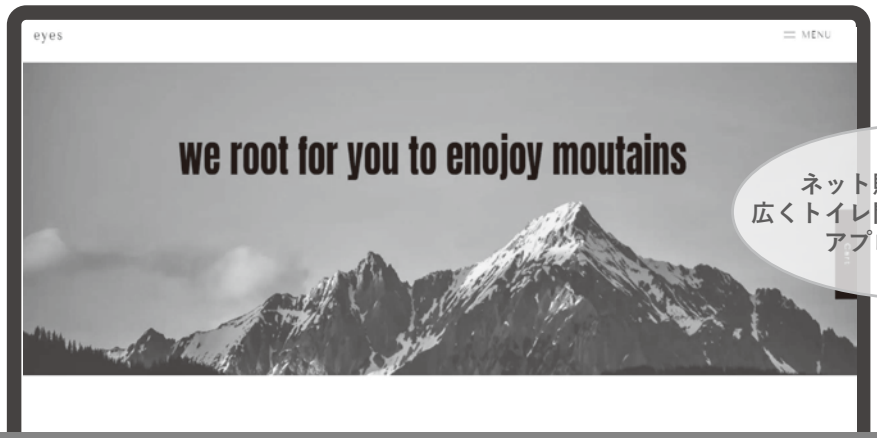
37

販売チャネル

サイトQRコード

施策

現地とインターネット



ネット販売を行うことで
広くトイレ問題を抱える登山客に
アプローチしていく

38

多摩地域の川苔山を中心に
多摩の山のトイレ環境整備を目指す

39

川苔山について

施策

多摩百名山
かわのりやま
川苔山
東京都奥多摩町　標高1,336m
登山時間　約5時間半　トイレなし

川苔山でトイレに
困ったことがある登山客の割合

55.1%　n＝89

出典：独自アンケート（n=89）実施期間2023年10月~11月

施策の導入場所（川苔山）

施策

41

ミミズコンポストについて

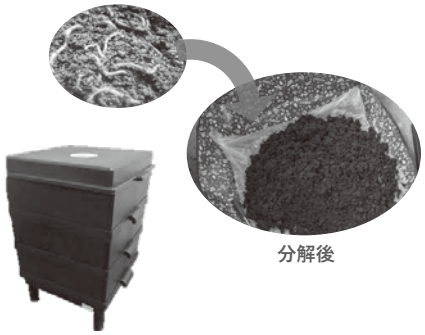
施策

生ゴミなどの有機物をミミズと微生物の力を借りて分解し黒く栄養価の高い堆肥に変える処理方法

目的：多摩の低炭素のまちづくりに寄与するため

手段：回収した携帯トイレゴミを堆肥に変換する

設置場所：八王子市にある創価大学にて管理する



出典：明るく伸びる光和（http://www.kowas.co.jp/mimizu/2017/10/11/item02/ 閲覧日:2023年7月17日）
ミミズコンポスト管理局（https://web.tuat.ac.jp/~mimicon/about/01.html/ 閲覧日:2023年7月17日）
光和商事（http://www.kowas.co.jp/mimizu/wp/wp-content/uploads/2020/08/mmz03-03.jpg /閲覧日:2023年7月17日）
みんなの趣味の園芸（https://www.shuminoengei.jp/?m=pc&a=page_image_slideshow&target_c_diary_id=821546&num=1/閲覧日:2023年7月17日）

42

ミミズコンポストについて

施策

従来：焼却処理

二酸化炭素排出量

2051.3kg/t

改善：ミミズコンポスト処理

二酸化炭素排出量

18kg/t

43

出典：NPO法人　生ごみリサイクル全国ネットワーク（http://www.namagomi-rz.sakura.ne.jp/index1/1tonsokyakuco2.pdf/閲覧日:2023年7月17日）

ミミズコンポストについて

施策

炭素量が約114分の１に！

ミミズコンポスト処理によって
低炭素社会の実現に貢献できる

2051.3kg/t

18kg/t

出典：NPO法人　生ごみリサイクル全国ネットワーク（http://www.namagomi-rz.sakura.ne.jp/index1/1tonsokyakuco2.pdf/閲覧日:2023年7月17日）

44

施策全体の流れ

施策

オリジナル携帯トイレ

①入山する前に携帯トイレを購入する

販売場所
・奥多摩駅前バス停（自動販売機）
・甲州屋（多摩大学松本ゼミ様）

携帯トイレブース

②ブース内で携帯トイレを使用する
③使用済み携帯トイレゴミを密封袋に入れる

管理者
・登山ガイド（ビストロきっちょむ登山隊様）

【行き】

奥多摩駅 → 駅前バス停 → 山付近バス停 → 登山口 → 登山口 → 鳩ノ巣駅

【往復コース帰り】

【縦走コース帰り】

回収ボックス

④下山時に使用済みの携帯トイレゴミを回収ボックスに入れる

管理者
・奥多摩総合開発株式会社様（通称：OPT）

＋

eyesが回収したゴミを
ミミズコンポストで堆肥化する
設置場所：創価大学

ミミズコンポスト

45

ビジネスモデル図

策

【eyesの活動】
・携帯トイレの仕入れ
・使用済み携帯トイレの処理
・ミミズコンポストの運営
・サイトの運営
・PR活動

EXCELSIOR
Eco Value Company
株式会社エクセルシア

薬剤
薬剤代金

eyes STATION
アイズステーション

運営代行費
業務内容

奥多摩総合開発株式会社
（通称：OPT）
使用済み携帯トイレの回収・一時保管

ビストロきっちょむ登山隊
携帯トイレブースのメンテナンス

施策提供
携帯トイレ
購入代金

登山客

多摩大学 松本ゼミ

西東京バス株式会社
オリジナル商品の販売

46

PR活動

施策

Google Ads
Google AdSense

Yama Hack
（日本最大の登山コミュニティ）
YAMA HACK

SNS運営
（Instagram, Facebook）

登山
インフルエンサー

47

PR計画

施策

2024年 4 月　6月　8月　10月　12月　2025年2月　4月

SNS(Instagram, Facebook)

KPI
フォロワー100

KPI
フォロワー300

KPI
フォロワー500

KPI
フォロワー700

Google Ads

KPI
毎月周知数：約53,000人

登山
インフルエンサー

KPI
購買者：314

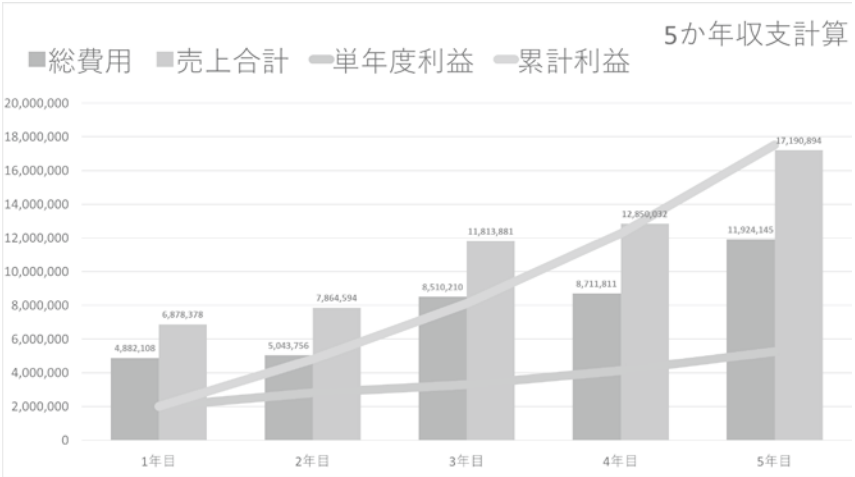
Yama Hack

KPI
周知数:700,000人

48

収支計算

施策



49

収支計算

施策

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
売上	新製品EC販売利益 (販売数x価格990円)	4,943,562	5,767,489	6,591,416	7,415,343	8,239,270
	EC販売数	4,993	5,826	6,658	7,490	8,322
	新商品自販機販売利益	1,127,412	1,127,412	3,382,236	3,382,236	5,637,060
	自販機販売数	1,139	1,139	3,416	3,416	5,694
	新商品松本ゼミ販売利益	14,850	14,850	14,850	14,850	14,850
	松本ゼミ販売数	15	15	15	15	15
	新商品販売利益合計	**6,085,824**	**6,909,751**	**9,988,502**	**10,812,429**	**13,891,180**
	詰め替え製品EC販売利益 (販売数x価格300円)	449,415	611,703	798,959	1,011,183	1,248,374
	EC販売数	1,498	2,039	2,663	3,371	4,161
	詰め替え製品自販機販売利益	341,640	341,640	1,024,920	1,024,920	2,049,840
	自販機販売数	1,139	1,139	3,416	3,416	6,833
	詰め替え製品松本ゼミ販売利益	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	松本ゼミ販売数	5	5	5	5	5
	詰め替え製品販売利益合計	**792,555**	**954,843**	**1,825,379**	**2,037,603**	**3,299,714**
	売上合計	**6,878,378**	**7,864,594**	**11,813,881**	**12,850,032**	**17,190,894**

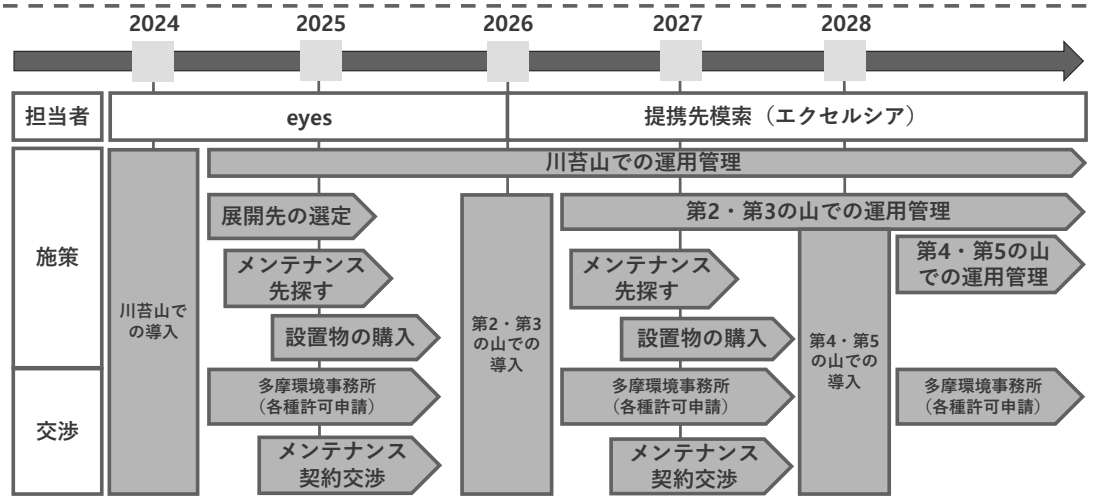
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
総費用	**4,882,108**	**5,043,756**	**8,510,210**	**8,711,811**	**11,924,145**
年収支	**1,996,271**	**2,820,838**	**3,303,671**	**4,138,221**	**5,266,749**
累計収支	**1,996,271**	**4,817,108**	**8,120,780**	**12,259,001**	**17,525,750**

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
固定費	オフィス賃料	0	0	408,000	408,000	408,000
	ミミズコンポスト床土（補充用）	7,920	7,920	241,560	23,760	39,600
	メンテナンス費	160,000	162,000	486,000	486,000	972,000
	自販機電気代	36,000	36,000	108,000	108,000	180,000
	自販機搬入代	128,000	128,000	384,000	384,000	640,000
	設置費（土地代）	29,381	29,381	88,143	88,143	153,738
	合計	**361,301**	**363,301**	**1,715,703**	**1,497,903**	**2,393,338**
変動費	ブース	13,489	13,489	40,467	40,467	67,445
	BOX	3,598	3,598	10,794	10,794	17,990
	ミミズコンポスト	25,189	0	50,378	0	50,378
	自販機購入費	232,520	0	465,040	0	465,040
	自販機PR費用	3,024	0	6,048	0	6,048
	ブースPR費用	1,402	0	2,804	0	2,804
	広告宣伝費（Gooele Ads）	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
	広告宣伝費（インフルエンサー広告）	28,314	28,314	28,314	28,314	28,314
	広告宣伝費（SEO対策）	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000
	サイト管理費	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000
	サイト改良費	0	0	0	500,000	0
	決済手数料(Stripe, 3.6%)	194,147	229,651	266,054	303,355	341,555
	新製品生産費 (生産単価350円)x販売数)	2,151,554	2,442,841	3,531,288	3,822,576	4,911,023
	詰め替え製品生産費 (生産単価200円)x販売数)	528,370	636,562	1,216,920	1,358,402	2,199,809
	人件費（時間給）	365,200	352,000	202,400	176,000	466,400
	合計	**4,520,807**	**4,680,455**	**6,794,507**	**7,213,908**	**9,530,807**

50

今後の展望

施策



51

53

フィールドワーク　計11回

焼岳　2回
川苔山　6回
山岳イベント
乗鞍高原
高尾山

ヒアリング総数　計52人

アンケート総数　計1,025件

研究協力者

【団体の方々】

株式会社エクセルシア
奥多摩ビジターセンター
多摩環境事務所
西東京バス株式会社
奥多摩総合開発株式会社（OPT）
奥多摩観光案内所
奥多摩町シルバー人材センター
奥多摩町議会
鳩ノ巣駅「さんらく」
西東京農業協同組合
みすず堂
奥多摩海沢ふれあい農園
東京都森林組合
奥多摩山葵栽培組合
TOKYO OKUTAMA FACTORY
ピストロきっちょむ登山隊
多摩大学　松本ゼミ

旭岳ビジターセンター
環境省大雪山国立公園管理事務所
北海道山のトイレを考える会
乗鞍高原携帯トイレプロジェクト委員会
多摩環境事務所
奥多摩ビジターセンター
三頭山荘
檜原市役所
雲取山荘
日本山岳写真協会東海支部
神奈川県自然環境保全センター
富士五湖管理事務所
トラウトカントリー
奥多摩観光案内所
奥多摩町役場
蝶ヶ岳ヒュッテ
南アルプス茶臼小屋
聖平小屋
合同会社リトルピークス小峰様

長野県庁松本建設事務所
松本市総合戦略局アルプス
リゾート整備本部
森田早紀さん

【登山客の皆様】

石井貴浩さん
白神智さん
野原悠暉さん
中村このみさん
中村彩花さん
亀重裕子さん
板橋さやかさん
佐藤和美さん
田畑ハコさん
矢田はる奈さん
のんびりやまさん
Umiさん

55

参考文献

【一次情報】
独自アンケート（N＝153）実地期間2023年7月～11月
独自アンケート（N=153）実施期間2023年10月～11月
独自アンケート（n=89）実施期間2023年10月～11
独自アンケート（n=65）実施期間2023年10月～11月
独自アンケート（n=76）実施期間2023年10月~11月
独自アンケート（n=14）実施期間2023年10月
独自ヒアリング（N=44）実施期間2023年10月
独自ヒアリング　実施期間2023年6月～8月
独自ヒアリング　実施日：2023年7月18日
独自ヒアリング　実施期間2023年11月

【二次情報】
東京都総務局行政部振興企画課
https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/05gyousei/sinkou/tama_shinkouplan2/tamaplan200.pdf(閲覧日:2023年11月8日)
日本山岳会東京多摩支部（2022）「多摩百山」https://jac.tokyo/tama100/（閲覧日:2023年7月28日）
総務省統計局（2021）「令和3年社会生活基本調査の結果　生活行動に関する結果　スポーツ全国」
https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/index.htm（閲覧日:2023年7月16日）
株式会社エクセルシア「株式会社エクセルシア社HP」https://excelsior-inc.com/products/hotilet.html（閲覧日:2023年8月2日）
日本山岳会「山のマナーノート」https://jac1.or.jp/images/media/mountain_manner_notes_01.pdf（閲覧日:2023年11月8日）
信州デジくらhttps://norikura.naganoblog.jp/e2285398.html#google_vignette（閲覧日:2023年11月8日）
明るく伸びる光和 http://www.kowas.co.jp/mimizu/2017/10/11/item02/(閲覧日:2023年7月17日）
ミミズコンポスト管理局 https://web.tuat.ac.jp/~mimicon/about/01.html（閲覧日:2023年7月17日）
光和商事http://www.kowas.co.jp/mimizu/wp/wp-content/uploads/2020/08/mmz03-03.jpg（閲覧日:2023年7月17日）

56

参考文献

ミミズコンポスト管理局 https://web.tuat.ac.jp/~mimicon/about/01.html（閲覧日:2023年7月17日）
株式会社エクセルシアHP https://www.excelsior-inc.com/（閲覧日:2023年11月9日）
奥多摩総合開発株式会社HP https://www.okutamas.co.jp/sogo/（閲覧日:2023年11月9日）
みんなの趣味の園芸
https://www.shuminoengei.jp/?m=pc&a=page_image_slideshow&target_c_diary_id=821546&num=1（閲覧日:2023年7月17日）
NPO法人　生ごみリサイクル全国ネットワークhttp://www.namagomi-rz.sakura.ne.jp/index1/1tonsokyakuco2.pdf（閲覧日:2023年7月17日）
多摩大学松本ゼミ公式HP https://www.matsumotozemi.com/（閲覧日:2023年11月9日）
西東京バス株式会社HP https://www.nisitokyobus.co.jp/（閲覧日:2023年11月9日）
ビストロきっちょむ登山隊HP https://kiccyomu.net/about-us.html（閲覧日:2023年11月9日）
統計情報リサーチ/奥多摩駅（JR東日本）の乗降客数の統計
https://statresearch.jp/traffic/train/stations/passengers_station_133_823.html（閲覧日:2023年11月9日）

57

eyes

ありがとう
ございました

58

エントリー No.18

亜細亜大学　高石ゼミ　Re. 多摩団地

優秀賞・ビジネス優秀賞

対象地域：多摩ニュータウン

Tama Awesome Shops

～隠れた魅力をもつお店とつくる団地の未来～

キーワード：バーチャル商店街、多摩っ子カンパニー、団地連携、ホップ、街グルメ逸店マップ

メンバー　名畑花香・梶村雪乃・小原花梨・矢島佳奈・金児美空・関夏鈴　　担当教員名　高石光一

まちづくりの目的・概要

背景

多摩ニュータウンでは、人口減少や商店街の衰退などの課題があります。団地ごとに商店街はあるものの、シャッターが閉まっている店舗が多く、商業施設や駅近郊に人の流れが集中しています。また、初期入居地区では、団地や地域コミュニティの衰退が懸念されます。しかし、最近の多摩の団地には新たな動きが散見され､また児童の数も増えているというポジティブな面もあります。特に各団地の中には、小さくとも素晴らしい輝きを放つお店（私たちは Tama awsome shops:TAS と命名します）が点在しています。私たちはこのような側面に着目し、ここ多摩ニュータウンで、団地の垣根を超えて商店や居住者が交流し、子供たちが将来の社会を担う視点を養成できる仕組みを提案します。

目的

私たちは多摩地区にある TAS 等と協力し、世代を超えて人々が交流できる街づくりを提案します。自分の団地圏内から他の団地へと行動範囲を広げ、居住者と商業者間の交流を促すことで、居住者の新たな発見や楽しみとともに、多摩地区の商業力を高めることを第一の目的とします。次いで、子供たちが増加している地域で、ユニークなビジネスを体験してもらうことによってコミュニケーションやリーダーシップを高めることを第二の目的とします。また、多摩ニュータウンの特産物の創出を第三の目的とします。

概要

(1) 多摩センター駅付近の団地内にて人気店でもある TAS（パン屋、古着屋等）のバーチャル商店街（高齢者用には商店街マップ）を開設し、紹介するとともに、リアルでは月に 1 回各団地で

TASを核とした１日マルシェを開催し、単身者や高齢者を含む団地入居者へ知られざる美味しさや楽しさを提供します。

(2) TASに協力を仰ぎ、子供たち対象の「多摩っ子カンパニー」を開きます。そこでは、子供たちがTASの商品を仕入れ、また商品を開発し販売するというビジネスの流れを体験し、お金やモノの価値を学ぶとともに現代と次世代を担う人々の交流を図ります。団地だけでなく多摩センター駅周辺でも会場を設け、商品を販売することで、多摩市全域に向けてTASの魅力を発信します。

なお、(1)、(2) では、団地の高層階に住む高齢の単身者や外出が困難な買い物弱者にも多摩っ子カンパニーや１日マルシェスタッフがデリバリーを行います。

(3) さらに、多摩には特定の名産品が存在しない為、亜細亜大学で取り組む、ホッププロジェクトを基に、多摩の団地内でビール、ジェラート、パンを開発・製造し、特産物とします。そして、団地内や周辺の飲食店、小売店で販売し、多摩の団地の新しい魅力を創出します。

効果の見通し

魅力的ではあるものの、団地内でしか知られていない個人商店等をネット上で繋げ、広く他の団地等に紹介することで、団地を超えた交流が促すことができます。また、「多摩っ子カンパニー」の経験は、子供たちの自主性や創造性、社会や経済を見る目を養います。さらに、ホップの育成と新たな商品開発によって団地が特産品を持つ地域として注目を集める効果もあります。知られざるTASの魅力を発掘・拡散することで、団地内外の居住者が足を運び、街全体に賑わいをもたらし、地域を活性化する効果が得られます。

先行研究・連携団体

下記の機関への訪問ヒアリングや資料を参考に上記の提案をしました。

・東京都都市整備局多摩ニュータウン課様
・UR（都市再生機構）様
・多摩の団地再生に尽力しているスタジオメガネ様（落合団地商店街内）
・26ｋブルワリ―様（東京でホップを育てる会主宰）
・八王子商工会議所様
・亜細亜大学　① AUSEP（亜大実践型株式会社経営体験プログラム）、② AUHP（亜大ホッププロジェクト）、③データ
　サイエンス学科
・その他、広島バーチャル商店街、メンバーが体験したとさっ子タウン

今後は、多摩の行政や学校、個人商店等との連携・協力をいただきたく思います。

アピールポイント

団地内に潜んでいる魅力的な商店等にスポットライトをあて、ネットワーク化し、さらにはこれからの若い世代を育てるなど多摩ニュータウンのポジティブな側面又は未来にむけた提案を行いました。バーチャル商店街や多摩っ子カンパニー、多摩でのホップ栽培・特産品開発などはいずれも他の団地では行っていないユニークな取り組みであると思います。しかしこれらは、行政機関等から最新の情報収集や私たちが訪問した現地でのヒアリングに基づく提案であり、また、亜細亜大学での実践経験やノウハウが活かせ、高い実効性があります。

プレゼンテーション資料

目次

1.問題の所在とプロジェクトの目的
2.団地の過去と現在
　①人口減少・高齢化・少子化
　②小学校の統廃合（小・中学校）の例
　③高度経済成長時代以降は商店街の衰退
3.Tama Awesome Shopsとは
4.私たちが発見した私たちが発見したTASについて
5.多摩ニュータウンの可能性
6.提案
7.事業構想
　①ホームページの作成とマップの制作
　②「多摩っ子カンパニー」の開催
　③多摩地区特産品の創出
8.事業計画
　①資金収支計画
　②経済効果
9.効果と課題
10.参考文献

1.問題の所在とプロジェクトの目的

問題の所在
多摩ニュータウンでは、団地の老朽化、居住者の高齢化、少子化等が加速していると言われている。
一方、近時、多摩ニュータウンでは、新規出店やイベントの開催等地域コミュニティ再生の動きもみられる。
本プロジェクトでは、その実態を把握した上で、団地再生のあり方を探ることとする。

目的
本プロジェクトでは、主に商店街や近隣に位置する個店調査を通して多摩ニュータウンの活性化の在り方を検討することを目的とする。

方法
既存資料・政府統計の活用によるマクロ調査に加え、個店、関係機関、地域住民等へのヒアリングによりミクロ的な最近の動向を把握する。

主なヒアリング訪問機関
東京都庁都市整備局多摩ニュータウン課・多摩市役所・UR都市機構・日本総合住生活会社（JS）
スタジオメガネ・合同会社ライフウィズ様

2.団地の過去と現在

ー過去ー
高度経済成長期に発展した多摩ニュータウン
創設当時の団地の特色
　1団地１商店街、1小学校
　一つの団地内でスーパーと最寄り品等があり住人には
　便利で、商店街としても活気があった（団地住人A様75歳　談）

当時の多摩ニュータウン
出典：UR都市機構【特集】未来のニュータウンづくり

ー現在ー
①人口減少、高齢化、少子化
②小学校は統廃合
③高度経済成長時代以降は商店街の衰退

現在の商店街

①人口減少・高齢化・少子化 ―人口と高齢化の傾向―

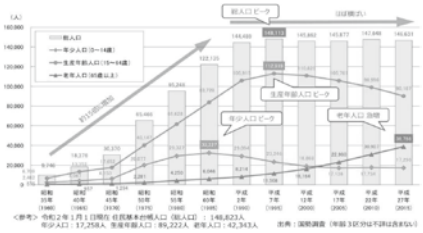


図１：多摩市の人口推移
出典：　多摩市　多摩市の人口動向について

実際の高齢者の声-団地居住者のヒアリングを通して-

Q.街の魅力
A.住んでいる町について快適・便利である
・団地内の商店街は壊滅したが、　多摩センター駅付近で全てが揃う。
・バスは頻繁に来て、シルバーパスで無料で利用可能。
・ジムも安く、散歩を楽しみ、テニスサークルで知人と汗を流す。

Q.他の団地に行ったことはあるか
A.買い物は駅周辺に行くことが多く、他の団地には行ったことがない。

Q.多摩ニュータウンが今後発展するためには
A.世代交代して、若者が増えれば活気が戻るのでは。

Q.多摩ニュータウンのおすすめの場所
A.団地内にはアニメの聖地、多摩センターにはサンリオピューロランドや動物園など様々な楽しめる場所がある。

②小学校の統廃合（小・中学校）の例

表1．多摩市における廃校跡地の利活状況

廃校となった公立学校（廃校となった年次）	現在の主な用途
中諏訪小学校	諏訪複合教育施設（教育センター、学童クラブ、デイサービスセンター、小学校特殊学級）
1994年	
南永山小学校	暫定利用（南永山社会教育施設（図書館書庫、文化財展示資料室））
1996年	
東永山小学校	暫定利用（東永山複合施設（創業支援センター、子供家庭支援センター、ボランティアセンター））
1996年	
西永山小学校	西永山複合施設（デイサービス センター、シルバー人材センター）
1997年	
南豊合小学校	暫定利用（南豊複合施設（障がい者通所施設、文化財倉庫））
1999年	
西豊合中学校	暫定利用（文化財倉庫）
2000年	
南聖ヶ岡小学校	暫定利用（東京多摩フットボールセンター）
2011年	
北貝取小学校	未利用（市商店街交流センター街建設予定）
2011年	

出典：三橋 浩志（2022）
大都市郊外における学校再編と都市政策の関係性　―多摩ニュータウンを事例として―

③商店街の衰退
1）多摩ニュータウン8つの団地内商店街における商店の稼働状況

表２　多摩ニュータウン8つの団地内商店街における商店の稼働状況（目視による調査結果）

団地正式名称	貝取第一・第二商店街	諏訪東商店街	落合団地商店街	豊ヶ丘・貝取東商店街	永山駅南センター商店街	永山駅南商店街	多摩永山商店会	聖ヶ丘商店街	計
全供店舗数（A）	18	21	18	25	17	25	24	12	160
個スーパー	0	1	1	1	1	1	0	1	6
営業店舗（B）	5	18	15	13	9	12	15	9	96
空き店舗（C）	5	1	2	10	3	12	9	3	45
不明（D）	8	1	0	1	4	0	1	1	16
営業店舗率（B）／（A）	28%	86%	83%	52%	53%	48%	63%	75%	60%

（注）営業店舗（B）物販・サービスとして稼ぎできる店舗、　空き店舗（C）：シャッター店舗、不明（D）：営業しているのか不明

・団地にある商店街の営業店舗数にはバラつきがある
・各団地の核となるスーパー（三徳、京王等）が地域住民の日々のお買い物ニーズに応えているようだが、愛宕や多摩諏訪のスーパーは廃業している
・全体にシャッターが目立つが、各団地商店街またはその周辺部に、地域コミュニティーとして周辺の住民の憩いの場として、また、逸品により繁盛している個店が存在
・住民ニーズ（子育て支援・高齢者見守り等）に対応している店舗もある（ネコサポ、障がい者支援、マッサージ、お絵かき等）
・更に、最近、空き店舗に入居し独自のサービスを展開する新世代が散見できる

⇒多摩ニュータウン全体を一つの商業コミュニティとして捉えると、輝くお店が散在する
これら立地的には離れている店舗を、イベント等を活用し結合できれば団地内外に向けて魅力を発信できる可能性がある

③商店街の衰退
2）商店街の現状と今後求められる機能

地方を中心として人口減少や郊外の大型店との競合、ネットショッピングにより多くの商店街は衰退

全国的に商店街の空き店舗数は増加傾向
（平均14%）

商業機能だけを提供する商店街は存在意義を失ってしまう
⇒人々は、商店街に対し、他者とのふれあいや
交流の場の提供に期待する

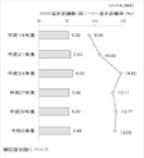


図2：最近３年間の１商店街あたりの空き店舗数の変化
引用：令和３年度商店街実態調査報告書

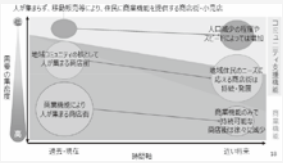


図3：商店街における商業機能とコミュニティ支援機能の関係【イメージ】
引用：中小企業庁(2020年)　地域コミュニティにおける商店街に期待される新たな役割と支援のあり方

ここまでのまとめ

以上から、現在の多摩ニュータウンは、
人口減少、少子化、小中学校の廃校、各団地内商店街の賑わいが失われつつあるが、地元に愛され支持されているお店が多数存在することがわかった

**多摩ニュータウンがReborn(生まれ変わる)ための方策として
これらAwesome（素晴らしい）お店と協力して、
私たちに何かできることがあるはず！**

3.Tama Awesome Shopsについて

多摩ニュータウンの各団地に存在する輝きを放つお店

**Tama
Awesome
Shops**

通称：TAS（タス）

**TASを通じて、多摩ニュータウンのさらなる活性化とともに、
団地の垣根を超えた商店や住居者の交流を目指します！**

現地調査記録（7月～9月）

表６-１：現地調査記録

日付	内容	場所	協力団体
7月2日	現地調査	多摩センター駅全域	
7月8日	TAS探索	落合地区 豊ヶ丘地区	スタジオメガネ
7月11日	多摩ニュータウンについて ヒアリング	東京都庁	多摩ニュータウン課
7月28日	ジェラート試作品製作	ダルチアーノ	ダルチアーノ
8月28日	多摩市ヒアリング調査 TAS探索	豊ヶ丘地区・諏訪地区・永山地区 多摩市役所・経済観光課	豆腐工房レスト・青木屋 多摩市役所・観光経済課
9月15日	ジェラート試作品改良	ダルチアーノ	ダルチアーノ
9月23日	TAS探索	山王下（愛宕周辺地区） 愛宕地区	AFFIDAMENTO BAGEL Pizzeria LA PALA・木のひげ

現地調査記録（10月～11月）

表６-２：現地調査記録

日付		場所	協力団体
10月1日	高齢者ヒアリング TAS探索	愛宕地区	愛宕団地居住者
10月7日	TAS探索	落合地区・豊ヶ丘・貝取地区	パン工房Green Bell・Grand Cru 寒天茶房游夢
10月12日	多摩市ヒアリング調査 TAS探索	永山地区・落合地区 貝取地区・鶴巻地区 豊ヶ丘地区	多摩市役所 トヨタモビリティ ライフウィズ　影近様
10月17日	多摩ニュータウンについて ヒアリング調査	日本総合住生活社本社	日本総合住生活会社
10月28日	商店街キャラバン視察 TAS探索	永山地区・落合地区 貝取地区・鶴巻地区 豊ヶ丘地区・聖ヶ丘地区	ライフウィズ 多摩市教育員会
11月1日	ジェラート試作品改良	ダルチアーノ	ダルチアーノ

4.私たちが発見したTASについて

①団地内商店街として昔からの繁盛店・人気店
青木屋（多摩諏訪）、中華料理 おやき(貝取北センター商店会)、豆腐工房れすと（永山団地名店街）他

②比較的最近、空き店舗や周辺部にオープンし、新風を送り込んでいるお店・事務所
古着屋 SAJI(落合団地商店街)、多摩うどん ぼんぼこ（聖ヶ丘商店街）、美術ひろば タネノス（聖ヶ丘商店街）他

スタジオメガネ(落合団地商店街)：**一級建築士事務所、カフェ、キッチン、バーであり、イベントや誘致など地域振興に取り組まれています。**

合同会社ライフイズ・一般社団法人 Life　is（**多摩諏訪名店会、鶴牧商店街**）：**福祉事業所、駄菓子屋、カフェ運営、イベント（商店街キャラバン）などを通して地域福祉と振興に取り組まれています。**

③団地周辺部でのオンリーワンの人気店
Moi bakery（豊ヶ丘）, AFFIDAMENTO BAGEL（ベーグル　山王下）、LE JARDIN BLEU（ケーキ　乞田）他

4.私たちが感動したお主なTAS

↓京王多摩センター駅付近　AFFIDAMENTO BAGELさん

↓多摩諏訪団地の和菓子屋　青木屋さん

↓京王多摩センター駅付近　Pizzeria La Palaさん

5．多摩ニュータウンの可能性
（TASによる地域コミュニティづくり）

（1）TASをつなげ、光を与え、もっと輝いてもらうことにより
①多摩ニュータウンの住民の喜びと快適さを高め、
②地域外の人々に多摩ニュータウンの魅力を知ってもらい、
③将来のニュータウンおよび社会を支える人々を育成する

（2）今がチャンスである
多摩ニュータウンには衰退、減少などのネガティブな捉え方の一方で、逸品、繁盛、若者による新風、子どもたち、ファミリー、ケアなどがニュータウンというポジティブな機運が確実に広がっている。
高齢者への対応が重視される一方で、ポジティブな可能性に私たちは着目する。
①リノベーション等で居住施設が改良され、補助金で入居が促されている。
②一部若者の入居者も増加している。（UR都市機構と無印良品のコラボによるリノベーション）
参考：誕生から半世紀　再び若者が戻る「憧れの街」多摩ニュータウンの現在https://www.moneypost.jp/770577
このタイミングで、入居者や潜在的な入居希望者に多摩ニュータウンの魅力を見せることが効果的。
その一つがTASによる地域コミュニティづくりである。

（3）他の事例からも団地再生は可能です。
参考：座間市ホシノタニ団地　https://www.odakyu-fudosan.co.jp/sumai/mansion/hoshinotani/about.html

6.提案

多摩ニュータウンに存在するTASと協力し、
世代を超えた人々との交流が活発なまちづくり

1.団地圏内から圏外へ行動範囲の拡大と居住者・商業者間の交流
　居住者の新たな発見や楽しみの創出
　⇒多摩地区の商業力の向上

2.子どもたちのユニークなビジネス体験の場の提供
　⇒地域コミュニケーションや子供たちのリーダーシップ力の向上

3.多摩ニュータウンの特産物の創出

17

7.事業構想

1. TASを中心としたバーチャル商店街を開設、紹介する（住民の団地間交流を促進する）
2. 各団地でTASを中心としたリアルフェアを開催（多摩ニュータウンマルシェ：来訪を待つのではなく、住民のもとに出向く転換型商店街）する。
3. TASの協力を得て、小中学生対象の「多摩っ子カンパニー」の開催：将来のニュータウンを支える若者を育成する（ビジネス体験、アントレプレナーシップの醸成）。
4. 新商品開発により多摩ニュータウンの特産物を創出する。
（当面は亜細亜大学で取り組むホッププロジェクトと連携）

18

①ホームページとマップの制作

◆オリジナルホームページ

URL：
https://sites.google.com/view/tamaawesomeshops/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0

◆手作りマップ

19

②「多摩っ子カンパニー」の開催

◆TASに協力を仰ぎ、子供たちを対象とした「多摩っ子カンパニー」を開催

子供たちがTASの商品を仕入れ、また商品を開発し販売するというビジネスの流れを体験し、お金やモノの価値を学ぶとともに現代と次世代を担う人々の交流を図り、多摩市全域に向けてTASの魅力を発信します。

参考事例：とさっ子タウン

とさっ子タウンでは、社会の仕組みを知ってもらうことや参加する子どもたち同士のコミュニケーションの場、生まれ育った地域に対する誇りを持てるような「**きっかけ**」をつくることを目標に掲げています。
URL［公式］こどもが運営するまち「とさっ子タウン」（tosacco-town.com）

20

③多摩地区特産品の創出

－26K　BREWERY様協力　地ビールの制作 －
・ASIAビール2023の活用
・ノウハウを活用し多摩地区の地ビールを制作
・多摩地区の畑を活用したホップづくり

－ アイスクリーム店　ダルチアーノ様協力　ジェラートの制作 －

・ホップジェラートの制作（試作品）
・11月末に販売トライアル（予定）

－ パン屋　オリジナルパンの制作－
・ホップを活用したパンの制作（検討中）

21

8.事業計画

- お店の協力・連携を依頼
- 行政、大学、協力機関（多摩市、亜細亜大学、関係企業などの協力を得る）
- 組織（NPOまたは株式会社等を設立）
- TASホームページ、マップの試作

- TASホームページ、マップの本格運用
- SNSによるTASのPR
- イベント（ニュータウンマルシェの試行）
- 多摩っカンパニーの試行（小学校、塾などとの連携）

- 多摩っ子カンパニーの運営
- イベントの本格運営
- オリジナル商品の開発・販売（多摩ニュータウンオリジナルビール、ホップジェラート、ホップブレッド）

22

①資金収支

表7　資金収支計画　　単位　円

収入	1年目	2年後	3年後	備考
TAS賦課金（初年度10社）以降毎年5社増	50,000	100,000	150,000	5千円/年間
関係機関（行政、大学、企業）協賛金　3法人程度	90,000	90,000	90,000	1法人3万円/年間
売上（販売額の10%）マルシェの売上高	0	0	50,000	
小計(万円)	140,000	190,000	290,000	
支出				
人件費　事務・ホームページ担当1人	50,000	50,000	50,000	アルバイト担当1人
サーバー保守費（月5千円）	60,000	60,000	60,000	
新商品試作・開発費	0	30,000	50,000	
イベント関係費	0	30,000	70,000	
交通費	10,000	10,000	10,000	
雑費	10,000	10,000	10,000	
小計(万円)	130,000	190,000	250,000	
収支	10,000	0	40,000	

23

9.TASによる効果と課題

効果

■ 多摩地区の新たな話題性
■ 地域コミュニティの活性化
■ 多摩団地の価値創造

課題

■ マルシェを計画し実行するためには行政・団体の協力が不可欠
→現在、落合地区にある八角堂では無料で貸し出しているキッチンカーもあるが使えるか。（JS様より協賛）
■ 運営に関わる諸費用調達
■ 利益が見込みにくい

24

10.参考文献

・UR都市機構（2021）【特集】未来の「ニュータウン」づくり
https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress64/special4.html
・多摩市（2020）多摩市の人口動向についてhttps://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress64/special4.html
・三橋 浩志（2022）
大都市郊外における学校再編と都市政策の関係性
―多摩ニュータウンを事例として―https://www.jstage.jst.go.jp/article/ncs/23/0/23_28/_pdf/-char/ja
・商店街実態調査報告書（2021）
https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/2022/download/220408shoutengai01.pdf
・中小企業庁(2020年）地域コミュニティにおける商店街に期待される新たな役割と支援のあり方
https://www.meti.go.jp/shingikai/sme_chiiki/jizoku_kano/pdf/002_02_01.pdf
・マネーポストWEB（2021）誕生から半世紀　再び若者が戻る「優れの街」多摩ニュータウンの現在
https://www.moneypost.jp/770577
・座間市ホシノタニ団地（2023）　https://www.odakyu-fudosan.co.jp/sumai/mansion/hoshinotani/about.html
・【公式】こどもが運営するまち「とさっ子タウン」（2023）
https://tosacco-town.com/tt2023

25

ありがとう
ございました

調査にご協力いただきました
TAS・住民・企業・行政
ネットワーク多摩事務局の皆さまに
感謝申し上げます。

26

エントリー No.14

法政大学　水野研究室　CREW：クルー（Camp in campus the Regional Education for Well-being）

優秀賞・ビジネス奨励賞

対象地域：多摩地域全体

実践型教育プログラム「Camp in Campus」

～多摩から始める新しい避難生活～

キーワード：防災、Well-Being、キャンプ、教育

メンバー　竹内大智・竹内駿平・駒嶺マナ・白羽優之介・原優月・宮本未来　　担当教員名　　水野雅男

まちづくりの目的・概要

日本における避難所での集団生活には問題がある。体育館に大人数が密になって雑魚寝をし、精神的、肉体的苦痛を強いられる避難生活。そのような生活の弊害は、災害関連死として数字に現れ、実に 5,000 人を超える人々がこれまでに命を落とした。一時的なものだから、緊急時だから、そのような理由で片付けて良い問題ではない。関東大震災から 100 年が経った今、従来の日本の避難生活に終止符を打ち、災害時に誰一人取りこぼさず、誰もが人間らしく生活できる避難生活を新たに始めたい。

そのために用いるのが「Camp in Campus」という避難生活の新たな価値観だ。それは災害時を想定し、法政大学内でテントを用いて屋外でキャンプをしながら、人間らしい避難生活を送るという実証実験である。この実証実験により、従来の避難生活では限界があった健康維持とプライバシーの確保、ペットや乳幼児連れの避難など、様々な問題が解決可能だと確認できた。

私たちはこの活動を法政大学のキャンパスから多摩地域全域に広めていくために、地域の教育機関を対象とした「Camp in Campus」の実践型教育プログラムをここに提案する。教育分野に着目したのは、活動していく中で、この新しい避難生活は特に家族層に対してニーズがあると分かったからだ。そこから私たちは「小中高生」を今回の主な対象とし、そこから家族へという流れを作ることを目標とした。そしてこれらの対象に的確に教育イベントを届けるために、文科省が定め、2022 年度より始まった「総合探求の時間」を活用した教育プログラムを展開していく。

プログラムは主に三つの方法で提供する。一つ目は「Quick Camp」。授業 1 コマ分の時間を使い、「Camp in Campus」が提供する避難所の在り方を講義形式で提供した後、ワークショップでは自身の通う学校や周辺地域の利活用について考えることで防災を身近にしていく。二つ目は「1day

Camp」。一日体験のプランで、講義の後、ワークショップでは周辺地域の利活用や備蓄した保存食の試食会をテントを張った校庭で楽しむ。三つめは「2days Camp」。一泊二日のプランで、実際の宿泊体験を通し、新しい避難所の在り方について考える。周辺環境を最も活用することができ、例えば家庭科室で夕食づくりを体験したり、校内に囚われず、地域の公園などでキャンプを実施するアクティビティの高い体験プランだ。また家族の参加を可能にすることで、家族ごとに新しい避難生活の意識を生み出すことができる。

このような実践型教育プログラムの実施にあたって、私たち学生は運営団体を組織し、多摩地域の教育機関に展開していく。その為に、年内はキャンパスでの実証実験を組織の中心となるゼミ生が運営し、ワークショップや屋外活動を通してファシリテートを行う。また秋頃には地域の教育機関を招待することで、本プログラムの社会実装を目指して活動していく。

効果の見通し

本プログラムを地域の教育機関に広めていくことで、子どもたちに防災意識や地域コミュニティの所属意識が芽生え、また家族と共有することで、災害発生時に強い避難所コミュニティを生み出すことが出来る。私たちはこのような活動を通して、誰もが人間らしく生活できる避難所生活の新しい価値観を提供することで、東京で最も災害に強い都市となる多摩地域を作りたい。

先行研究・連携団体

塩崎 賢明「イタリアの震災復興から学ぶもの , 災害復興研究」2018

水野 雅男他「東京都地域防災計画における野外収容施設の位置づけの変遷と大震災時の開設実態に関する研究」地域安全学会論文集 2022

アキレス株式会社、関西ペイント株式会社（実証実験への参画、試作品の試用）

MAAGZ（八王子市内アウトドアガレージブランド、商品プロモーション）

アピールポイント

本プログラムは実践にあたり、連携団体で示したように多くのステークホルダーが存在している。ただの講義形式の授業ではなく、体験型にこだわることで、子どもたちの探求力を刺激し、また普段接点のない大学の学生や教授、企業と触れ合うことで様々な方向性で自主的に学ぶことが出来る二段構えになっている。そして防災という概念にキャンプという別の入り口を用意することで、より楽しく防災を考えることができ、企業としてはより良い製品の開発、実験に本プログラムを活用することが出来る。

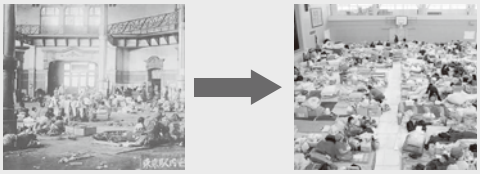
プレゼンテーション資料

目次

１　日本の避難生活の現状
２　提案
３　提案の実現に向けたこれまでの活動
４　１年間の活動の中で見えた課題と将来性
５　まとめ

日本の避難所生活は100年前から変わっていない！？

＜1923年 関東大震災＞　＜2011年 東日本大震災＞



現状分析

長い間日本の避難生活は多くの課題を抱えている

- 体育館で雑魚寝
- 温かいご飯が食べられない
- プライバシーが守られていない
- 精神的、肉体的苦痛を強いられる
- 災害関連死の増加

現状分析

このような現状が続いている原因は？

公助の限界

- 災害時の備蓄管理等は市町村に委ねられ、ほとんどが流通備蓄に頼っている。
- 備蓄の必要数等を法律で定めていないため、台風等の予測できる災害でも準備不足が発生

災害専門省庁がない

- 災害救助法が適用されないと国の予算が発生しない。
- 災害対策基本法に規定されている通りの要請がなければ、国や県は支援しにくい状況にある

現状分析

この現状でより良い避難生活を実現するには

- 一人一人の災害への自助意識の向上
- 災害時と平時の移行をスムーズに行う

現状分析

イタリアの事例から考える理想の避難所生活

写真８　テントによる食堂（撮影：筆者撮影）

衛生的で落ち着いて食事が取れる環境

写真９　避難所の食事

バランスのとれた健康的メニュー
温かい食事

写真１　アマトリーチェの避難キャンプ（撮影：筆者撮影）

個別に区切られていてプライバシーが確保されている

写真２　テント内部（撮影：筆者撮影）

健康的な睡眠がとれるしっかりとしたベッド

現状分析

Camp in Campusとは

- 「人間らしい」避難生活の実現を目的とした実証実験
- 大学キャンパスにて、実際にテントを張り2泊3日の野営を行う
→「人間らしい」避難生活を体感、その可能性を考える
- 防災関連企業やガレージブランドの方など、様々な立場の方が参加

現状分析

Camp in Campusが持つ2つの課題

大学の研究という領域内のため波及速度が遅い

若年層の参加が少なく、活動を伝えられていない

→ターゲットを「子供」や「家族」に設定
→より加速度を持たせるため持続可能な活動へ

提案

なぜ多摩で広めていくのか？

1 広大な面積を持った大学キャンパスが多い

2 自然豊かで、キャンプ文化がある

3 ガレージブランドが多く親和性がある

提案

実際のプログラム案

対象：中学校

それぞれの中学校のニーズに合わせた
3パターンのプログラムを展開

Quick Camp	1day Camp	2days Camp
授業1コマ分	1日体験型	1泊2日体験型
避難生活の現状を講義 ↓ ワークショップ形式で避難生活をより身近に考えてもらうプログラム	避難生活の現状を講義 ↓ 実際にテントを張りテント生活を体感、また保存食の試食やCICでの食事を体感	実際の宿泊体験 ↓ キャンプ生活での夕食作り体験等を通じよりリアリティのある避難生活体験ができる

提案

本プログラム実現のためのこれまでの活動

①Camp in Campus内で中学生向けワークショップの実施

②キャンパス周辺の中学校と連携し企画を広報

提案

本プログラム実現のためのこれまでの活動

③Cmap in Campusの情報や動画をSNSで若者向けに発信

実際の活動の様子や活動情報を動画にまとめ投稿

④中学生に向けた、避難生活を楽しく学べるオリジナルキットの作成

最後に

今日から始める避難への意識改革を

・まだまだ課題の多いプロジェクトですが日本の避難生活の現状に革命を起こすプログラムだと確信しています

・今後、このプロジェクトが多くの中学校で採用されるよう、尽力して参ります。

本日はご清聴ありがとうございました

エントリーシート No.2

中央大学　FLP 山﨑ゼミ　FLP 山﨑ゼミ C 生

奨励賞・ビジネス優秀賞

対象地域：多摩市

多摩団地のコミュニティ再生

大学生の力で団地を元気に

キーワード：空き家、団地、地域活性化、コミュニティ創出

メンバー　杉山周政・平山雄大　　担当教員名　山﨑　朗

まちづくりの目的・概要

日本では全国的に少子高齢化が進んでいる。東京都の郊外に位置している多摩地区も例外ではない。ニュータウンのまちとして発展してきた多摩地区は、今後住民の高齢化、人口減少、団地の老朽化・建て替えなどの課題に直面する。多摩市の第三期基本計画の人口推計によると、緩やかではあるものの、人口の減少が見込まれている。とくに多摩ニュータウン多摩市域では、高齢化率の急上昇が予測されており、何の対策も実施されない場合には、2040 年には 2015 年比で 38% の人口減すると予測されている。駅から遠い諏訪・永山および貝取・豊ヶ丘では高齢化率は 40% を超えることとなる。人口減少すると、団地においても空き家問題が発生する。持続可能な団地運営には、時代変化やニーズに合わせながら老朽化した団地をリノベーションすると同時に、若い世代の流入を促進し、新しいコミュニティを創出しなければならない。

そこで我々が提案するのは「地域連携居住制度」の導入である。多摩地区に住む大学生に、地域活動への参加を条件に団地の空き部屋に格安で住まわせる制度である。愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンですでに実施されている。多摩地区には多くの大学がある。「地域連携居住制度」を実施する土台は整っている。大学への進学を機に地元を離れ一人暮らしを選択する学生は一定数いる。一方、多摩地区の団地は今後の人口減少社会において空き部屋が発生する可能性がある。そこで、一人暮らしをしたいと考える学生を団地に住まわせることで、遊休資産の活用と新しいコミュニティ創出を実現できる。

学生が参加する地域活動の内容は、イベントや祭りへの参加、清掃活動などが考えられる。さらに、大学生による高齢者向けのスマホ教室や買い物代行サービスの実施により、高齢化社会の課題を大学生を通して解決していくことができる。学生側は格安で一人暮らしができる。高齢者や団地

住民が学生によるサポートを受けたり、若い世代との交流によってコミュニティが活性化したりすれば、住民側のメリットも大きい。さらに団地のコミュニティに参入した学生が地域に愛着を抱くようになれば、大学卒業後も継続して多摩地区に関わっていく可能性もある。この制度は団地の住民も、多摩地区の学生にも、そして多摩地域全体としてもメリット大きい制度なのだと言ったら言い過ぎだろうか。

効果の見通し

人口減少、高齢化社会において発生する課題を大学生の力を活かして解決することを目指す。地域連携居住制度を導入することで、学生側は一人暮らしをする上で必要な費用を抑えられる。加えて、学生が高齢者向けのスマホ教室や買い物代行、地域の清掃活動などに参加することによって、高齢化した住民のサポートができる。大学が多いという多摩地区の特性を活かし、学生側、住民側、地域それぞれにメリットがある制度となる。

先行研究・連携団体

高蔵寺ニュータウン 愛知県春日井市（https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress54/special3.html）（2021 年 7 月 14 日閲覧）

多摩ニュータウンの現状と課題（https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/02/19/documents/13_03.pdf）（2021 年 7 月 14 日閲覧）

都営住宅に学生が入居しコミュニティ活動を支援する取組がさらに広がります！（東京都 HP）（https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/01/25/01.html）（2023 年 7 月 14 日閲覧）

アピールポイント

私たちの提案は「現状維持」を目指すのではなく、社会の変化に対応できる提案となっている。そのため、今後の政策への組み込みやすさや、継続性の点からも有効な提案だと考える。また、対象を大学生に限定せずに若年層へと広げて実施することによって、学生が少ない地域においても実施できる提案になる。

プレゼンテーション資料

多摩まちづくりコンペティション発表資料
中央大学FLP山﨑ゼミ　C生

団地おこし協力隊で団地を元気に

中央大学　総合政策学部4年　杉山周政
中央大学　経済学部4年　平山雄大
11月25日

1

目次

はじめに 課題の提示	提案内容 p.04
	多摩ニュータウンの課題　pp.06-12
	先行事例 pp.14-15
提案内容	団地起こし協力隊とは pp.17-18
	学生需要調査（アンケート）結果 pp.20-22
	アンケートまとめ p.23
結論・まとめ	期待される効果・今後の課題 pp.25-26
	参考文献 p.27

2

目次

はじめに 課題の提示	提案内容 p.04
	多摩ニュータウンの課題　pp.06-12
	先行事例 pp.14-15
提案内容	団地起こし協力隊とは pp.17-18
	学生需要調査（アンケート）結果 pp.20-22
	アンケートまとめ p.23
結論・まとめ	期待される効果・今後の課題 pp.25-26
	参考文献 p.27

3

提案：団地おこし協力隊

団地の空き部屋に大学生に住んでもらう ＋ 学生は清掃や買い物代行などの地域活動への参加 ＝ 団地高齢化課題の解決

4

目次

はじめに 課題の提示	提案内容 p.04
	多摩ニュータウンの課題　pp.06-12
	先行事例 pp.14-15
提案内容	団地起こし協力隊とは pp.17-18
	学生需要調査（アンケート）結果 pp.20-22
	アンケートまとめ p.23
結論・まとめ	期待される効果・今後の課題 pp.25-26
	参考文献 p.27

5

図表1　多摩ニュータウンの現状・課題（高齢化）

※住民基本台帳を基に作成

1　多摩ニュータウンの世帯数、人口（令和4年10月1日現在）

		世帯数（世帯）			人口（人）			老年人口（65歳以上）（人）		
		4年度	3年度	増減数	4年度	3年度	増減数	4年度	3年度	増減数
多摩ＮＴ全域	多摩市	48,785	48,599	186	97,211	97,790	−579	30,968	30,800	168
	八王子市	39,242	38,699	543	86,718	86,925	−207	20,154	19,511	643
	稲城市	10,134	10,047	87	25,749	26,069	−320	5,874	5,616	258
	町田市	5,193	5,064	129	13,146	12,989	157	1,787	1,683	104
		103,354	102,409	945	222,824	223,773	−949	58,783	57,610	1,173

※　世帯数、人口、老年人口は日本人と外国人の合計

出典：東京都都市整備局　https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/tama/pdf/toukei_01.pdf?202201=

6

図表2　多摩ニュータウンの現状・課題（高齢化）

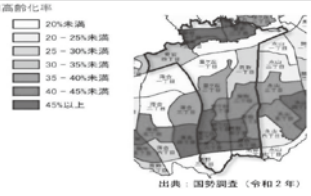
多摩ニュータウンの高齢化率（令和4年10月1日現在）

市	世帯数	人口	老年人口	高齢化率(%)
多摩市	48,785	97,211	30,968	31.9%
八王子市	39,242	86,718	20,154	23.2%
稲城市	10,134	25,749	5,874	22.8%
町田市	5,193	13,146	1,787	13.6%
計／平均	103,354	222,824	58,783	26.4%

出典：東京都都市整備局　https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/tama/pdf/toukei_01.pdf?202201=

7

図表3　ニュータウンの現状と課題（高齢化）

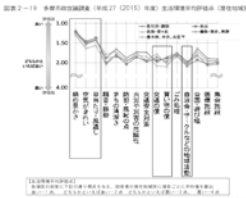


出典：国勢調査（令和２年）

出典：多摩ニュータウン・デザイン　愛宕・貝取・豊ヶ丘地区まちづくり計画
https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/001/053/machidukuri1.pdf

8

図表4　多摩ニュータウンの現状と課題（現状のニュータウンに対する評価）



・「緑の豊かさ」「空気がきれい」などの生活環境に対する評価が高い

・一方で「買い物の便」「地域活動」に対する評価がた項目と比べてやや低い評価となっている

（図表は多摩ニュータウンの現状と課題より抜粋）

出典：多摩ニュータウン現状と課題　https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/02/19/documents/13_03.pdf

9

図表5　多摩ニュータウンの現状と課題（空き家率）

■令和調査結果

	空家等数	空家率※1	住宅数※2
多摩市全体合計	3,946	5.3%	74,110
うち戸建て住宅	190	1.2%	15,436
うち集合住宅	3,756	6.4%	58,672

※1　小数点以下第二位を四捨五入とした。
※2　都市計画調査（土地利用状況調査など）による。

■平成２５年住宅・土地統計調査結果

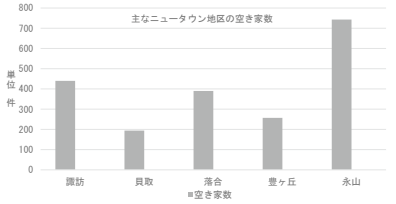
	空家等数	空家率※1	住宅数※2
多摩市全体合計	7,080	9.6%	73,420
うち戸建て住宅	340	2.6%	13,150
うち集合住宅	6,740	11.2%	60,270

※1　小数点以下第二位を四捨五入とした。
※2　一時現在者のみの住宅、建築中の住宅及び住宅以外で人が居住する建築物数は除いた。

出典：　多摩市空家等実態調査報告書　概要版　https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/419/tyousakekka.pdf

10

図表6　多摩ニュータウンの現状と課題（空き家数２）



出典　多摩市空家等実態調査報告書　概要版　https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/419/tyousakekka.pdfより著者作

11

多摩ニュータウンの現状と課題（まとめ）

❶ 高齢化率の上昇・人口の減少
多摩ニュータウンにおいては他の地域と比べ高齢化率が高い
2040年に2015年比約38%の人口減の試算も

❷ 空き家・空き部屋の増加
今後の人口減少で空き部屋は増加する可能性がある
多摩ニュータウン地区においては集合住宅の空き家率が高い

❸ 地域活動や買い物の便への評価が低い
地域活動の担い手の確保や、買い物の便向上などが求められる

12

目次

はじめに 課題の提示	提案内容 p.04
	多摩ニュータウンの課題　pp.06-12
	先行事例 pp.14-15
提案内容	団地起こし協力隊とは pp.17-18
	学生需要調査（アンケート）結果 pp.20-22
	アンケートまとめ p.23
結論・まとめ	期待される効果・今後の課題 pp.25-26
	参考文献 p.27

13

２．先行事例　高蔵寺ニュータウン【地域連携居住制度】の導入

学生に地域活動への参加してもらう代わりに家賃を割り引く制度
学生が住むのはエレベーターの無い高層階
地域活動の参加によって家賃が割引される

活動内容は自治体から大学に伝えられる
学生同士が話し合ってどの活動に参加するのかを決める
地域活動の例：清掃・祭りの準備・コーヒーサロンなど

14

地域連携居住制度のメリット

学生側
・安い家賃で一人暮らしができる
・地域活動への参加を通して、多様な世代との交流ができる

団地側
・空き部屋を少なくできる
・高齢化による課題を若者の手によって助けてもらえる
・地域コミュニティ活性化、ベットタウンからライフタウンへ

15

目次

はじめに 課題の提示	提案内容 p.04
	多摩ニュータウンの課題　pp.06-12
	先行事例 pp.14-15
提案内容	団地起こし協力隊とは pp.17-18
	学生需要調査（アンケート）結果 pp .20-22
	アンケートまとめ p.23
結論・まとめ	期待される効果・今後の課題 pp.25-26
	参考文献 p.27

16

図表7　提案　団地起こし協力隊 大学生×団地

大学生を団地の高層階の空き部屋に住まわせる
学生側は地域活動への参加を義務化

家賃の割引ではなく、地域活動内容によって一定の給付を受ける

	多摩ニュータウン区域内	周辺地域	計
学生数	約 21,800 人	約 62,400 人	約 84,200 人
留学生数	約 800 人	約 1,500 人	約 2,300 人

多摩地区は学生数が多いため、高蔵寺よりもポテンシャルが高い

出典：多摩ニュータウン現状と課題 https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/02/19/documents/12_03.pdf

17

団地おこし協力隊（3類型）

一律給付型	ジョブ型	家賃割引型
毎月一定の現金給付を行う	仕事一件ごとに応じた給料を支払う	毎月の家賃を割り引く
手続きが簡単	活動に対するモチベーションアップ	給料という概念ではないので、学生側が主体的な活動となる
拘束時間などから平等に支給できるか	勤怠管理の必要あり	家主と家賃調整が必要

18

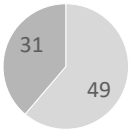
目次

はじめに 課題の提示	提案内容 p. 04
	多摩ニュータウンの課題　pp. 06-12
	先行事例 pp. 14-15
提案内容	団地起こし協力隊とは pp. 17-18
	学生需要調査（アンケート）結果 pp. 20-22
	アンケートまとめ p. 23
結論・まとめ	期待される効果・今後の課題 pp. 25-26
	参考文献 p. 27

19

図表8　アンケート結果（学生需要調査）

一人暮らしの部屋に団地は選択肢に入りますか？入りませんか？



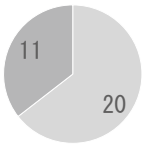
はい　いいえ

単位：人

20

図表9　アンケート結果（学生需要調査）

団地に住み、地域活動に参加することで
給料が出るなら住みたいですか？住みたくありませんか？



はい　いいえ

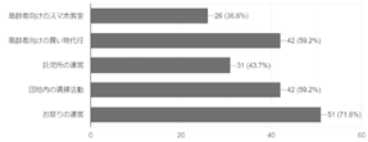
単位：人

21

図表10　アンケート結果（学生需要調査）

下記の項目でどれなら参加してもいいと思いますか？

71 件の回答



22

アンケートまとめ

- 団地に住んでもいいという学生が多い
- 地域活動に参加しても良いとする学生が多い
- 様々な活動を実施できる

↓

団地起こし協力隊の学生側の需要は存在する

23

目次

はじめに 課題の提示	提案内容 p. 04
	多摩ニュータウンの課題　pp. 06-12
	先行事例 pp. 14-15
提案内容	団地起こし協力隊とは pp. 17-18
	学生需要調査（アンケート）結果 pp. 20-22
	アンケートまとめ p. 23
結論・まとめ	期待される効果・今後の課題 pp. 25-26
	参考文献 p. 27

24

期待される成果

団地
- 若い世代の流入によるコミュニティ活性化
- 団地の高齢化問題の解決

行政
- 若い世代が地域に関心をもつ機会を提供できる

学生
- コストを抑えて一人暮らしができる
- 実学の場となる

大学
- 一人暮らしをしたい学生の確保
- 実践的な学びの場の提供

25

今後の課題・展望

1 大学とのマッチング

多摩地区には多くの大学・学部がある

多摩地区の大学独自の地域活動を行うことができる

例：音楽大学の近くではピアノ用の部屋をつくるなど、学生側の需要とのマッチング

2 団地のイメージの払拭

団地に住みたくないと答えた人で、団地は汚いという意見がある

部屋の内側からリノベーションを起こす必要性

例：UR×無印良品　団地リノベーション計画

26

参考資料

多摩ニュータウンの現状と課題　（2023年11月10日閲覧）
https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/02/19/documents/13_03.pdf

多摩市役所ー＜参考＞ニュータウン区域の現状・課題と対策 （2021年 11月5日閲覧）
https://www.city.tama.lg.jp/cmsfiles/contents/0000010/10332/shiryo(4).pdf

多摩ニュータウンの世帯数と人口について（東京都都市整備局）（2023年11月10日閲覧）
https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/tama/pdf/toukei_01.pdf?202201=

多摩ニュータウン　リ・デザイン　愛宕・貝取・豊ヶ丘等まちづくり計画（2023年11月10日閲覧）
https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/011/053/machidukuri1.pdf

多摩市空家等実態調査報告書　概要版（2023年11月10日閲覧）
https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/419/tyousakekka.pdf

UR　HP（2023年11月10日閲覧）
https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress54/special3.html

27

ご清聴ありがとうございました

28

エントリーシート No.3

明星大学　人間社会学科 熊本ゼミ（２年）　Official 日野団 dism

奨励賞

対象地域：多摩地域

あつまれゲームの団地

みんなでゲーム、はじめませんか

キーワード：ゲーム・他世代交流・住民間交流

メンバー　篠塚・大貫・大原・岡本・岸峰・櫛田・小日向・佐藤・須崎・鈴木・中村・吉野
担当教員名　熊本博之

まちづくりの目的・概要

1950 年から 75 年の 25 年で、一都三県の人口は約 1400 万人増加している。そのうち約 714 万人が他地域からの転入であり、こうした人たちに住居を提供するため、多摩地域を含む都心部周辺には多くの団地が林立し、分厚い郊外が誕生した。

だがその郊外では、少子高齢化が加速度的に進んでいる。特に団地は、同じ時期に入居した子育て世代を中心とする人たちが一斉に高齢化する一方で、子ども世代は他地域に居住するケースが多いことから、極端なまでの少子高齢化が生じている。

一方で多摩地域には、多くの大学がある。ネットワーク多摩に加盟している大学・短期大学だけでも 24 校を数え、そこには多くの学生が日々通いながら勉学に励んでいる。つまり多摩地域には、少子高齢化が進む団地と、多くの若者が通う大学の両方が多く存在しているのである。
ゆえに両者をつなげようという試みは、これまでも多くなされてきた。例えば申請者らが所属する明星大学では、2012 年から近隣にある高幡台団地での活動を続けている。なかでも 2017 年度から 20 年度にかけて、日野市、UR 都市再生機構との連携により、学生の団地内居住事業を実施している。

だがこの事業は、結果的には継続できなかった。その大きな理由は、学生が団地に住むことで、既存住民から常に「見られる」ことになってしまい、摩擦がうまれてしまったことにある。団地と学生との継続的なつながりを構築するためには、お互いに無理がない形での交流の仕組みを構築しなければならないのだ。

そこで今回、提案するのが、ゲームを通した継続的な交流の構築である。具体的には学生が、「脳トレ」やパズル、運動を伴うテレビゲームに加え、幅広い年代で楽しむことができるボードゲーム

を紹介し、団地に住む高齢者といっしょに遊ぶ機会を設ける。また高齢者からも囲碁や将棋、麻雀などの遊びを教わることで、学生たちも新たな遊びを知る機会となる。

このような交流であれば、お互いに無理がなく、活動自体も楽しみを伴うものであることから、継続性が期待できる。そして認知症予防や身体能力の維持など、ゲームが高齢者に及ぼす効用は大きく、またゲームへの参加を通して住民どうしの交流も生まれるだろう。そして学生にとっても、自分たちの得意分野を活かしつつ社会貢献を行うことができるし、高齢者の実態を知ることで視野が広がり、貴重な学びの機会となるだろう。

まずは１回、試験的に実施してみて改善点を探り、最終的には月に１回のペースでイベントを実施していきたい。

効果の見通し

①住民間コミュニケーションの向上

令和４年度『高齢社会白書』によれば、60 歳以上の高齢者の 1/3 が孤独死を身近な問題だと感じている。その孤独死の予防に効果的なのが近隣との交流であり、ゲームへの参加はその契機の１つとなり得る。孤独死に限らず、日常的な共助の形成にとって、住民間コミュニケーションの向上は有益である。

②大学生との交流の創出

世代を超えた交流自体、有意義なことだが、さらにいえば学生と団地住民との関係が事前に構築されていることで、地震などの災害時、学生による団地住民の避難支援もスムースにいくことが期待できる。

先行研究・連携団体

【連携団体：高幡台団地自治会】

熊本ゼミは 2012 年以来、高幡台団地自治会との交流を続けており、夏祭りの支援、防災イベントの実施などを通して十分な関係性が構築されている。また高幡台団地は自治会組織率が８割を超えている。ゲームイベント実施時には、自治会に広報を依頼し、団地内にある集会所を会場とすることで、多くの住民の参加が期待される。

なお明星大学、自治会、UR の三者は「高幡台団地に係る高幡台団地自治会、明星大学及び独立行政法人都市再生機構の連携に関する確認書」を締結している。

アピールポイント

団地にはあまりいない若者が、大学にはたくさんいる。だったら両者が日常的に交流するようになればいいんじゃないか。それが提案の出発点でした。

ゲームは楽しいし、楽しいので続けやすい。しかも認知症予防にもなるし運動にもなる。一石二鳥です。

コロナ禍で２年ほど休止していた団地での活動を再開し、これから新しい関係を再構築していくためにも、私たちの得意分野であるゲームを通して、団地の方たちとの交流を深めていきたいです。

プレゼンテーション資料

明星大学 人間社会学科 熊本ゼミ
Official 日野団dism

あつまれゲームの団地
～みんなでゲーム、はじめませんか～

篠塚 脩輝　大貫 悠悟
大原 珠実　岡本 悠磨
岸峯 愛　棚田 涼太
小日向 彩　佐藤 尊琉
須崎 亜　鈴木 一輝
中村 未来　吉野 眞斗

はじめに

私たちが通っている明星大学から徒歩10分くらいのところに、**高幡台団地**があります。

これまで熊本ゼミでは、防災イベントを企画したり、夏祭りをお手伝いしながら、**団地のみなさんと交流してきました。**

でも単発的な活動では、なかなか交流が深まりません。

そこで、継続的な活動をするための方法として、**ゲームを使った交流**を考えてみました。

団地の高齢化の実態
日野市の高齢者政策の課題

団地・学生双方のメリット

ゲームを使った交流による双方の効果

実証研究

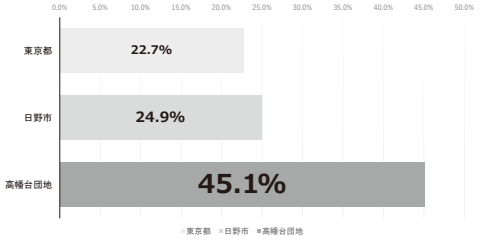
団地の高齢化の実態
日野市の高齢者政策の課題

団地・学生双方のメリット

ゲームを使った交流による双方の効果

実証研究

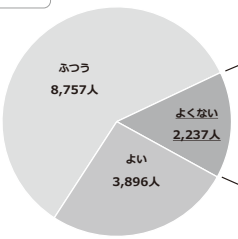
高幡台団地の高齢化の実態



出典：日野市男女別町名別年齢別人口統計（令和5年4月1日時点）　https://www.city.hino.lg.jp/shisei/profile/toukei/1009634/index.html
東京都総務局「住民基本台帳による世帯と人口」（令和5年1月1日時点）　https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/juuky/jy-index.htm

75歳以上
日野市民の

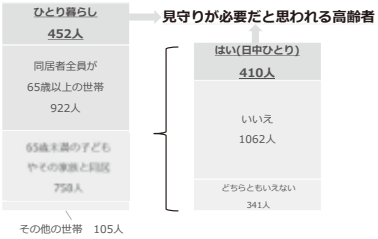
[現在の健康状態]



[世帯の状況]

出典：日野市(2021・2022)「はつらつ・あんしん調査」　https://www.city.hino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/577/r4houkokusyo.pdf

[世帯の状況]

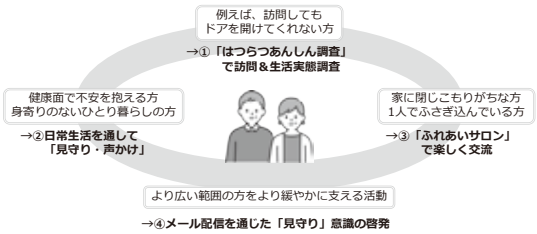


出典：日野市(2021・2022)「はつらつ・あんしん調査」　https://www.city.hino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/577/r4houkokusyo.pdf

日野市には
見守りが必要な高齢者が多い

日野市が高齢化対策として大々的に行っているのが・・・
日野市高齢者みまもり支援ネットワーク

日野市高齢者みまもり支援ネットワークのしくみ



出典：日野市(2023)「日野市高齢者見守り支援ネットワーク事業報告書」　https://www.city.hino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/577/r4houkokusyo.pdf

日野市高齢者みまもり支援ネットワークの問題点

高齢化が進む日野市

日野市・日野市民だけで
続けていくには**無理がある**

日野市高齢者みまもり支援ネットワークの問題点

日野市・日野市民だけで
続けていくには**無理がある**

市内の大学に通う**若者が**
高齢者のコミュニティと
関わればいいんじゃない？

大学生と高齢者との
日常的な交流関係を構築する！

高齢者の**継続的な見守り**に
つなげられる！

まずは**高齢者の多い高幡台団地**での
交流の継続を目指す！

交流手段として何をつかう？

ゲームを使おう！

なんでゲームなの？

いろんな効果があるから！

ボードゲームによる効果

① **コミュニケーション**の促進

② **認知症**の防止

③ **社会人基礎力**などの向上

ボードゲームとは

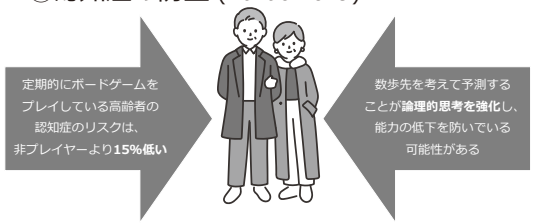
「卓上にボードやコマ、カードを置き、それらを操作することで遊ぶゲーム」の総称。

基本的には電子機器を利用しない
ゲームのこと。

①コミュニケーションの促進 (村本 2022)

出典：村本宗太郎「自己表現を伴うボードゲームと他者とのコミュニケーションに関する基礎的研究 3種のボードゲームプレイに着目して」（2022）

②認知症の防止 (Nakao 2019)



出典：Mutsuhiro Nakao,　Special series on “effects of board games on health education and promotion” board games as a promising tool for health promotion(2019)

③社会人基礎力などの向上

出典：日本ボードゲーム教育協会 研究報告書「ボードゲームによる学びの要素」
https://sites.google.com/view/jbgea/elementoflearning

出典：日本ボードゲーム教育協会 研究報告書「ボードゲームによる学びの要素」
https://sites.google.com/view/jbgea/elementoflearning

高齢者への効果

定期的にボードゲームで遊ぶことで、
認知症や脳の老化防止に繋がる

学生と高齢者の関係

年齢を問わず楽しめるため、
学生と高齢者の**交流の活性化**に繋がる

［事例紹介］デイサービス ラスベガス

「デイサービス ラスベガス」（日本シニアライフ株式会社）では、**ゲームを通してコミュニケーションや脳機能の活性化**を図ることで「行きたくなる施設」を目指している。

ラスベガスの様子

デイサービス・ラスベガスは2013年に最初の店舗をオープン。

現在は関東・中部地方を中心に22拠点を展開している。

出典：デイサービス ラスベガス　las-vegas.jp

団地の高齢化の実態
日野市の高齢者政策の課題

ゲームを使った交流による効果

団地・学生双方のメリット

実証研究

団地側のメリット（岡村　2023）

ゲームなら学生が参加しやすい。
継続的な交流により、地域を知ってもらうきっかけに！

少子化・少子高齢化の進む団地への
活力付与および**地域活性化**へと繋がる期待

出典：岡村克彦（2023）「大学教育における地域連携型学外学習授業の課題と意義-尼崎三和本通商店街プロジェクトを事例として

団地側のメリット（岡村　2023）

大学の知見の活用、
大学教員の専門的知見・ノウハウの利用が可能

地域の活性化へのヒントが得られる

出典：岡村克彦（2023）「大学教育における地域連携型学外学習授業の課題と意義-尼崎三和本通商店街プロジェクトを事例として

学生側のメリット（岡村　2023）

分野	項目	全15名	選択率
学外学習の効果	教室の中だけの授業よりも自分の学びや経験の幅が広がったと思った。	11名	73.3%
	今回の反省点を今後の学外学習活動にぜひしたいと強く思った。	7名	46.7%
学外学習による経験の拡大	地域の人々が優しい暖で大学を見ていてくれていることがわかった。また地域の人々から大学が頼りにされていることがわかった。	5名	33.3%
	高尾駅前や足崎キャンパス周辺とふべて、三和本通商店街は高齢の方が多様の出来が高いことに少し驚いたし、地域貢献活動が必要だと思った。	8名	53.3%
	教室の中だけの授業と比べて、商売すること、起業することを商店で実感することができて、商売すること、ものを売ってもらうことは大変そうだということがわかった。	9名	60.0%
PBL やグループワークについて	1回の授業で、数十分だけおこなう教室内のグループワークに比べて、プロジェクト形式で回数を重ねるグループワークは大変かりで大変であり、しっかりした準備が大かせないこと、機種性や役割分担などチームワークが重要なことがよく理解できた。	12名	80.0%
	PBL型のグループワークにより学外学習は、自分達で考えて、企画し、計画し、実践できる所の多少ない機実であり、今後とも積極的に参加したい。	7名	46.7%

自分の学びや、**経験の幅**が広がる！

地域の理解が広がり、今後の
学外学習に活かせる！

積極性やチームワークの
重要性を理解できる！

出典：岡村克彦（2023）「大学教育における地域連携型学外学習授業の課題と意義-尼崎三和本通商店街プロジェクトを事例として

やってみた！

日時：2023年10月10日

場所：高幡台団地集会所（東京都日野市）

対象者：団地在住の高齢者（男性２名、女性３名）

実施したゲーム①Fit Boxing 2

実施したゲーム②ハゲタカのえじき

実施したゲーム③クラスター

検証結果

男女で反応に違いがあった

男性	女性
勝つことへの喜びを感じて 楽しんでいた！	**恥ずかし**がってしまい 委縮する場面も…
ゲームの基本ルールを説明したら **率先して挑戦し競い合っていた！**	でも **シンプルなゲームは楽しんでいた！**

女性にも楽しんでもらえる方法を
考える必要がある・・・

恥ずかしがってしまい
委縮してしまうのなら･･･

個人戦よりも相談し合いながらプレイできる
チーム戦の方が楽しめるのではないか

難しい心理戦のゲームよりも
シンプルなゲームを楽しんでいた！

クラスターのような**シンプルなゲーム**を用意する

学生と高齢者が性別関係なく交流できる

シンプルな協力型ゲームが
望ましいのではないか？

学生の感想

一人ひとりが**主体的に行動**できた

大学と団地（地域）の人々との
新たなつながりを知ることができた

コミュニケーション能力が養われた

今後の活動方針について

高幡台団地で日常的になされている交流活動

①**憩いどころ**　毎週金曜　13:30～15:00

集会所でコーヒーやお菓子を
食べながら住民同士の会話を楽しむ

②**わいわいどころ**　毎月第2土曜　15:00～

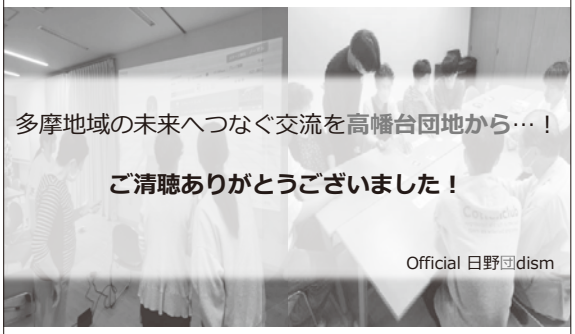
集会所でアルコールも飲みながら
住民同士の会話を楽しむ

高幡台団地で日常的になされている交流活動

①**憩いどころ**　毎週金曜　13:30～15:00

集会所でコーヒーやお菓子を
食べながら住民同士の会話を楽しむ

憩いどころに参加して月に１回
学生が**ゲームを持参し住民との交流を深める**



参考文献（論文）

- 岡村克彦,2023,「大学教育における地域連携型学外学習授業の課題と意義-尼崎三和本通商店街プロジェクトを事例として」『関西国際大学研究紀要』 24号,199-210
- NAKAO Munehiro,2019,Special series on “dffects of board games on health edugation ando promotion” board games as a promising tool for heaith promotion, *BioPsyoSocial medicine,13:5*
- 村本宗太郎,2022,「自己表現を伴うボードゲームと他者とのコミュニケーションに関する基礎的研究－３種のボードゲームプレイに着目して」『常葉大学教育学部紀要』42号, 213-229

参考文献（webサイト）

- デイサービスラスベガス,「ラスベガスの特徴」,デイサービスラスベガスHP,(2023年10月7日, http://las-vegas.jp/feature/)
- 東京都総務局,2023,「住民基本台帳による世帯と人口　　令和5年1月1日時点」,東京都HP,(2023年10月7日, https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/juukiy/jy-index.htm)
- 日本ボードゲーム協会,2022,「ボードゲーム教育における学びの要素」,日本ボードゲーム協会HP,(2023年10月7日, https://sites.google.com/view/jbgea/elementoflearning)
- 日本ボードゲーム協会,2022,「研究報告書」,日本ボードゲーム協会HP,(2023年10月7日, https://sites.google.com/view/jbgea/report)
- 日野市，2023，「男女別年齢別人口統計　令和５年４月１日時点」,日野市HP,(2023年10月7日, https://www.city.hino.lg.jp/shisei/profile/toukei/1009634/index.html)
- 日野市健康福祉部高齢福祉課,2023,『2022 年度 日野市高齢者見守り支援ネットワーク 事業報告書』,日野市HP,(2023年10月7日, https://www.city.hino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/577/r4houkokusyo.pdf)
- 日野市健康福祉部高齢福祉課,2023,「日野市はつらつ・あんしん調査のご紹介」,日野市HP,(2023年10月7日, https://www.city.hino.lg.jp/fukushi/kourei/torikumi/1023657.html)

エントリーシート No.7

法政大学　杉浦ゼミ　江戸東京野菜チーム

ビジネス奨励賞

対象地域：多摩地域

江戸東京野菜 de 学食

伝統的な野菜の活用 × 野菜不足の解消

キーワード：伝統、持続可能性

メンバー　井上春奈・齋藤凜久・杉本未來・和田林莉子　　担当教員名　杉浦未樹

まちづくりの目的・概要

私達は法政大学の学食の１品を開発しました。多摩地域の野菜の活用と大学生の学食に対する意見を両立したメニューを開発するために、江戸東京野菜について調べ、さらに大学生にインタビューを行いました。

私達が目をつけた多摩地域の野菜である、江戸東京野菜は、東京周辺で栽培される伝統的な地域野菜です。これらの野菜を活用することにはいくつかのメリットがあります。

1. 地域の特徴と文化の継承 : 江戸東京野菜は、地域の歴史や伝統を反映しています。これらの野菜を使うことで、地元の特産物や食文化を継承し、地域のアイデンティティを保つことができます。
2. 新鮮さと品質 : 江戸東京野菜は、地元で収穫されるため、新鮮さが保たれています。新鮮な野菜は風味が豊かで栄養価も高く、料理の味を引き立てます。
3. 環境への配慮 : 江戸東京野菜は、地域での栽培に適した品種や栽培方法が選ばれています。地元の気候や土壌条件に適応した野菜は、農薬や化学肥料の使用量を減らすことができます。また、長距離輸送の必要がないため、二酸化炭素の排出量を削減することができます。

これらのメリットから、江戸東京野菜を使用した学食のメニューを開発しました。

また、多摩地域に通学する大学生の野菜不足、学食への悩みを解消するという目標を立て、実際に法政大学の経済学部の学生にインタビューを行いました。すると、「今の学食では野菜不足を感じる」「でも揚げ物が食べたい…」「ワンコインで食べたい」という声が上がりました。こうした大学生の生の声を元に、求められる学食を追求しました。

江戸東京野菜の活用、大学生が求める学食の２つの要素を組み合わせた結果、「鶏と江戸東京野菜の黒酢炒め」という学食の１品の開発にたどり着きました。

効果の見通し

江戸東京野菜を利用することで、地元農家や生産者を支援することができます。地域経済の活性化につながり、地域の持続可能な農業を支えることができます。また、江戸東京野菜は地域の特産物であり、その品質や歴史的背景が注目されます。これにより、地域ブランドの価値が向上し、他地域との差別化が図られます。地域の誇りやアイデンティティの向上にもつながります。江戸東京野菜の活用は、地域において経済的、環境的、文化的な効果をもたらすだけでなく、地域の持続可能な発展や魅力の向上に寄与すると考えています。

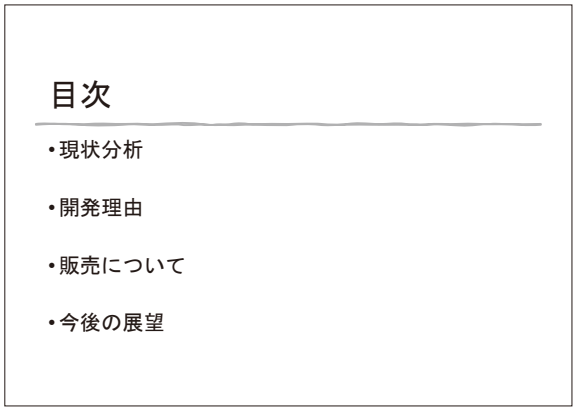
先行研究・連携団体

法政大学経済学部食堂

アピールポイント

私達のグループのアピールポイントは、江戸東京野菜を使用したところです。江戸東京野菜は、東京周辺で古くから栽培されてきた野菜であり、地域の歴史や伝統を反映しています。その歴史的な背景や栽培方法は、食材に対する興味や魅力を高めます。江戸東京野菜は、地域の特産物として地元の人々に愛され、誇りに思われています。地域の食文化や伝統を守り、地元の農家や生産者を支援することで、地域への愛着を感じることができます。「野菜を身近に、そして普段口にすることが少ない伝統的な野菜を手軽に」をモットーに、野菜不足を感じている大学生に江戸東京野菜を届けます。

プレゼンテーション資料



現状分析

•多摩地域には何がある・・・？

•身の回りで起きている問題は何・・・？

テーマ

多摩地域の
“農業”と“食”を支える
ものづくり

商品提案

ベジティナブルスープ

～江戸東京野菜 × サスティナブル～

開発理由

理由①

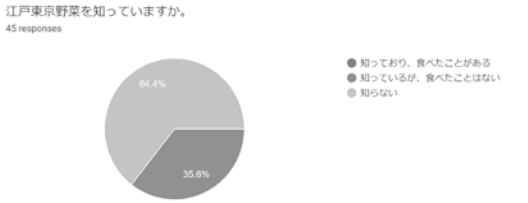
江戸東京野菜の知名度向上
および継承

理由①

江戸東京野菜の定義

「江戸期から昭和中期までの、種苗の大半が自給または、近隣の種苗商により確保されていた、いわゆる在来種、または在来の栽培法等に由来する野菜」

理由①



開発理由

理由②

多摩地域で生産される野菜
を用いた地産地消

開発理由

理由③

若者の野菜不足解消

理由③

野菜不足を感じていますか。
45 responses

このものづくりを通して…

- 持続可能な江戸東京野菜の生産
  ← “**農業**”に対するアプローチ
- 地産地消と野菜不足解消
  ← “**食**”に対するアプローチ

提携先

- 調理および販売　法政大学生活協同組合様
- 野菜の仕入れ先　東京野菜カンパニー様

販売に向けて

経済学部食堂
↓
フィードバック
↓
多摩キャンパス内全ての食堂

今後の展望

法政大学多摩キャンパス内 → 多摩地域の学校 → 学食が多摩地域の農業と食を支える存在に

ご清聴ありがとうございました

法政大学　杉浦未樹ゼミナール　江戸東京野菜チーム

第４章

表彰団体以外の
エントリーシート

エントリー No.1

中央大学　宮本ゼミ　レンコン

対象地域：八王子市

コツコツ増やそうできること！

ひとり親の負担軽減へ

キーワード：ひとり親、子ども

メンバー　齋藤隼磨・鈴木連・宮川知子　　担当教員名　宮本悟

まちづくりの目的・概要

待機児童数は令和４年度では約 3000 人と年々減少傾向になっている。しかし、入園できる保育園があるにも関わらず、特定の保育園への入園を希望している場合は待機児童と算出されない現状がある。無認可保育園では、認可保育園より６から８万円と認可保育園のように所得に合わせた捻出方法ではない。また、場所によっては 10 万円を超える場合もあり、家庭にとってかなり負担になりかねない。現在保育所等利用定員は 302 万人で現在の子どもの人口の約 54％となって全員が認可の保育所等に入所できるとは言い難い状況となっていて、ひとり親家庭ではなおさら苦しい現状になっていると推測する。

八王子市には、ひとり親家庭に対して家事代行や子供の見守りを行うホームヘルプサービスが存在する。子どもの見守り、掃除、洗濯などを行うサービスが行われている。これはひとり親家庭への支援を行うものだが、より子どもの成長を促すためには子ども一人一人の自立性や生活力を上昇させることも重要だと考えた。また、現在子どもがいる家庭の約 12％がひとり親世帯であり、特に母子家庭は平均して一般世帯の約 36％の年収しか稼げないのが現状であるため、基本的にボランティアにて派遣することで需要が高められると予測出来る。

以上を踏まえて、私たちは家事を実践形式で学べるサービスを提案する。子どもが将来必要になると予想され、身近でかつ今後重要となる生活能力を養うため、洗濯や掃除などを実践形式で派遣した大学生や専門学生と一緒に学習する。対象年齢は、幼稚園児や保育園児から小学生までとし、学習内容は年齢に合わせた家事を中心としたことを教える。リスクとなる怪我や事故が発生した場合、ボランティア活動保険や行事保険を採用することで万が一トラブルに巻き込まれても保障されるため、親は安心して判断することが出来ると思う。またスタッフを採用する際は、実際に希望者に会い、軽い筆記や実践を経ることで適切な人材を選出することが可能である。

効果の見通し

このサービスを行うことで、ひとり親家庭における子どもたちの生活能力の向上を図ることができる。ひとり親家庭では子どもの生活能力が成長していくうえで大切な要素になってくる。大学生や専門学生などとともに学習し、年齢に合った内容を学ぶことで、子どもたちの自立精神の養成や、家事を覚えることで親の負担軽減、コミュニケーションの強化にも効果があると考える。また、保育士志望の学生たちの経験値にもつながるため、家庭側だけでなくこれからの教育を担う学生の養成にも貢献できると考える。

先行研究・連携団体

・水無田気流（2014）「シングルマザーの貧困」
・八王子市 子育て応援サイト「ひとり親家庭のサポート」https://kosodate.city.hachioji.tokyo.jp/mokuteki/hitorioyakatei/index.html
・文部科学省「小学校学習指導要領解説　家庭編」https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_009.pdf
・ベネッセ 教育情報サイト「幼稚園では何を学ぶ？　カリキュラムや勉強内容を紹介！」https://benesse.jp/kosodate/201512/20151207-1.html
・全国社会福祉協議会 「ボランティア活動保険」https://www.saigaivc.com/insurance/

・有限会社東京福祉企画 「行事保険 / 行事保険（当日参加対応型）」http://www.tokyo-fk.com/volunteer/document/G1-gyoji2023.pdf"

アピールポイント

お金や時間に余裕のないひとり親家庭に対して、子どもの自立という点において強みを持つ。

親の負担軽減になることに加え、成長して、一人暮らしをする際にも安心して送り出すことができる。また、１対１で教えられるという点で、学校の授業で教わるものよりも確実に能力を身に付けることができることも強みである。着実に能力を育み、自律していくことで、子と親の関係もより良好になり、精神も安定することが期待できる。

エントリー No.4

玉川大学　長谷川ゼミ　町田地域活性化隊

対象地域：東京都町田市

Z 世代向けのイベントづくり in 町田

若者による地域活性化

キーワード：イベントによる地域住民間のネットワーク構築

メンバー　井草・伊東・岩下・内田・指田・塩井・中村・西田・二見　　担当教員名　長谷川英伸

まちづくりの目的・概要

われわれが今回、焦点に当てている町田市内でのイベントの開催には、社会的な背景と目的が関係しています。現在、町田市内で行われているイベントに興味が全く持てず、開催されているイベントの数も少ないというわれわれの考えから、新たな興味深い若者向けのイベントを創出したいという願望があります。町田市の人口は 0 歳から 24 歳までの年齢層で 95,392 人であり、JR 町田駅の乗降客数は 2019 年時点で 1 日あたり 225,080 人です。また、町田氏周辺には、私たちの大学だけではなく、その他の複数の大学や専門学校、高等学校が存在しています。

現在の状況では、若者が遊びや登校で町田に数多く訪れているのにも関わらず、若者向けのイベントが不足しており、他の首都圏地域に比べて、開催されているイベントの数がとても少ない状態です。その結果、今後、町田からその他の地域に若者が流れ、町田に訪れる若者の数の減少が見込まれます。そのため、町田において新たなイベントを企画し、開催することで、地域の子供たちや住民、学生の要望に応え、町田のさらなる発展と成長に期待できます。

さらに、年齢層の動向を見ると、2016 年と比較して 2021 年には 16 歳から 25 歳の人口がわずかながら増加しています。同様に、外国人登録人口も 2017 年以降増加傾向にあります。これらの人口変化を踏まえると、多様性を尊重し、幅広い層が参加できるイベントを開催することが重要です。

さらに、入所児童数は 8.6% 増加し、「認定こども園」の数も 88.8% 増加しています。このことからも、子供たちとその家族が休日に楽しめるイベントの需要が高まっていることが明らかです。

以上の社会的背景と目的に基づいて、町田市内でのイベント開催の概要は、多様性を重視し、特に子供たちに焦点を当てたイベントを計画することです。さまざまな年齢層や地域住民、留学生など、町田に暮らす多様な人々が参加できる場を提供し、地域の活性化と交流促進を図ります。これにより、町田のイベントシーンをより魅力的にし、地域社会において楽しい体験と意義ある交流の場を提供します。

効果の見通し

Z 世代をターゲットとする新たなイベントを創出することによって期待される主な効果として以下の 3 つが考えられます。

第 1 にイベントの参加者が町田駅の周辺施設やイベント会場周辺施設を利用することで、地域経済の活性化の手助けになると考えられます。

第２にイベントへの参加を通じて、Z 世代の者同士が触れ合う貴重な機会となるだけでなく、イベント参加をきっかけとした第２のコミュニティーが新たに形成されることに期待できます。

第３に若い世代と多様な世代の地域住民と交流することができ、新たな連携を構築する可能性があります。

先行研究・連携団体

町田市の主な２大イベント

・キラリ町田祭 2022

会場 原町田大通り / 町田シバヒロ / 小田急駅前東口広場

内容 農産物品評会・野菜宝舟と神輿・花で作ったまち☆ベジマークの展示

地場農産物即売会（野菜・植木その他の農産物）

まち☆ベジグルメ店（町田産農産物「まち☆ベジ」を使用している飲食店）等の出店

・町田時代祭り

会場：芹ヶ谷公園

時代行列　鎌倉武士や農兵隊の様相を再現し、行列を成して市街地から芹ヶ谷公園まで練り歩き。

演舞　芹ヶ谷公園で、砲術、居合抜刀、流鏑馬などを披露。迫力ある様子に、大勢の観客から歓声があがる。

アピールポイント

Z 世代が町田に集まることによってイベントの集客のみならず、町田全体に経済効果をもたらすことが可能になります。若者の情報拡散力を利用して SNS で発信してもらうことでさまざまな地域からの集客が見込めます。町田でイベントを行うことの強みとしては神奈川、東京の間にあることです。町田には小田急小田原線・東急田園都市線・京王相模原線・JR 横浜線の４路線があり利便性に富んでいるため様々な地域からの行きやすさという面ではほかにはない強みを有しています。

エントリーシート No.5

創価女子短期大学　国分ゼミ　創短 SWANS

対象地域：八王子市

私たちが一生住みたいまちづくり

すぐ近くにワクワクと安らぎを

キーワード：社会保障費、税収、労働者人口、交通網、大型商業施設

メンバー　岩﨑・北村・中野・具志堅・平・大家・尾島　　担当教員名　国分さやか

まちづくりの目的・概要

2000 年からの 20 年間、八王子市の人口は微増しており、一見すると人口減少の問題はないように見える。しかし、人口の内訳を確認すると、65 歳以上人口が約 7 万 5 千人から約 15 万 8 千人へと倍増している。一方で労働者人口は約 39 万人から 35 万 6 千人へと減少しており、子どもも減少している。

また、八王子市財政白書によると、2019 年からの３年間で国民健康保険事業は約 1.5 倍、介護保険は約 3.5 倍へと社会保障費が増加している一方で、市税収入額は減少している。労働者人口を増やし、市税収入を増やすことで八王子市の財政を安定させ、誰もが安心して暮らせるまちにしていくためには、八王子市を私たち学生が卒業後も住み続けたいと思うまちにしていくことだと考えた。

【問題点】

- 新宿などの都心からの所要時間は約 30 分と立地は良いが、バスとの接続が悪いため交通の便が悪い
- スーパーや病院、飲食店が点在しており、車がないと生活しにくく、また飲酒を伴う外食の場合には駅前や市外に出ることになる
- 駅前に居酒屋などが集中しており、客引きやスカウト、喧嘩、タバコのポイ捨てや唾の吐き捨てなどが多く、不潔で治安が悪い

- 自然豊かだが広さ故に手入れが行き届いておらず、ユスリカなどが大量発生している
- 携帯電話の電波が悪く、通信が途絶えがちになる

【理想とするまち】

- 交通の便の改善

-- JR の始発と終電など人の流れに併せて動く無人循環電車の設置（月額・年額のサブスクリプション）
…八王子駅、大型商業施設、道の駅、各大学、各団地など人の多い場所を結ぶ

- 大型商業施設を中心とした新たなまちづくり

-- 大型商業施設を基地局とした公共 Wi-Fi の設置
-- 自動車道路と駐車場は地下に設置して環境保全をする
-- 公共セグウェイ（サブスクリプション）を置き、地上での移動をしやすくする
-- 大型商業施設を中心に放射状に歩行者専用の通りを設置
…各通りには公園、カフェ、コンビニを設置してコミュニケーションの取りやすい環境を整える
…各通りではアプリで操作することにより不審な動きをする人物の接近がわかる
--- 病院通り（病院の各科をそろえる）
--- 保育園＆学校通り…商業施設と駅に各保育園への送迎バスを設置
--- 商店通り…注文しておくと大型商業施設のロッカー等で受け取れる等、大型商業施設との共存
--- エンタメ通り…カラオケやスパ、運動施設などの設置
--- 飲食店通り…出入口に身分証提示の改札を設置し、違反者は一定期間出入り禁止
--- 自然通り…川につながる通りに畑や露天風呂温泉を作り、
農作業や環境整備活動をした人は収穫物を持ち帰れる
…学生の食糧事情改善、子どもは小さな頃から虫等の自然に慣れる、高齢者は健康の維持
…ユスリカ対策をし、水遊びやピクニックをしたくなる川にする
--- マンション通り…食堂付きの学生・外国人・高齢者・片親世帯用マンション
…公園・保育園付きの子育て世帯マンション
--- 一軒家通り…マンションと離すことで日当たりを確保し、また静けさを保つ

効果の見通し

交通の便を改善することで、東京で就職をする学生は、学生時代に住み慣れた八王子を離れることなく生活することができる。また、手入れの行き届いた自然の近くに大型商業施設を中心とした治安のいいまちを作ることで、働きながら安心して子育てをすることができる。一方、畑や環境整備を通して高齢者が学生や子どもと触れ合うことで、健康寿命を延ばすこともできよう。その結果、労働者人口と子ども人口が増え、税収入が増えると同時に、介護保険分野の社会保障費を抑えられると考える。

先行研究・連携団体

【先行研究】

・Fon news 2011
「FON と Belgacom がベルギー最大の Wi-Fi ネットワークを構築、100,000 箇所の Wi-Fi スポットを提供」
・創価大学法学部法律学科和足ゼミ 2022
「八王子の治安をなんとかしたい！ ―風俗街と都市空間の比較分析―」
・熊谷 2010
「大規模商業施設と地域社会の共存のあり方に関する研究 - 制度・実態両面からみた可能性と展望 -」
・統計ダッシュボード（https://dashboard.e-stat.go.jp/）
・八王子市財政白書 令和 4 年度（2022 年度）版
・日立評論 2018 vol.100 No.5
「ダイナミックヘッドウェイが実現する鉄道の未来像『定刻どおりの運行』から『需要に応じた運行』へ」
・船橋市「ユスリカ等の不快害虫の対応方法と駆除剤の無料配布などについて」

【連携団体】
・交通…JR 東日本、京王電鉄、京王バス、西東京バス等の鉄道・バス業界、日立製作所、八王子市
・大型商業施設…イオン、Amazon 等の物流業界、八王子市、既存の商店、病院

アピールポイント

私たち学生が卒業後も住み続けられることが､八王子市を再復興させる最大のポイントになると考えます。都心からの所要時間が短い八王子市は、都心の職場へも十分に通える通勤圏内であるため、どの年代にとっても住みやすい生活圏として盛り立てていきたいと考えました。

大好きな八王子を住んでみたくなるまち＆帰ってきたくなるまちにしていきたいです！

エントリーシート No.6

玉川大学　体育・スポーツ教育学ゼミ　ほな、坂いこかー？

対象地域：町田市玉川学園

坂のまち元気プロジェクト

玉川学園で「坂のまち」をアピール

キーワード：域学連携、ウエルネス、地域コミュニティづくり

メンバー　村川・浜崎・池田・岩本・小川・加藤・佐原・谷口・俵・村野・村本・山本・遠藤・園田・武林
担当教員名　阿部隆行

まちづくりの目的・概要

玉川大学の周辺地域である町田市玉川学園では、少子高齢化により、地域コミュニティー衰退や街並みが荒廃する未来になる危険があり、役員のなり手不足、世代間の没交換、空き家問題、街並みを壊す乱開発増加などが深刻な問題となっている。そこで、これらの諸問題を少しでも良くしていくために、玉川学園地域の象徴でもある坂道を利用してイベントを考え、まちづくりを行おうと考えた。

地域の人と協力してまちづくりについて考えていく中で、玉川学園地域にある坂道の名前や魅力などについて知り、玉川学園は坂のまちであるということを学んだ。その中でも大きく学んだことは二つある。

１つ目は、坂道を使ってイベントを考えることで、坂道に対してよいイメージになってもらえれば、街おこしにもなるということである。玉川学園にはたくさんの坂道が存在し、地域住民は通勤や通学で出かける際に坂道を登ったり下ったりする。そのため、玉川学園の住民にとって、坂道は日常的に存在するものであり、いわば象徴的なものである。実際に地域の人と探索をしていく中で、良い写真スポットや運動ができることなど、地域住民だからこそ知っている坂道の良さを学ぶことが出来た。

２つ目は、坂道を使ってコミュニティーを広げることが出来るということである。坂道の雪かきを地域住民全体で行ったり、坂道を登っている際に会話をしたりすることなど、坂道があるからこその一体感を感じることができたり、地域の人達と仲良くなれたりすることができるのである。そのため、坂道を使えば地域住民のコミュニティーが広がるということを学んだ。

これまで学んできたことを踏まえ、坂道を使ったイベントを提案する。具体的な内容としては、坂道を利用した流しそうめんやグリコで坂を登るという企画したり、坂道でのトレーニング方法を考え、坂の要所にトレーニング内容が分かる QR コードを設置し、街全体で健康意識を高めていくことを考えている。このようなイベントは地域住民の交流を増やすことや健康面をサポートすることができ、街の魅力を再確認することができる。また、街並みの美しさを外部の方に知ってもらえるように「坂道ポストカード」を作成し、QR コードを掲載することで地域の活動団体にアクセスできるようにし、街の魅力や活動を発信していく。

効果の見通し

坂道を利用することで住民同士のコミュニケーションが生まれ、地域の交流できる場を設定できたり、住民の運動不足を解消したりすることができる。また、他の地域の人の興味関心を高め、地域が抱えている諸

問題を解決することができるという効果がある。さらに、特徴を生かしたまちづくりを通して、住民が地域に親しみや誇りを持つようになり、魅力的なまちづくりに繋げていくことができる。以上が地域に与える効果であると考える。

先行研究・連携団体

①玉川学園地区協議会「坂のまち元気プロジェクト」会合報告書（2023 年 3 月・4 月・5 月・6 月）
②「域学連携」地域づくり活動 総務省 HP https://www.soumu. go. jp/main_sosiki/jichi_gyousei/o-gyousei/ikigakurenkei.html(2023 年 6 月 26 日参照）

＜連携団体名＞

①玉川学園地区協議会「坂のまち元気プロジェクト」
②玉川トレーナーチーム（大学公認サークル）

アピールポイント

私たちの 1 番の強みは計画を立てるだけではなく、現在進行形で企画が進んでおり、実行に移っている段階であるという点である。現在は 11 月に行われる地域のお祭りで、ポストカードを展示しようと動き始めている最中である。また、大学名と駅や地域の名前が同じという特徴から、学生や教職員も住民のひとりである。そのため、学生や教職員、地域の人が一体となって、街の活性化に繋げることができる。

エントリーシート No.8

亜細亜大学　後藤康浩ゼミ　チームミライ

対象地域：多摩ニュータウン

高齢者のリバビリティを高めることが、多摩地域を活性化する

～交通網・買い物・生き甲斐づくりの強化戦略～

キーワード：高齢化、リバビリティ、コミュニティ

メンバー　松崎・矢部・押切・田中・菊池・白木・畠澤・Amoah Zhao　　担当教員名　後藤康浩

まちづくりの目的・概要

日本の高齢化率がに 28.7％（2020 年、以下同）に達する中で、東京都の高齢化率は 22.2％と全国の都道府県で最も低い。だが、多摩地域では奥多摩町の 48.2％を筆頭に、青梅市の 28.1％、あきる野市の 27.9％など 23 区に比べ高く、多摩ニュータウンを擁する多摩市も 26.5％に達している。多摩地域における最大の課題が高齢化への対応であることは間違いない。ただ、これまでのいわゆる「高齢化対策」は「少子化対策」と同一視され、若年層や子育て世代をいかに呼び込むか、高齢化率の引き下げや出生率を「KPI（評価基準）」という視点が中心だったが、本提案では高齢者を主人公とする高齢化対策、すなわち高齢者が健康かつ活力と生き甲斐に満ちた生活を送れる地域づくりを提案する。

≪目的≫

日本最大規模の住宅地である多摩ニュータウンを高齢者の「セカンド･ライフ･エリア」として、リノベーションする。既存の団地や施設、インフラなどハードウエアはバリアフリー化など最小限の改良にとどめ、リノベーションの重点は「住みやすさ（リバビリティ）」の向上に置く。具体的には、交通網、店舗、雇用の 3 点を強化する。高齢者のリバビリティの構成要素は「移動のしやすさ」「買い物の便利さ」「高齢者であっても取り組める仕事（社会貢献）」であるからだ。リバビリティは行政だけでなく、高齢者市場へのアクセスや人手確保を求める企業、知の社会還元を目指す大学などが協力して初めて創り上げることが出来る。多摩地域はその 3 要素を備えており、日本で初めての「セカンド・ライフ・エリア」を構築することが可能と考える。

≪概要≫

第 1 の「移動のしやすさ」では、低床ミニバスの路線網を高齢者の多い住宅地と商業・自治体エリアの間

で拡充するとともに、乗り合いタクシーなど新たなコミュニティ交通手段を制度的に設ける。自動運転バス・タクシーの試験導入を多摩ニュータウン内で実施することも視野に入れる。第２の「買い物の便利さ」は既存のスーパーマーケットなど商業地域へ直行するミニバス路線を店舗側の一部負担で、高齢者のみ無料で運営したり、移動店舗車を行政支援で地域に定期運行させるなどの方法がある。高齢者の「買い物難民化」を防ぐことが、外出の楽しみなど生き甲斐を高めることにつながる。第３の「高齢者であっても取り組める仕事」は多様である。現役時代の知見・技術を「人材バンク」として登録し、企業に利用を呼びかけたり、商品やサービスのモニター的な業務、高齢者顧客からの問い合わせに高齢者が応答するカスタマーセンターなども考えられる。高齢者が真に求めるものを掘り下げ、応えることが多摩地域の新たな活性化になる。

効果の見通し

リバビリティを高める３つの方策は、限られた予算と地元の企業、大学などとの協力で実現可能である。高齢者が出歩きやすくなることで、地域内購買が増加し、街の賑わいを回復できる。賑わいのある街には様々な層の人も集まりやすい。高齢者が生き甲斐を持つことで、肉体的、精神的な健康を高められるとともに独居老人の孤独死など孤立も防ぐことができる。また、高齢者が持つ知見や時間という無形資産が地域に還元されることは地域文化の向上にもつながる。

先行研究・連携団体

多摩ニュータウンの再生 - 東京都市整備局 https://www.jstage.jst.go.jp/article/uhs/2018/102/2018_58/_pdf/-char/ja

アピールポイント

「住みやすさ（リバビリティ）」はカリフォルニア州の市、郡などで生まれた地域活性化の新たな概念で、交通の利便性向上が人口増や高齢者の活性化につながるという分析もある。高齢者を「従属人口」といったネガティブな捉え方ではなく、「セカンド・ライフ」世代とポジティブに捉え、地域にとっても大きなチャンスがあると考えた。

エントリーシート No.9

亜細亜大学　後藤康浩ゼミ　Agog

対象地域：多摩市

多摩市にアミューズメントパークを作ろう

～ AgogInstitute ～

キーワード：教育、人口過疎、観光

メンバー　高根来斗・三改木翔眞・橋本洸矢・堀内智晴・横井栞・髙橋史帆・河村寧央・CHEN ZHUO
担当教員名　後藤康浩

まちづくりの目的・概要

私たちのまちづくりは多摩地域の人口過疎、高齢化を解消するべく、多摩地域に地域の人も地域外の人も楽しめるアミューズメントパークを作ろうという計画を考えた。気軽に行けて楽しい施設があれば、子供連れの家族を集めることと子供を遊ばせることができるため、集客と子育て支援が見込める。しかし、単に著名なテーマを選んだアミューズメントパークでは風化してしまうと考え、何か特別なテーマを持った施設にしたいと思い、調べてみたところ、14 年前に「多摩テック」という遊園地兼温泉施設が多摩地域にあったことを知った。「多摩テック」はモータースポーツをテーマにした遊園地であり、子供に車を運転する楽しさを経験させて、後に大人になった時に車を買う購買意欲を湧かせるという目的があったと聞き、私たちは子供の頃から触れさせることで大人になっても違和感なくスムーズに生活できるように何かを体験させるアミューズメントパークにしようという着想を得た。そこで、子供たちが大人になっても日常的に触れてい

くものを話し合い、これからのデジタル社会では、仕事や家事など様々な場面で AI に触れると予想し、AI を使うことを体験させるのはどうだろうという意見が出た。AI は学習させれば、自動的に計算することができ、絵を描く、ゲームをする、一緒に話しをするなど、子供が楽しめるようなコンテンツを作ることができる。私たちの考える AI 学習をテーマにしたアミューズメントパークでは、いくつかのエリアを設けて、それぞれ違った AI の使い方を楽しんでもらいながら自然に学べるように設計していく。例えば、絵が描ける AI を使って、リンゴを書いてくださいと言った問題を出し、子供たちにはプロンプトという言わば AI にどういう絵を描かせるのか命令するコマンドを考えてもらい、問題に出されたものを AI に自分で描かせるという体験をしてもらうなど、ゲームを混じえて楽しんで AI を使う体験を得てもらう。AI を使ったアミューズメントパークはたくさんあるが、AI をテーマにしたアミューズメントパークは唯一無二なので、楽しんで AI 学習ができることを売りにしていきたい。また、多摩地域にはたくさん大学があるので、大学で AI 研究をしている大学生にも協力してもらうことで大学生の学習意欲の促成も期待できる。

効果の見通し

テーマパークなので多摩以外からの観光客の獲得ができる、テーマパーク内で人工知能を使っているので地域の学生が中高生が遠足や社会見学等で来場し、大学生が研究などを行うことができるので多摩の学生がこのテーマパークを広めていき、学習意欲の向上ができる。テーマパーク内にお土産コーナーを設置し多摩のお土産を設置することでテーマパークとしてだけではなく多摩としても観光客にアピールすることができ、多摩をより多くの人に知ってもらえる効果もあると考えた。

先行研究・連携団体

https://ja.m.wikipedia.org/wiki/ 多摩テック

アピールポイント

このアミューズメントパークは AI 教育がテーマになっている。私達や次の世代を育てる為に必ず活きてくると思う。また、AI を研究する大学生とも連携するので若者が様々な人と交流を深める場としても使え、アミューズメントパークといってもただ遊びの場ではない。これから AI と暮らしていく世の中になったときに活躍できる人材の育成を促進できる施設にしたいと考えている。そして多摩市の発展の拠点にしていきたい。

エントリー No.10

亜細亜大学　卒業研究ゼミナール　あいすくりぃむ

対象地域：多摩地域

新たな団地の可能性

更なる多摩ニュータウン

キーワード：少子高齢化、人口減少、親子 3 世代

メンバー　神崎・藤田・古市・笠原・金井・斎藤・金・ZHU　　担当教員名　後藤康浩

まちづくりの目的・概要

団地を改良することにより、親子 3 世代が暮らせるような地域にする。　例えば、老人ホームや保育園を 1 階部分に造ったり隣接させたりすることによって、高齢者や外国人も保育園で働くことが出来る。そして交流の活性化にもなると考えた。　他に近くにスーパー有るけれど、スーパーまで行くの辛いなという時や後 1 品おかず何にしようとなった時の為にも、1000 円ガチャみたいな感じで、何か 1 品作れる材料セットのガチャガチャ自販機を設置する。　団地といったら階段のイメージがあるため、高齢者やベビーカーの子をもつ家族の為にエレベーターを設置する。エレベーター設置費用は、国土交通省からの補助金を利用し設置する。車の保有率は東京都は少なく、減少している傾向がある為、駐車場を減らし、その空いたスペース

に小さな公園を創ったり、団地の中心部は郵便局が離れているので、郵便局や ATM の設置したりする事が可能だと考えた

効果の見通し

若者から高齢者まで団地の外から中へ集合し、団地を小さな街『コンパクトシティ』として再生させることが可能だと考えました。　コンパクトシティ化することにより、多摩市がより活性化され住みやすい街になり、人口増加も見込める。 両親共働きが増えてる中、自分の住んでいる所でこどもを預けることが出来て、買い物してから迎えに行くことも可能で住みやすさに更に人気が出るとみる。

先行研究・連携団体

認知症高齢者と学童保育の共存　https://kaigo-postseven.com/2209

優良建築物等整備事業（既存ストック再生型）https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/content/001478482.pdf

アピールポイント

現代の問題が増えていく中で、どれだけ住みやすく生活しやすくなるかをそれぞれ地元の異なる大学生なりに考えた点。団地のリノベーション・・・新しい機能、保育園、老人ホーム、郵便局

エントリー No.11

中央大学　宮本ゼミ　宮本塾

対象地域：八王子市

学びの街、八王子市へ！

小学生を対象とした無料塾運営による教育格差の是正

キーワード：教育、貧困

メンバー　西川真昼・井上栞・山中大地・松尾快音　　担当教員名　宮本悟

まちづくりの目的・概要

１. 小学校教育の現状

ベネッセ総合研究所の「第５回学習基本調査」によると、2015 年度の小学生の通塾率（全国データ）は 39％であり、およそ２～３人に１人が塾に通っているという現状がある。つまり塾に通っていない小学生は 60％ほど存在し、この中には塾に通いたくても何らかの事情により通えない児童も存在すると考えられる。塾に通えない原因としては様々な要因が考えらえるが、私たちは特に経済的要因に着目している。具体的には金銭的余裕がなく塾に通えないなどである。この経済的要因が子供の教育格差につながると考え、教育格差をなくすための対策を提案する。

２. 小学生対象の無料塾の提供

私たちは、小学生を対象とした無料塾を大学生と協力して運営することを提案する。

日本財団（2018）によると、学力が低いまま学年があがると学力向上が難しくなるということが分かっているため、小学生の教育格差をなくすことが重要である。しかし現在八王子市には中学生・高校生対象の無料塾はあるものの小学生対象の無料塾は存在しないため、新たに小学生対象の無料塾設立を提案する。

無料塾の講師は教職志望の学生メインとし、ボランティアを募集する。「令和３年度公立学校教員採用試験実施状況」によると、公立学校教員試験の受験者数は全国で約 13 万人であり、東京都でも約９千人の学生が教員を目指している。このような学生にＳＮＳや八王子市ホームページ上での募集、大学のキャリアセンターやゼミ・サークル・ボランティア団体を通じて募集を行いボランティアで講師を依頼し、無料塾へ派遣する。教職志望の学生に講師を依頼することは、学生にとっても、数の少ない教育インターンシップと似た経験を積める場となるというメリットがある。

私たちが提案する無料塾は個別指導ではなく集団授業で運営する。集団型授業を行うことにより、指導を受ける小学生側にも講義を行う大学生側にもメリットがある。小学生側のメリットとしては、集団授業でのコミュニケーションを通して社会性形成が期待できることが挙げられる。今後社会に出て行く際、小学生のうちから社会性を形成することは重要であるが、個別指導ではこれを実現することは難しい。また、大学生側のメリットとしては、実際の小学校での授業形態を経験することができるということが挙げられる。教員を目指している学生からするとこの経験の場は大変貴重であり、今後の就職活動や人生経験に役立てることができる。

これらのサービスを提供する場所として、八王子市内の児童館を提案する。八王子市ホームページ内の「八王子市子育て応援サイト」によると市内には児童館が12か所存在する。これらの場所で無料塾の運営を行い、そこへボランティア講師の派遣をする。

３. 無料塾運営における３つの目標

私たちは無料塾の運営において以下の３つを目標とする。

１つ目は教育の機会均等である。小学生の通塾率が上昇しているなか経済的要因から塾に通えない子供が存在することを踏まえ、無料塾を運営することで経済的要因により学びの機会を得られない子供の支援を行い学びの機会を均等に与えることを目指す。

２つ目は子供の社会性形成である。無料塾の授業体制を集団授業にすることにより講師と子供の間だけでなく子供たち同士の交流が生まれる。既存の集団塾とは異なり学力向上のための授業だけでなく講師と子供たちとの間でコミュニケーションを取ることで、子供が気軽に話や相談ができる関係性を作る。子供たちにとって無料塾が居心地の良い場所となり、また講師の大学生にとってもより実際の小学校と近い環境で子供たちと触れ合える場となる。

３つ目は子供の認知能力･学力の向上である。私たちが提案する集団型の無料塾に参加することによって、学習することの楽しさや集団で動くことの重要性を理解してもらうきっかけを提供することで子供達にとって無料塾の意味を見出すことができると考えられる。無料塾運営の一番の目標は経済的格差をなくすことであるが、同時に子供の学力向上も目指す。そのための指導の工夫や環境の提供も重要である。

効果の見通し

小学生を対象にした無料塾の運営から、教育格差の拡大を低学年の段階で阻止することができ、経済的弱者にも学習の機会や将来への希望を与えられる環境づくりができる。

また、講師を大学生から募集することで、教職志望の学生は体験授業を経験でき就職活動に役立てることができる。教職を志望していない学生においても教育に興味をもつきっかけになる。

以上のことから、多摩地区（八王子市）の学園都市としてのさらなる知名度向上、教育現場の持続性につながると見込める。

先行研究・連携団体

・ベネッセ総合研究所（2015）「第５回学習基本調査」https://berd.benesse.jp/up_images/textarea/gkihon_data_syou.pdf
・文部科学省（2018）「平成30年度子供の学習費調査」https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa03/gakushuuhi/kekka/k_detail/mext_00102.html
・文部科学省（2020）「令和４年度（令和３年度実施）公立学校教員採用試験の実施状況のポイント」https://www.mext.go.jp/content/20220909-mxt_kyoikujinzai01-000024926-5.pdf
・八王子市ホームページ「八王子市子育て応援サイト」https://kosodate.city.hachioji.tokyo.jp/scene/kodomonoibasho/jidoukan/1599.html
・日本財団（2018）「家庭の経済格差と子供の認知・非認知能力格差の関係分析」https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/wha_pro_end_07.pdf
・独自調査：かわさき芽吹塾　代表者へのインタビュー調査

アピールポイント

私たちは、小学生の教育格差をなくすという目標を掲げ昨年から活動を続けている。昨年の「大学コンソーシアム八王子　学生発表会」にて八王子市長に直接プレゼンを行い、優秀賞を獲得した。無料塾は経済的な理由で塾に通うことができない生徒にとって貴重な学習機会となる。今年は実現に向けてさらに研究を重ねていく。

エントリー No.12

中央大学　宮本悟ゼミ　さとる食堂

対象地域：多摩地域

さとる食堂で子供たちの貧困を救おう！

持続可能な新しい子ども食堂の提案

キーワード：貧困、食育、機会均等

メンバー　大塚陸翔・山口滉太・鈴木里佳・大塚信太朗　　担当教員名　宮本悟

まちづくりの目的・概要

現在、日本の７人に１人の子どもが貧困状態にある。その子どもたちは、経済的困窮を背景に教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立し、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にある。さらに、親が１人で夜遅くまで働く場合が多いため、子どもと接する時間が短くなり、1人での食事を強いられる。また、子ども自身が自ら家事をこなすため、勉強時間や放課後遊ぶ時間の確保が困難となっている。これらのように、「子どもの貧困」は深刻であるにもかかわらず、あまり知られていないという現状が存在する。

また、貧困状態にある子どもは、十分な食事をとれていない場合が多い。親の仕事の忙しさから、インスタント食やコンビニ弁当中心の食生活となり、栄養摂取の偏りがみられる。成長期の子どもにとって、栄養バランスのとれた食事は重要であり、健全な成長に欠かすことができない。

私たちはこの子どもの貧困問題への対策として、無償で習い事やご飯の提供を行う場所、「さとる食堂」を提案する。「さとる食堂」では、小学生・中学生を対象とした子どもに、食事の提供や習い事を行うことで、家・学校の集まりではない第３の居場所を提案する。「さとる食堂」では、小学校や中学校の体育館や教室を利用する。まず、食事の提供に関して、親の帰りが遅くなり家で１人になることが多い子どもや、貧困のため十分な食事がとれない子どものために、弁当を提供する。弁当は、学校の近くのお店に協力してもらい、弁当を作ってもらうことを想定している。弁当の財源は、市町村の協力と駅前など多くの人が集まる場所で寄付を募る。寄付のための活動は、財源の調達だけでなく、「さとる食堂」について多くの人に知ってもらうきっかけにもなる。そして、習い事に関して、具体的にピアノ・書道・体操・学習を想定している。生活に苦しい家庭は、習い事に通うことができない人が多いため、普段できないことを「さとる食堂」を通して実行する。

「さとる食堂」には、大きく３つのメリットがある。１つ目のメリットは、金銭的な理由で習い事ができない子どもへの習い事体験を提供できることである。２つ目のメリットは、周りの子どもが自身の習い事のコミュニティを持っているのに対し、「さとる食堂」という新たなコミュニティを提供できることである。3つ目のメリットは、「さとる食堂」というコミュニティを提供することで、裕福な家庭の子どもに比べ、親が仕事で不在になることが多い貧困家庭では、1人で食事をする「孤食」という状況を減らせることである。

効果の見通し

「さとる食堂」を実施することによる効果は、地域における子どもたちの食料の貧困（孤食を含む）・学習の貧困・体験機会の貧困などの様々な貧困の解決をはじめ、地域の高齢者やボランティアの人々に協力してもらうことで、そこでのコミュニケーションを通じて地域の交流やつながりを促進すること、そして子どもたちの社会的・経済的な格差をなくし、何かに縛られることなく、子どもたちへ平等な機会を提供することができるということが挙げられる。

先行研究・連携団体

https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/ouen-forum/r01/pdf/tottori/naikakufu.pdf
https://www.moj.go.jp/content/001388754.pdf
https://cfc.or.jp/wp-content/uploads/2022/12/report_taikenkakusa.pdf
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/ishiki//h29pdf.html

アピールポイント

現在、子ども食堂は数多く存在し、その形や方法は様々だ。子ども食堂は、子どもたちの貧困をなくしたいという多くの人の思いで成り立つものである。私たちも同じ思いを掲げ、この「さとる食堂」を提案することに至った。その中で、場所はどうするのか？食事はどこから持ってくるのか？諸費用はどう集めるのか？誰を対象とするのか？など、様々な問題を考える中で、重要なのは「長く続けられること」だと考え、持続可能でかつ、新しい子ども食堂を提案する。

エントリー No.13

亜細亜大学　高石ゼミ　ビストロアジア

対象地域：八王子

八王子産サラダボウル

～日本の伝統文化と街おこしを添えて～

キーワード：訪日外国人観光客、伝統芸能、桑都、織物、芸者

メンバー　宮原・山下・佐藤・本間・小堀・野島　　担当教員名　高石光一

まちづくりの目的・概要

八王子市はかつて、多摩地域を代表する繁華街として発展し、西武百貨店や大丸、伊勢丹、そごうなど複数の百貨店があり、多くの買い物客でにぎわっていた。また、2020 年の八王子市の人口は約 58 万人と、2005 年の 56 万人と比べ増加傾向にある。しかし人口が増加しているのにも関わらず、百貨店は次々と閉店、撤退、エリアの地位低下がたびたび話題となった。そこには、同じ中央線沿いの立川、吉祥寺の発展に後れを取ったことだけでなく、様々な電車が集約する駅であり、都心から一時間であるというアクセスの良さが裏目に出てしまい、八王子を出て買い物を行う人々が増加しているという理由がある。

この近年商業地として衰退傾向にある八王子市を発展させたいと考えた際に、私たちは、八王子市のいくつかの点に目を付けた。まず、八王子市の代表的な観光地として高尾山がある。高尾山はミシュランガイドで三ツ星という高評価を得ており、コロナ禍前には登山者数が年間 300 万人と世界一を誇っている。しかし、都心から京王高尾山口駅を目指すと北野駅で分岐するため近くても八王子駅を通過することがなく八王子駅に目的が無ければ降りることは無い。この高尾山に訪れる観光客を八王子駅で降ろすことができれば駅周辺の集客の増加が期待できる。つぎに、八王子市は桑の都、織物の街と呼ばれ様々な伝統的な背景や歴史があるという点である。八王子市は織物産業で栄え、労働者が多くいたため、夜の街としても栄えた。大正時代には東京六代花街と呼ばれ、200 人もの芸者を抱えていた。1950 年には 45 軒の料亭、芸者は 215 人を数えた。しかし高度経済成長期から徐々に衰退し、今では伝統的な過去の文化となり、八王子市が芸者の街だということを知っている人は少なくなっている。織物はもちろん、芸者の文化を世に発信し、特に訪日外国人に向けたアプローチをすることによって、ミシュランにも載っている高尾山を観光し、八王子駅で日本の伝統芸能に触れることによってさらに日本を堪能することができる。また、訪日外国人ターゲットとした伝統文化に触れるイベントの開催を現在協力関係にある八王子商工会議所を通じて、芸者団体、呉服屋、武道教室、和太鼓チーム、お囃子団体などと協力して企画することで、八王子駅に立ち寄る理由ができ、経済的な効果や、観光地としての新たな課題の発見につなげることができるのではないかと考えた。

効果の見通し

訪日外国人をターゲットとして八王子の持つ日本文化、特に伝統として残っている織物や芸者の良さを売りにしたイベントや体験教室を開催して観光客の増加を図る。観光客の増加に伴って八王子市民の感心も増加するのではないかと考え、八王子全体での国際交流のきっかけになる。また経済を回すことでより街を豊かにし、さらなるイベントの規模拡大・旅館の規模増大に繋がるようにする。八王子は学園都市と言われているので、過去にやっていた学生主体で行うイベントなども復活するのではないかと考える。

先行研究・連携団体

八王子商工会議所では、八王子で過去に行っていたイベントの話や昔と比べて今がどのように変化したのか。結果として生まれた問題は何かについて様々な情報を入手することができた。また商店街沿いでは三代にわたり商売をしている方を訪ね、八王子の歴史や現状を実際に体験した人たちから見てどのように変わったのかを聞くことができ、様々な情報を得ることができた。それらをもとに調べ、今後の方向性を話し合うこととした。

・八王子商工会議所
・八王子ロータリークラブ

アピールポイント

八王子商工会議所がとても協力的であることから、様々な情報を入手しながら芸者や織物を中心とした文化を利用して街づくりを行うことができるのではないかと考える。地域コミュニティが広いため、実際に現地調査に行きやすいという点から、町の人の声をネットではなく直に聞くことができる。メンバーの約半分が、八王子市内のアクセスや人の流れを理解することが出来ている。そのため分析を行いやすい。芸者や織物の体験やイベントについては､すでに場所があるので今まで以上の集客方法を考えればすぐに実行できる。またSNSを利用して宣伝を行い観光客を呼び込む。

エントリー No.15

創価女子短期大学　青野ゼミ　多摩活性化 A7

対象地域：多摩地域

多摩団地活性化プロジェクト

～団地を賑やかに～

キーワード：団地、まちづくり、再生

メンバー　澤田優美・北村野乃子・桑江香織・廣部文美・磯部美咲　　担当教員名　青野健作

まちづくりの目的・概要

多摩エリアは、昭和から平成にかけてニュータウン開発が進んで以来、人口が増えている。それに伴い住宅供給が増えていたが、高度経済成長の時代の終焉とともに、住宅の形態も量から質へと変容し、多種多様なタイプの住宅が供給されるようになった。他方で、社会課題として挙げられる「超高齢化」が進み、老年人口が急増する一方で、将来的には大幅な人口減少が見込まれるエリアでもある。
このような背景の中、当初大規模団地を始めとした住宅にも、団地の老朽化が進んだり、空き家が増えることも社会課題として挙げられる。これに対して、例えば、奥多摩町子育て移住定住サイト「おくたま暮らし」では「空き家バンク」があり、このようなプラットフォームによる空き家対策は行われている。また、老朽団地を構想マンションに建て替えるなど、自治体としても再生計画を行っている。

これらの対策には、空き家をなくすことや、若い世代を呼び込むなどの一定の効果はあると考えられる。しかしながら、いずれも住居に特化した施策であり、空き家を減らすプラットフォームも応募者次第であることから消極的な側面も懸念され、大規模改修工事もコストの面でも持続可能な取り組みとは必ずしも言い切れない側面がある。したがって、超高齢化社会と共に、空き家問題が社会課題として懸念される多摩エリ

アにとって、持続可能な「まちづくり」という視点が益々求められるのではないだろうか。

以上のような問題意識に基づき、私たちは、日本で同じような課題を克服しているプロジェクトを探していく中で、福岡県宗像市の「さとづくり 48」の取り組みに関心を持つようになった。必ずしも多摩エリアと全く同じ団地ではないが、このアイデアやコンセプトを多摩エリアで活かすことができれば、多摩のまちづくりが非常に活性化するのではないかと考えている。具体的には、将来的に増加するであろう空き団地を一つのコミュニティ拠点として活用し、住居の枠を超えて、ビジネス・若者や高齢者を巻き込んだコミュニティ構築・子育てなど、地域の文脈に応じて、多摩の短所を長所に変えて、まちづくりへと積極利用する取り組みを目的とする。そこでは、現状の建物を活かしながら、カフェや保育園、地域の私塾やイベント会場へと変え、次世代の人たちに受け継いでいくまちづくりを行う。

効果の見通し

空き家や団地の空き部屋の問題を新しいコミュニティーの「スペース」として捉えることで、高齢化社会及び人口減少を迎える多摩エリアに対して、地域の活性化ができる余地を増やしていく効果が見込まれる。具体的には、高齢者の孤独死をなくす、育児ノイローゼに悩まない母親のためのコミュニティー構築であったり、不登校学生や若者が非行に走らないように地域全体で育て、日本での地域活性化のモデルケースにしていく。

先行研究・連携団体

・さとづくり 48（福岡県宗像市の地域活性化の取り組み）https://stzkr.com/
・奥多摩町子育て移住定住サイトおくたま暮らし「空き家バンク」https://www.town.okutama.tokyo.jp/cgi-bin/recruit.php/1/list?page_no=2144
・多摩若者サポートステーション https://www.tamayss.jp/
・こどものケガを減らすためのプラットフォーム https://www.my.metro.tokyo.lg.jp/w/000-20230216-00011457
・八王子学園都市大学「いちょう塾」https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a7891236/p020410.html　https://web.my-class.jp/icho/asp-webapp/web/WTopPage.do
・多摩市 HP「空き地の適正管理について」https://www.city.tama.lg.jp/kurashi/kankyo/bika/1002295.html
・多摩市 HP「不登校対策」https://www.city.tama.lg.jp/kosodate/1008018/1008024/1008093/1008098/index.html"

アピールポイント

私たちの提案の一番のポイントは、「短所を長所に変える」というコンセプトを普及することにある。高齢化や空き家という課題に対して、多くを学ぶことができる人材の宝庫と捉え、その知見などを活かせる場所が広がっていると捉えるという意識改革をベースに置いている。多摩のまちづくりを全国のモデルケースにできるよう、産官学の連携をベースに新たなタイプのまちづくりを創造していくことを提案したい。

エントリー No.16

玉川大学　長谷川ゼミ 3 年生　sun

対象地域：玉川学園前駅周辺地域

大学から 1 番身近な地域問題を解決して、よりよい関係を築いていく。

玉川大学として地域に密着していこう

キーワード：商店街、高齢化、学部連携、チケットサービス

メンバー　宇田風雅・大矢公輔・金本聖士・小林輝星・佐藤瑞樹・清水柊真・墨田秀昭・富井勢太・中村源造・中山太陽・益子尊　　担当教員名　長谷川 英伸

まちづくりの目的・概要

テーマを考えるにあたって、多くの問題の中から、一番身近な問題を選択した。

現在、多摩地区を含む全国の商店街で高齢化などが進み、若者が離れている現状に目をつけた。我々のゼミでは、この問題を解決するための施策を考えた。そこで、玉川学園前駅の商店街に焦点を当て、課題解決と商店街繁栄のための施策を考えた。玉川学園前駅前の商店街を選択した理由は玉川大学から一番近い商店街であり、大学にも協力的な団体であったからだ。実際に玉川学園前駅の商店街でも、高齢化が進み、空きスペースが発生している。さらに駅の利用者は多いが、商店街を利用する人が少ないのが現状だ。商店街の利用者を増やすためにも我々が提案する施策は、商店街限定のチケットを発行するサービスだ。

実際にこのチケット制度を導入した事例としてキラキラ橘商店街の事例を参考に、商店街内の加盟店で使用できるチケットを発行する。購入金額に合わせ、特典として金額のプラス、優待などのサービスも展開する。チケットサービスを導入することで販売設定が難しい、手数料をいくら取るのかなどの不安がある。
我々のゼミでは、このチケット制作に関して商店街との連携を初め、他学部と協力（工学部にデザインを依頼、農学部と商店街の商品販売のためのマッチアップ等）し、発行のサポートから、加盟店に対して手厚いサポートを行っていく。

チケット制にして、商店街のみで利用できる金券を作ることで、利用しないのは勿体無いといった心理的な面からも利用を促すことができる。
そして、このサービスは将来的に安定して継続ができる事業になると予想する。

我々は、実際に町田市役所に商店街の市としての現状や課題などを取材に行き、様々な意見をいただいた。町田市全体の商店街の課題として、店舗側、利用者側ともに高齢化が進んでいた。アプリ開発を考えたが、店舗、利用者側に高齢者が多いということもあり、どの年代でもわかりやすく簡単に利用できるチケット制度を採用した。

このサービスをもとに商店街と大学で友好関係を築きあげ、大学生が商店街を利用してもらうものを大学生目線で考えた。これまでの友好関係をより密接に、良い相互関係を築き上げる様にしていきたい。

効果の見通し

我々がこのサービスを行うことで見込める効果は大きく分けて２つある。１つ目は、将来性があることだ。玉川大学農学部では現在、はちみつ、ジャム、レタスなどの商品を作っている。地域限定商品を作ることで今後の利益増加にもつながる。２つ目は、コミュニティの場が増えることだ。クーポンを配布するということは、商店街の利用客と利益が必然的に上がることはコミュニティの場が増えることを意味する。つまり、地域の人々のコミュニケーションの活性化は地域の活性化に結び付く。

先行研究・連携団体

連携団体

玉川学園南口商店街・玉川学園北口商店街・町田市商店会連合会・玉川大学農学部、経営学部

先行研究

玉川学園南口商店街・玉川学園北口商店街→インタビュー調査
町田市商店会連合会→インタビュー調査
東京都町田市経営観光部産業政策課→インタビュー調査
下町人情キラキラ橘商店街→インタビュー調査、イベント開催時に行っているクーポンの配布を参考

参考文献

https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/shoutengai77sen/

アピールポイント

玉川大学は、最寄り駅である玉川学園前駅から徒歩３分でアクセスできる。そのため駅利用者の多くは玉川大学の学生となっている。駅から商店街までの距離もほんのわずかであるため、何かトラブルがあった場合でもすぐに駆け付けることができたり、地元の人との交流が図りやすいという利点がある。また、我々長谷川ゼミは「株式会社 IUC ネクサス」という学生が運営している企業を持っている。この企業は、中小企

業と協力して事業に取り組む活動を行っている。少額ながらも利益を出すことに成功しており、最近では、中小企業だけでなく様々な団体とも協力関係にある。例えば、「NPO 法人プラナス」との事業では、彼らが製造している町田市の特産物であるまちだシルクメロンを使ったゼリーを、我々が EC サイトやイベントに出席して販売する事業を行っている。秋学期には、商品開発やパッケージの改善などの活動にあたるため、今後も継続的な利益が見込める。

エントリー No.17

和光大学　公共政策ゼミナール　グループＡ

対象地域：都心

ちょこサイ通勤

電車通勤区間の一部を自転車通勤に！

キーワード：満員電車、自転車通勤、地域活性化

メンバー　飯田天輝・志村宗汰・村山未来　　担当教員名　稲田　圭祐

まちづくりの目的・概要

問題の現状

□　近年、三大都市圏における通勤電車・バスの高い混雑率が問題視されてきたが、リモートワークの推進や生産年齢人口の減少等により混雑率は徐々に低下してきている。しかし、東京圏を中心とした一部の路線・区間については、今尚高い混雑率である。そこで、多摩地域の公共交通機関の混雑緩和を目的として、電車通勤の一部区間を自転車通勤に変えてもらう「ちょこサイ通勤（ちょこっとサイクリング通勤）」を提案する。

「ちょこサイ通勤」の概要

□　公共交通機関を使って通勤している従業員を対象とする

○　自宅から会社の最寄り駅までの間の電車通勤区間のうち数駅分を自転車通勤に切り替えることで公共交通機関における混雑を緩和することができる。（自宅最寄り駅を一つ先の駅に）

○　自転車通勤によって今まで利用しなかった駅や街を利用するため、その地域に新たな需要が生まれる可能性がある。（「ちょこサイ通勤」利用者が新規顧客になる）

□　想定できるメリット

○　従業員のメリット

有酸素運動を行うことにより気分転換やストレス解消につながる。

アメリカのプリンストン大学の研究チームの動物実験では、運動によって脳のストレスへの反応が弱まり不安を感じにくくなると発表しており、メンタルヘルスの改善にも有効である。

○　企業のメリット

従業員が定期を使っていた区間を短縮できるので経費（交通費）の削減につながる。

「ちょこサイ通勤」を促すために

○　一部区間の自転車通勤を選択した従業員には、会社側は減額した交通費の一部を従業員に自転車通勤手当などとして支給する。

○　アプリの作成

・　制度を利用する従業員の個別番号でログイン可能なアプリを作成し、参加（協力）企業や商店等で利用可能な自転車通勤ポイントを発行。

・　アプリ登録時にポイント付与（500Pt）を行うことによって「ちょこサイ通勤」利用を促す。

・　ポイントは商店街等での商品購入などに利用できるようにすることで地域活性化につなげる。

効果の見通し

地域のメリットとしては、今までその駅周辺に来たことなかった人たちが来てくれることで、商店街や施

設等での新たな客層の獲得や消費需要の増加が見込める。

こうした新たな人の流れや消費需要が創出されれば、地域において新たなプロジェクトや新規事業が生まれる可能性があり、駅周辺のみならず、多摩地域全体の活性化につながる可能性がある。

将来的には、新たな駐輪場の整備、自転車専用道路の整備、さらには駅周辺施設の拡張などといった新たな都市計画につながる可能性がある。

先行研究・連携団体

【参考資料】

「医療法人社団　平成会 , 運動がメンタルヘルスに与える影響」（https://onl.bz/gMx1wpN,(2023-07-17)）

【連携団体】

ネットワーク多摩に加盟している企業や団体

アピールポイント

自転車通勤を促進することにより公共交通機関における混雑を解消しつつ、従業員個人の心身の健康を改善することができ、仕事の効率が上昇し不安感も改善される。また会社側の経費削減も見込まれる。さらには、近年問題視されている商店街の衰退・過疎化の改善も自転車通勤を通して普段行かない店に行く機会が増えるため、地域活性化につながることも期待できる。

エントリー No.19

亜細亜大学　高石ゼミ　AUSP

対象地域：多摩地域

年中楽しめることができるアウトドアサウナ

~feel of nature~

キーワード：アウトドアサウナ、自然、学生、経済効果、多摩地区

メンバー　熊谷亮祐・神保慧・我伊野伶音・寺地大樹・福田朋也・山田幸輝　　担当教員名　高石光一

まちづくりの目的・概要

背景

多摩地区の人口は減少しており、さらに問題となっているのは老年人口の割合が増加している点だ。多摩地域の総人口と老年人口比率の推移予測のグラフを見ると、老年人口の割合は増加を続け 2040 年には人口の半分以上を占める一方、老年人口を支えていかなければならない 64 歳以下の人口は減少を続けていくことが予想されている。このような現象は全国各地で予想されているが、人口減少と高齢化の進行がその地域の衰退を招くことは間違いないだろう。こうした現状を打開するために、都市部の若年層を多摩地区に取り込むことが有効であると考える。

目的

近年若年層を中心にサウナが流行しており、定着してきている。新型コロナウイルスの影響によって一時は客足が遠のいたが、2023 年現在は以前と同じ水準まで回復している。これは近年の健康意識の高まりと、サウナが持つ様々な健康的メリットが合致しているからだ。サウナの健康的メリットをまとめると、温度刺激でストレス解消、温度刺激でストレス解消、温度刺激でストレス解消、血行促進で肩こり解消、減量効果、自律神経を調節して血管強化、心臓機能も亢進、交代浴で自律神経の訓練、汗腺・皮脂腺も清潔に、身体を温めるとＨＳＰも増加するなどといった 10 個以上の豊富な健康的メリットがある。そしてサウナを屋外で楽しむアウトドアサウナも盛り上がりを見せている。これは自然の中で川などを利用して、自然を感じながらサウナを楽しむものだ。多摩地区が有する豊かな自然はアウトドアサウナに最適であり、サウナを活用して若年層を取り込んで多摩地区の活性化をすることを目的とする。

概要

(1) アウトドアサウナ：夏季以外でアウトドアサウナに取り組むことによって、サウナ好きには自然の中でサウナに触れてもらうことにより、非日常を感じてもらい、また、多摩地区近郊の人々にもサウナ・多摩地区の良さを伝える。

(2) 多摩地区のサウナ施設に協力・連携を依頼し、サウナ業界全体で多摩地区の地域活性化を試みて、サウナイベントの拠点となっていただく予定。

以上のような取り組みから、アウトドアサウナを年中楽しめることができる地区にしていく。多摩地区は自然が豊かで、都会からアクセスしやすいことからバケーションの場として選ばれる多摩と認識され、アウトドアサウナを通じて多摩地区の活性化と経済効果に繋げる。

効果の見通し

サウナは流行ではなく生活に定着しており、その中で学生が多摩地区の自然を活かしながら、アウトドアサウナに取り組むのは話題性もあるため新規事業として可能性を秘めている。そして、アウトドアサウナにより若年層や多摩地区周辺の都心部に在住している層の需要・関心を喚起し、多摩地区に足を運んでもらうきっかけを作り、多摩地区全体の経済効果の向上が見込まれる。

先行研究・連携団体

私たちの大学の卒業生であり、株式会社 YourColor 主宰であり、TABISAUNA を運営している松本理央氏にご協力いただきました。また、あきる野市のレンタルサウナ「トトノウジャパン」様のご協力の元、進めていきたいと考えています。さらにサウナを活用して町おこし先行成功事例として大分県豊後大野市の「おんせん県いいサウナ研究所」に近日中にお話を伺う予定となっています。

サウナの健康的メリットに関しては日本サウナ・スパ協会「サウナならではの身体効果」https://www.sauna.or.jp/kisochishiki/saunabook_5.html 2023 年 7 月 14 日確認　を参照しました。

アピールポイント

多摩地区の渓谷は、夏季には BBQ や川遊びなどで、自然と集客できることが魅力である。しかし、春･秋･冬の季節においては、気候の寒さや厳しさが集客に影響を与える課題が存在する。その中で、「年中楽しむことができるアウトドアサウナ」を事業にすることにより、どの時期でも集客が見込める。また、日本有数な自然を活かした別視点の自然アクティビティを通して、多摩地区の魅力がより向上することを信じている。

エントリー No.20

東京都立大学　都市政策科学科　チーム smkhk

対象地域：多摩市諏訪・永山・貝取・豊ヶ丘・落合・鶴牧

ラジオ体操でみんなが元気に！

～多摩の農業とともに～

キーワード：コミュニティ、団地再生、高齢者福祉

メンバー　角 和泉・小谷 望人・羽賀 さとみ・下内 かれん・三井雄太　　担当教員名　松井 望

まちづくりの目的・概要

現在、多摩地域の団地群では高齢化と孤立の問題が現れている。これによって、地域レベルでのコミュニティの崩壊や“まち”の活気の喪失などの問題が懸念される。さらに、これらが深刻化することで、高齢者の引きこもりによる健康不安も危惧されている。また、多摩地域には多数の生産緑地は残しつつはあるものの、農地の維持は年々困難となっている。以上の問題を解決するにはどうしたら良いのだろうか。私たちは、近隣センターなどで地域の高齢者が集まるイベントの開催によって、団地におけるコミュニティ再生の問題を包括的に解決できると考える。

このイベントは主に３つのセクションで構成される。

１つ目のセクションは、ラジオ体操の実施である。これは、夏休みの朝のラジオ体操のように、6:30 の放送に合わせてラジオ体操を行うものである。ただし、今回のイベントでは、参加者に後述する物産展で使うことができるクーポンの配布を行う。これによって、ラジオ体操を行う地域住民にインセンティブ 付けができるため、より多くの高齢者を集めることができると考える。また、ラジオ体操を行うにあたって近隣の高齢者向けに体操教室を開いている方々を呼ぶことで、フィレルの予防に関心がある方、少し体が不自由な方でも安心してラジオ体操を行うことができる。

２つ目のセクションは、物産展の実施である。これは、多摩地域に存在する生産緑地で生産された　農産物を、ラジオ体操の参加者を含む地域住民に向けて販売するものである。この物産展では、ラジオ体操の参加者はクーポンで農産品を安く購入でき、生産者側は運送費を節約することでより多くの利益を出すことができる（この運送費の節約分がクーポンによる割引である）。これにより、地産地消を振興できる。

３つ目のセクションは、料理教室の実施である。これは、物産展で販売する農産物の一部を使って、ラジオ体操の参加者を含めた地域住民全体で料理を行うというものである。これによって、人々は同じ目的の元で協力して作業するため、地域住民同士の関わり合いが深くなる。また、料理教室を通じて地域の農産物に触れることで、地域の農産物に対する関心が高まり、今後の物産展における売り上げの増加が見込める。

最後に、このイベントは年中毎日開催する。ただし、開催場所は回ごとに異なる。具体的には、丁目ごとに存在する近隣センターないしは集会所、公園、また歩行者専用通路の交わる広場空間を順々に回っていく。これは、流動的な住民交流の促進によって、高齢者の孤立を防止することを目的としているためである。

効果の見通し

先述した通り、このイベントは地域における高齢者の孤立を防止することを目的としている。そのため、地域レベルでは高齢者の交流強化や人流増加によるまちの活力の強化が効果として考えられる。また、これに連関する効果として、地産地消の促進、料理イベントでの高齢者の知の交換による新たな料理レシピの創出、まちの活力の強化による若年層の転入促進などの効果を見込むことができる。

先行研究・連携団体

ラジオ体操だより，“緊急事態宣言中の体力低下を予防する集合住宅の取り組み【その１】～キーパーソンがラジオ体操で呼びかける～”，https://note.com/taiso123/n/n5a13add6b0e8,（参照 2023-07-14）

上記の取り組みでは、ラジオ体操の取り組みによって年齢を超えたコミュニティが形成されている。現在の多摩地域の団地の住民構成は高齢者が中心であるため、世代間交流という点では難しいかもしれないが、高齢者同士の交流への参考であるかつ、現在の永山地域における世代交代を踏まえると、有効な参考事例である。

アピールポイント

このイベントは、既存設備の活用によるものであるので、使用権関係がまとまれば、少ない初期投資によって行うことができる。それでいて、地域への多大な波及効果を見込めるだけでなく、他の地域への発展性も多分にある。そのため、高齢化が進む現代日本における地域振興策、また、現在各地方での「まちで稼げ」「協働せよ」の号令にも則ることができると考えている。このイベントを全国土における地域活性化の起爆剤としたい。

エントリー No.21

東京都立大学　都市環境学部　都市政策科学科　チーム A

対象地域：多摩地域全体

「多摩大祭り」によって祭りを復興

祭りを結び付けて地元と多摩地域内外のつながりを強化する

キーワード：地域復興、観光、多摩地域の知名度 UP

メンバー　小林陽佳・福井貫太・田邉裕汰　　担当教員名　松井望

まちづくりの目的・概要

私たちは多摩の地域活性化のために、現在各地域で開催されている祭り同士を結び付け、祭り間の交流により、祭りの復興・活性化と多摩地域の一体的な PR を生み出すことを提案する。

現在、都市部におけるコミュニティの希薄化に加えてコロナ禍における外出自粛などの影響によって各地の祭りの存続が危うくなっている。今後は地域住民の祭りへの興味がさらに失われていき、祭りの廃れが加速することも想定されるだろう。これを防ぐために、私たちは多摩地域内の全世代の人々に加えて多摩地域外の人々にも働きかけることが重要だと考えた。祭りとは、本来、その土地の文脈の中に存在するものである。そのため、復興・活性化を図るには地元とのつながりを呼びおこさなければならない。

具体的な方法は、1) それぞれのお祭りに大学生が中心「地元でつくられたもの」をテーマにした屋台を出店する、2) 個別の祭りごとではなく多摩地域の祭り全体がリアル / バーチャルな広告媒体を利用して多摩地域内外に PR を行い祭りに訪れてくれる人を増やすこと、3) 祭りに訪れてくれた人たちにその祭りの地元のことをリアルで知ってもらい、祭りの参加者同士の交流を広げていく、の 3 つのステップを挙げる。

1 つ目のステップでは、「地元とのつながり」という共通項から多摩地域各地の祭り同士の結びつきを作ることを目的としている。この際、大学生が企画と運営を主導することで、地元同士の緩やかなつながりの橋渡し役を務め、交流を促進する。

「『地元でつくられたもの』をテーマにした屋台」では JA や地元のお店と協力し、その地域らしいものの購入・体験を想定している。これにより後述する三つ目のステップの達成や官民学住が協働することで地域全体の活力の向上につながっていくだろう。

2 つ目のステップは、1 つ目でできた祭り間の共通項を利用する。個別の祭りごとではなく多摩地域全体が一体となり、ストーリー性を持った PR をポスターや幟といったリアルな広告媒体と SNS やポータルサイトといったバーチャル上での広告媒体を利用して行う。そうすることで、「いつ、どこで、どのような祭りが開催されているか」や「どの祭りでどのような地元商品が販売されているか」といった情報をより効果的に多くの人に提供することができる。なお、リアルな広告媒体は情報を伝えるだけではなく祭りの雰囲気を伝える景観資源にもなるため有効であろう。これらにより、多摩地域内外の多くの層を祭りに誘導することが最終的な目的だ。

3 つ目のステップではこれまでのステップを組み合わせ、各地の祭りをまとめた「多摩大祭り」としてアピールを行い、常にどこかでお祭りが開催されていることを強調し、多摩地域内外のさまざまな人を呼び込んでいく。多くの人に地元のことをリアルで知ってもらい、かつ SNS の相互コミュニケーションという利点を生かし祭りの参加者、運営側の交流を促進する。このようにして、祭りが終わった後ももう一度多摩に訪れたいと思わせることや、多摩地域で作られたものを買いたいと思わせることを通じて持続的な地域活性化を図っている。

効果の見通し

本企画は伝統的な祭りの維持・活性化によって多摩地域内外からその地域を訪れる人を増やし、かつ多摩の地域資源をリアルで知る機会を提供するものである。そのため、祭り当日の単純な経済効果も期待できるが、それ以外にも持続的な多摩地域への訪問、オンラインショップなどでの地元で作られたものの購入、ポストコロナ時代における子育て世代の郊外への移住などにつながっていく効果があると私たちは考えている。

先行研究・連携団体

加賀淳一．世界農業遺産「能登の里山里海」の祭りが直面するコロナ禍．農村計画学雑誌．2021 年 40 巻 1 号 p. 22-25

山下良平、岩佐拓弥．伝統的祭事における担い手多様化に関する住民意見の規定要因．農村計画学雑誌．2019 年 37 巻 4 号 p. 382-391

石川県七尾市における「熊甲二十日祭」では、石川県立大学の学生サークルである「学生援農隊あぐり」がかかわっている。大学生が地域住民と同じように祭りの運営の一員として活動している事例は、地域性の違いはあるものの、多摩地域での祭りへの学生参加に有効である。

アピールポイント

本企画では、地域の祭りの維持・活性化についてそれぞれの祭りに対して個別に対応するのではなく多摩地域全体として魅力を発信するというのが最大の特徴となっている。祭りが開催されている地域の範囲を超え、さらに地域の大学生が媒介役となることで祭り同士や祭りと地域住民・団体の関係を強化することができると思い、私たちは企画の内容を議論した。リアルとバーチャルを組み合わせながら、リアルの結びつきを強化していくところに着目してほしい。

エントリー No.22

玉川大学　立野ゼミ　立野ゼミ第 2 班

対象地域：多摩市

児童養育施設建設計画

待機児童のために

キーワード：待機児童・保育所

メンバー　田口英太郎・西郷光・三谷花央・松浦陽花　　担当教員名　立野貴之

まちづくりの目的・概要

私たちのグループは、50 人を超えた待機児童の問題がある多摩市（1）に対して魅力的な提案をする。私たちは、待機児童を受け入れ、子供たちに学習の機会を提供する保育園から幼稚園への進級システムを導入することを提案する。私たちの提案では、待機児童を受け入れ、学習の機会を提供する保育施設を設立することを目的とする。この施設は、保育と教育の両方の特徴を備えており、3 歳以上の子供たちが空きのある保育所に優先的に進めるようなシステムを導入する。この提案のメリットは次のとおりである。1. 保育園制度をシステムの中に組み込むことで、0 歳の赤ちゃんから預かることができまる。2. 共働きの親でも安心して子供を預けることができる。3. 保育園側から定期的に子供の様子を連絡してくれるため、親は安心して仕事に集中できる。

しかしながら、保育園や幼稚園の土地確保、また寺院印不足の問題が考えられる。この提案では、厚生労働省が管理する児童福祉施設を認可保育所として活用することを提案している。建築基準法の第 42 条に定義される道路に接している土地や建物を利用し、乳児室（0 歳児室）と幼児室（1 歳児室）は保育室（2 歳児以上室）とは別のエリアとし、天井までの壁で区切られた独立した空間とすることと決められている（2）。また、保育室は 1 階に配置する必要がある。面積の基準としては、1 人の子供に対して乳児室が 1.65 平方メートル以上、幼児室が 3.3 平方メートル以上、保育室が 1.98 平方メートル以上という基準が設けられている。さらに、都道府県知事などの許可を得ていない保育施設を認可外保育所とし、「認可外保育施設指導監督基準」に基づき、広さは人数に応じて異なる。保育室の面積には、おおむね乳幼児 1 人当たり 1.65 平方メートル以上という基準が設けられている（3）。そこで、多摩市には整備されていない土地や空き家が多く存在していることに着目し、これらの土地を保育園として活用することで、施設の問題は解決されていくのではないか、と考えている。

そして現在、保育園の増設において、人員不足が深刻な問題となっている。保育士の確保はもちろん、ア

ルバイトスタッフの雇用も必要である。この問題に対処するため、募集方法を工夫することが必要である。まず、より広範な範囲で募集を行うため、さまざまな求人媒体や掲示板を活用することが重要である。また、募集のハードルを下げるために募集方法を簡素化し、応募数を増やすことや、保育士やアルバイトの賃金を増額することで、人員の確保を図ることも考えられる。次に、保育士の専門学校や資格取得を目指している学生の教育実習の場として、学生を受け入れることが第二の解決策である。これにより、人員不足の問題を解消するだけでなく、実習を経験した学生が将来保育士として正式に雇用される可能性もある。美容室のような業界では、この制度が多く導入されている。保育園でも同様の制度を導入することで、保育士の養成が容易になると考えられる。近隣には玉川大学の教育学部や、立川市の東京立川こども専門学校があり、ここに通う学生たちもアクセスしやすい環境であり、人員確保はより容易であると考えられる。

効果の見通し

現在、多くの空き地が存在しているが、これらを有効活用することは、土地の高騰による問題の解決につながる。例えば、保育園の建設を考えると、空き地を活用することで、通常土地代にかかる費用を保育士や他の職員の給与に充てることがでる。これにより、子供たちは多摩の自然環境の中でのびのびと成長することができるだけでなく、職員にとっても働きやすい環境が整えられる。また、この取り組みにより、子育て世代の移住や人口増加も期待できる。

先行研究・連携団体

「住んでもらえるまち・選んでもらえるまちの追求」という協定の基本理念で、京王電鉄株式会社との包括連携協定を多摩市は結んでいる。また、地域発展を目的とし、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社やベネッセコーポレーションとも包括連携協定を結んでいる。

参考文献

(1) 多摩市「認可保育所等※１の令和４年度４月入所の待機児童状況」 最終閲覧日 2023/7/19　https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.city.tama.lg.jp%2F_res%2Fprojects%2Fdefault_project%2F_page_%2F001%2F003%2F517%2Fr404taiki.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK

(2) 内閣府「保育の現状」 最終閲覧日 2023/7/19　https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kaigi/meeting/2013/committee/130321/item7.pdf

アピールポイント

この計画の魅力は、多摩市の待機児童問題を解決するだけでなく、低コストで多摩市の発展を実現により、待機児童問題の解決と共に多摩市の発展を推進できる点にある。近隣の市で待機児童問題に直面している人々がこの施設を利用するために多摩市に移住する可能性も期待できる。そして、既存の空き地を活用することで、経済的な負担を最小限に抑えながら施設の建設が可能である。これにより、多摩市は魅力的な居住地としての地位を高めることができる。

エントリー No.23

創価大学　勘坂ゼミ　えすでぃーじー湯

対象地域：八王子、多摩

八王子の銭湯を学生で活性化

銭湯を新たな形へ

キーワード：銭湯、ソーシャルビジネス

メンバー　佐藤広宣・谷口貴彦・橋本直道・大塚恵　　担当教員名　勘坂純市

まちづくりの目的・概要

近年国内の銭湯の数は､約半数にまで減少しています。厚生労働省大臣官房統計情報部「衛生行政報告書」

によると、平成 20 年には 5700 軒ほど存在していた銭湯が、平成 29 年には約 3700 件にまで減少しています。私たちはこのままだと銭湯が将来、一軒も無くなってしまう状況を危惧せざるを得ません。そこで、私たち創価大学生の馴染みのある八王子市の銭湯にフォーカスし、八王子市の銭湯をエシカル消費という面で将来に残していきたいと考えています。そこで私たちは、八王子市の学生を対象にした八王子の銭湯を利用してもらえるサービスを作りたいと考えています。また問題を認識したきっかけは二つあります。一つ目は、子供からお年寄りまでほっとすることができ、地域のコミュニティの一つとしての銭湯を未来に残していきたいと考えたからです。近年、銭湯が減少しているというニュースを見ている際、幼少期の頃、父親に銭湯に度々、連れられていた記憶を思い出しました。当時は、銭湯の良いところをあまり実感できていませんでした。しかし、その頃の父親との思い出はかけがえのないものであったと、現在の年齢になって実感しています。実際に、私たちの勘坂ゼミの中でも、このような銭湯の思い出を持った大学生が多数います。そのため、自身が将来父親になった際、子供との思い出をつくることができる銭湯を残していきたいとの強い思いがきっかけとなりました。

二つ目は、昨今のガス代の高騰に伴い、エネルギーの節約に興味を持ったからです。実際に、昨年と今年の私のガス代を比較すると、同じ月かつ同じ使用料にも関わらず、差額は約 1500 円にもなり、日々の節約を考慮しなければならなくなりました。そこで、私たちは、省エネルギー化を目的とした銭湯の新しい利用方法がないかと考えたからです。

私達は実際に八王子に二件ある銭湯「稲荷湯」と「松の湯」に行きました。そこでは若い世代にも来てほしいとおっしゃっていました。また過去には、新規のお客様を増やすイベントの実施もしていました。例えば、過去には、新規の人を呼ぶ T シャツイベントの実施や、学生割引の回数券等が挙げられます。しかし新型コロナウイルスなどの影響により、それぞれの効果は薄かったとのことでした。

そこで、私たちは、銭湯の活性化を目的とした新たなサービスを展開しようと考えています。例えば、銭湯に化粧品などの試供品を置くことで今までにはないアメニティが充実した学生へコミットした銭湯になるという風に考えています。

また対象は学生を考えております。それは私たち自身の大学生という特徴を最大限に発揮できると考えたからです。また、私たちは幼い頃に銭湯の思い出を持った世代だと考えています。したがって、同じような考えや思いを持つ学生が、銭湯に足を運ぶチャンスではないかと思っています。

効果の見通し

銭湯ができた時の公衆衛生を保つという目標に加え、銭湯という伝統的、文化的な施設を生かしながら新しいまちづくりを展望しています。そして、学生が銭湯に足を運ぶことによって、現在全国で減少傾向にある銭湯の衰退を八王子から発信で抑制する見込みがあります。またエシカル消費の視点から、各家庭におけるお風呂にかかるガスと水道の消費量と銭湯のガスと水道の消費量を比較し、エシカル消費における銭湯の有用性を見出します。

先行研究・連携団体

杉並区高円寺にある小杉湯などでは、電子マネー決済への対応、毎週のイベント開催、三日に一度の代わり湯、地元の商店や、様々な企業とのコラボなど様々な企画をしている。また東京都の取り組みでは、東京 1010（セントー）銭湯クーポンを展開しており・東京都初の無料入浴配布キャンペーン、期間令和 4 年 7 月 23 日～ 12 月 31 日、都内にある QR コードを読み取ることで無料入浴券（モバイルクーポン) がもらえる仕組み、利用回数は 12 万回以上を数えた。

参考文献

「東京暮らし web」https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/chousa/yokujyo/hojyokin/sportevent.html
「日経プラス 9」https://video.tv-tokyo.co.jp/nkplus/episode/00098686.html

アピールポイント

銭湯は年々減少しています。特に八王子の銭湯は現在 2 件しか残っていません。実際にその二件へ訪問し課題や今後についてお話を伺った結果、銭湯は地域としてのコミュニティや家族での思い出をつくることが

できる場所だと思ったからこそ、銭湯を再興していくことに少しでも貢献したいです。また身近で歴史のある施設は銭湯だと思います。銭湯という文化的遺産を私達の子供の代まで継承できるように助けたいです。

エントリー No.24

明星大学　明星大学経済学部公認団体 EADS　EADS 多摩コン支部

対象地域：多摩センター周辺の団地商店街

商店街から作る地域発展

地域と学生と未来のリーダーために

キーワード：商店街、学生参加、長期的

メンバー　亀山・島田・伴・小林・安田・山崎・下田・鹿倉・川島・小山・白鳥・佐藤・吉住・田中・久保田
担当教員名　波田野匡章

まちづくりの目的・概要

多摩地域では都心回帰、少子高齢化などの問題をはじめとして様々な問題を抱えている。

それらの問題を実際に考えたときに私達は大学のある地域の周りにある団地の中の商店街に目が付いた。団地の中にある 15 店舗程度のお店が入る区域に、今ではそのほとんどにシャッターが下ろされ多い場所でも５店舗程度しか営業していない。そのような商店街がいくつもあった。

私達はこのような商店街にその地域周辺に住んでいる高校生や大学生の力を使い発展させ、最終的には商店街から団地、団地から地域へと発展させていく力を育むためにはどのようなことができるかを考えた。

商店街を学生の力で発展させることで得られるメリットはいくつかあると思う、しかしその具体性をとらえきれなかった私達はまず商店街の衰退の原因として考えられる問題を私たちの中で再定義し、そこから学生の力でできることはないかを考えることにした。

原因を考えた私達が再定義した問題とは、大型店との競合による利便性の欠如とそれに対して独自性で勝負できない商店街の現状である。

団地の周りや生活圏には最低限スーパーやコンビニなどがあり。日常で使う便利さという面で商店街はその優位性をあまり発揮できなくなった。どうしても品ぞろえや営業時間では大型企業が持っている店舗の方が便利さは優っているだろう。そこで、コンビニやスーパーとの差別化を図るために商店街側は新しいことや専門性が求められるだろう。しかしそれができる店舗は少子高齢化に伴う後継者問題や老朽化による修繕費用などの問題で少なかったのではないだろうか。

これらの問題に対して私達は学生たちが商店街に関わっていくことで解決できることがあるのではないかと考えた。学生たちに商店街の現状を知ってもらい､商店街や団地の発展につなげるために案を２つ考えた。

１つ目は商店街の空いている物件を使い学生が集まれる場所を作り、その地域の人達と交流できる場所を作るということだ。まず何よりも、商店街の現状を学生たちに知ってもらいたい。そのためにも地域の人間と関わる選択肢を増やすことが重要なのではないかと考えた。

２つ目は商店街や団地を使ってその地域の人たちと文化祭のようなイベントを開くことだ。

学生と地域の人が一体となって何かのイベントに開催・参加することはお互いの距離を縮める上でも重要だと考える。

効果の見通し

短期的には商店街のある地域に学生が来ることで新たな需要を生み出す可能性があること。更に商店街への問題に対して目を向けられる環境を作りやすくなることがあげられる。

長期的には学生が商店街に関わっていった結果新たなイベントや商品を学生側から提案し、その実現性を商店街や地域の人たちと模索することでお互いの成長につなげられること、地域コミュニティの強化により困ったときに頼れる場所にお互いがなれるかもしれない。

先行研究・連携団体

京都府の学生×地域つながる未来プロジェクト商店街編

高校生が５人程度のグループを作り同じように商店街発展のために１年をかけて活動した。報告書では地域が遠かったため連絡や日程調整が難しかったと書いてあったためなるべく近い地域でやる方がいいだろう。

東北芸術工科大学　ハナサクヤマガタ

東北芸術工科大学が主催し企画構想学科の２年生が中心となり企画運営しているイベント、山形市内を山形県内の幼稚園児・小学生たちの作った花笠で飾るもの。

アピールポイント

学生や学校が商店街の発展に手を貸す事例が大量にあることを調べている最中に知り、正直この案はあまりにも凡庸かもしれないとも思った。しかし、調べていく中でそれらの案はどれも短期的でどちらかと言えば地域や商店街に利が多くなるように作られている案に見えるものばかりだった。学生主体にあるいは学生がいやすい商店街を長く続けるためにどうしたらいいか、それをこの案では重視して考えてみたいと思っている。

エントリー No.25

法政大学　杉浦ゼミ　A 班

対象地域：多摩地域

多摩の空き家活用

多摩の世代をつなぐ複合施設を

キーワード：空き家、地域開発、ライフスタイル

メンバー　加藤大貴・増川颯良・増子奏美・福嶋幸育　　担当教員名　杉浦未樹

まちづくりの目的・概要

多摩地域の空き家を活用した複合型施設を提案したいと考えている。多摩地域の空き家問題を解決し、多摩で育ち、学び、暮らす様々な世代が交流する拠点を作り、みなで地域を支える新たなライフスタイルを発見できる街づくりを目指すことがその目的である。そうした地域のライフスタイル多摩の魅力を発信し、観光客や移住を目的とした人口増加を促進させたい。

日本全体で空き家数は増加傾向にあり、多摩地域も例外ではない。2017 年に発行された「多摩けいざい」（2017）によると、2013 年の段階で、全国の空き家数約 820 万戸で、空き家率 13.5% であったが、その後一貫して上昇傾向にあり、世帯数の減少が見込まれていることから、2033 年には全国の空き家数は約 2147 万戸、空き家率 30.2% にまで増大し、３軒に１軒が空き家になると予想されている。これに対して、多摩地域の空き家数は、2013 年の時点で空き家数約 22 万戸、空き家率 10.8% となっており、全国平均よりは低い。この値だけ見ると深刻な問題ではないと思われるかもしれないが、今後、多摩地域では、急速な高齢化が見込まれている。高齢化は、生産年齢人口の減少と合わせて進行しているため深刻である。生産年齢人口は、2010 年の約 279 万人から 2030 年には約 243 万人へと減少し、その後も減少し続けると予想されている。これに伴い空き家問題が本格化し、2033 年には全国とほぼ同等の３軒に１軒が空き家になると見込まれている。空き家は景観の悪化や不法侵入、倒壊、放火による火災など様々な社会問題を引き起こす。こうした問題を多摩地域は抱えていくことになる。

これらの問題を解決するためには、いまから多種多様な世代・価値観を持つ人が交流し新たなライフスタイルを発見すると共に、衣食働を多摩地域内外の人々が体感できる複合型施設の提供が効果的だと考えた。空き家を利用し、地域の抱える問題を解決すると共に多摩の住民増加を図り、生産年齢人口を増やすことを狙いたい。空き家をリノベーションし、多摩地域ならではの衣食働を提供する複合型施設を提案する。空き家を改修し、カフェ、特産品や伝統工芸品の販売などのセレクトショップ、コワーキングスペース、ヨガや

ピラティスのレッスン、子供の遊び場、読み聞かせスペースなど、多種多様な世代が集まり、交流し、新たな価値観やコミュニティを発見できる拠点を提供する。

効果の見通し

空き家を改修した複合型施設が、新しいコミュニティを生み出し、多摩地域であらゆる世代が充実した生活を送るための拠点となる。カフェ、セレクトショップ、コワーキングスペース、健康活動、子供の集う場所という、多摩で働き暮らすことを支え、また広い世代の人々が交流する場をつくると、地域にあった暮らしを自分たちでつくっていこうとする姿勢を高める効果がある。その中で、多摩の自然との共存する健康的な暮らしのありかたをつくりだし、地域外へも発信できるようになる。

先行研究・連携団体

連携団体は主に市町村の地方自治体だ。八王子市では、地域の活性化に資する都市庁が認めたものに限り、空き家の利活用等を促進するため、空き家の改修工事に要する費用の一部を補助している。その改修工事を市内の施工業者が行うことで、地域経済の活性化を図っている。また、奥多摩町では、空家等の有効活用による地域の活性化と、町民と都市住民との交流拡大を図ることを目的として「奥多摩町空家バンク」を開設している。このような多摩地域の地方自治体と連携を図りたい。今後、実現に向けて協力していただける企業を探し、本格的な事業化へと進めていけるかが今後の課題である。https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/life/003/001/004/p014381.html　https://www.town.okutama.tokyo.jp/kosodate/ijuteijujoho/teijushien/akiyabanku/2193.html

アピールポイント

多摩地域の空き家を改修した複合型施設を通して、多摩での次世代の新たなライフスタイルを提供する。また、地域に付加価値をつけると共に、日本全体が社会問題として抱えている空き家問題を解決し地域活性化と繋げていくモデルを構築する。そして、多摩地域のあらゆる世代が集う拠点を提供し、多摩で育ち、学び、働くことのできる持続可能なまちづくりを促進し、貢献していける存在として地域や地元の人々と密接に関わっていく。

エントリー No.26

玉川大学　石川ゼミ　こうじのお庭

対象地域：多摩地域の大規模団地

かつての賑わいを取り戻す多摩地域団地再生プロジェクト

「多世代交流団地リターンズ」

キーワード：団地再生・空き家問題・多様性・地域活性化

メンバー　岡村奏美、川井陸也、黒田和哉、下村真音、福島史衣、前田大輝　　担当教員名　石川晃士

まちづくりの目的・概要

【背景】

東京都 (2015) によると、戸数規模 1,000 戸以上の住宅団地は都内に 82 か所あり、区部に 44 か所（約 54%）、多摩地域に 38 か所（約 46%）となっており、市町村別では、八王子 5 か所、町田市 5 か所、立川市 4 か所と私たちの身近な玉川大学周辺にも大規模団地が存在する。

町田市の代表的な大規模団地である木曽山崎団地は、人口が 1998 年から 2011 年にかけて約 35% 減少し、木曽団地は同期間で約 20% 減少している。また、同団地地区は高齢化も進み、60 歳以上の居住者の割合が、山崎団地では約 50%、木曽団地では約 42% である（町田市 , 2012）。同市の 60 歳以上の割合が約 30% であるため、比較するとはるかに、団地では高齢化が進み、空き部屋問題も顕著になっている。町田市では、2013 年に「町田市木曽山崎団地まちづくり構想」が策定され、その後、2022 年には「町田市都市づくりマスター

プラン」が策定されているが、私たちが調査した現在でも従来の活気を取り戻すことはできていないのが現状である。

国土交通省の調査（2018）では、住宅団地への活性化への取組を実施していない全国の市町村は 70%（N = 556）という結果もある。その主な理由は、「問題意識がない」「優先度が低い」「ノウハウ不足」などが挙げられている。しかし、先進事例の提示やノウハウの共有により、住宅団地再生の取り組みに至る可能性は十分にあると考えられる。私たちの独自調査では、団地の空き部屋を大学生に利用してもらうことで団地再生を促し、地域活性化に繋げる取り組みを望む声があった。

【目的】

多摩地域の大学と同地域の市町村、そして同地域の団地の多摩地域らしい産学官連携を学生が中心となり醸成し、多摩地域の大学に通う学生に地域連携の団地への入居を促す仕組みを創出、推進することで、高齢化が進んだ団地にかつての活気を取り戻し、地域活性化に貢献する。

【概要】

多摩地域は全国有数の大学の集積地であり、43 大学、学生数でも約 18 万人の学生数を誇る（東京都統計部，2020）。そのような多摩地域で学生が中心となり多摩地域の大学と市町村、そして団地の産学官での連携で学生の団地入居を促す仕組みを作ることは、団地再生と地域活性化を促すことになる。具体的には、多摩地域の大学間のネットワークを通じ、市町村、大規模住宅団地に働きかけ、学生に安価な家賃での団地入居を促す仕組みを創出する。

私たちの UR 都市機構へのヒアリングでは、これまで全国の大学の個別事例で、UR 都市機構と市町村、各大学が連携しての学生の団地入居促進の取り組みが確認できた。一部には、防災訓練や自治会活動への参加義務付けの代わりに学生の家賃を割り引く仕組みを確立している。しかし、これらはあくまで個別大学の取組である。団地は高齢化が進み、孤独な高齢者が多い。そこで多摩地域の大学集積の特徴を生かし、多摩地域の産学官連携での大学共通での学生の団地入居を促す仕組み、それを活用した多世代交流（団地農場や孤食防止の食事会など）は、全国に類を見ないような地域全体の活性化に繋がる。

効果の見通し

高齢化が進む団地に、学生という若い世代が団地に加わることで、多世代の地域住民との繋がりの強化に繋がる。また、その繋がりは、災害が発生したときにも活かすことができ、学生と団地の安心と安全を確保することが出来る。さらに団地内に農場を作るなどは、高齢者の外出を誘い、多世代交流による団地での生き甲斐づくり、栽培したものを利用して食事会企画をすることで孤食防止に貢献できる。また経済面としても、例えば木曽山崎団地を事例に世帯数と戸数から空き部屋数を推定し、平均家賃を 4 万円と仮定すると、空き家数が約 700 戸の現状を学生が利用したとすると、最大で 2,800 万の収益が見込まれる。現実的には、そのうちの 15% である 105 戸、420 万の収益を目指す。そして大学 4 年間住み続けると想定すると上記社会的効果とともに安定的な経済的効果が見込まれる。

先行研究・連携団体

空き家問題のある近隣団地（木曽山崎団地）へ視察を行い、団地の現状・周辺環境の把握を行った。NPO 法人みずきの会、UR 都市機構へのヒアリングを行い、木曽山崎団地の現状や住民の声・目指したい団地のあり方についての把握を行った。

【事前調査先】

・NPO 法人　みずきの会
・独立行政法人都市再生機構　東日本賃貸住宅本部

【参考文献】

・国土交通省（2018）「住宅団地の実態調査」www.mlit.go.jp/common/001227046.pdf（2023 年 7 月 13 日閲覧）
・町田市（2012）「人口・世帯から見る木曽山崎団地地区の現状」www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/sumai/house/danti-reclamation/kisoyamazaki/kyougikai/renrakukyougikai-kaisaikeika.files/3sankou3.pdf（2023 年 7 月 13 日閲覧）
・町田市（2013）「町田市木曽山崎団地地区のまちづくりに係る検討報告書」https://www.city.machida.

tokyo.jp/kurashi/sumai/house/danti-reclamation/kisoyamazaki/kentoukai/kisoyamazaki.files/6siryou3.pdf（2023 年 7 月 13 日閲覧）
・町田市（2013）「木曽山崎団地地区の現況」https://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/sumai/house/danti-reclamation/kisoyamazaki/kentoukai/kisoyamazaki.files/2sankou2.pdf（2023 年 7 月 13 日閲覧）
・東京都総務局統計部人口統計課学事統計担当「令和 2 年度学校基本統計」
・東京都住宅政策本部（2015）「大規模住宅団地の現状【資料集】」https://www.juutakuseisaku.metro.tokyo.lg.jp/juutaku_kcs/pdf/h27_11/shiryo_27_11_03.pdf（2023 年 7 月 13 日閲覧）

アピールポイント

私たちのアピールポイントは 2 つある。

1 つ目は、団地再生による地域活性化に大学生が貢献できることである。周辺地域の経済が成長することが期待され、大学生と地域住民の交流が増える事で異なる世代や文化間、そして大学間の繋がりができ、団地と大学生に相互利益が生まれる。2 つ目は、事前調査での取組の精査から住宅団地再生のアイデアだけでなくアクションに移す段取りまで検討できていることである。先行する個別事例やノウハウの共有をもとに、多摩地域ならではの仕組みが構築されれば、全国に類を見ないイノベーションの創造となり、最終的には日本全国約 3,000 団地が抱える課題解決に繋がる。最初からできないなどと考えずに、この多摩地域だからこそのネットワーク、利点、可能性を活かし、できる方法を若者の力を起点とする産学官連携で企画、実現したい。

エントリー No.27

玉川大学　立野ゼミ　立野ゼミ第 1 班

対象地域：東京都八王子市高尾町

商店街巡りでポイント GET 連携スタンプラリー in 高尾

とんでもない景品が手に入る！

キーワード：マーケティング、観光

メンバー　山森慶人・堀甫実也・貝塚信樹・江頭瑞貴　　担当教員名　立野貴之

まちづくりの目的・概要

町づくりの目的

私たちの普段暮らしている多摩地域は広く、地域内にはサンリオピューロランドや京王れーるランドなど様々なジャンルの施設や、多くのハイキングコースやバーベキュー場といった自然・サービスがあり、エリア内外どちらからも人気が高い。多摩地域は多くの魅力がある一方で、実際にはシャッター街が多く、多摩地域内の街の活気が少ない地域が散見される。自分達で行った高尾市のフィールド調査の結果、活気が少ない原因として、1. 老年人口が非常に多い、2. 商店街に魅力が感じられない、3. 商店街関係者の商店街盛り上げに対するモチベーションが低い、などがあることがわかった。このようにいいところと、改善点があるように思われるところがある。中小企業庁の平成 30 年度商店街実態調査報告書によると東京都の商店街数は 900 もあり、東京都の中でも多くの割合を占める多摩エリアにも多くの商店街があると考えられる。今回の提案では、高尾市の二つの商店街同士で協力するイベント開催をモデルケースとし、高齢者多い商店街を対象に、その魅力とモチベーションを高めるため、多摩エリアの活気回復につなげることを目的とする。この地域活性の試みにおける成果の見込は、多摩エリア各地にある商店街の活性化を期待できると考える。

概要

本提案では、駅近にもかかわらず、利用客数が少なく活気に欠ける隣接した「商店街京王リトナード商店街」と「名店街」の二つの商店街に着目する。現時点で、この二つの隣接した商店街では協力したイベントはなく、そこに改善の余地があると考えた。二つの商店街はどちらも規模が小さく、京王リトナード商店街にある郵便局が行った独立したイベントのみ確認できている。私たちが行った現地調査では、この郵便局が行ったイ

ベントでは、通常一日当たりの利用客数が 80 人ほどに対し、イベント時では 300 人ほどになり、独立したイベントでも効果が示されている（現地商店街の方の聞き取り調査より）。つまり、イベントの規模を拡大しより多くの客を呼ぶことができ、活気に繋がると考える。具体的に、活気が出たとする基準として利用客数の増加以外にも、商店街外部の利用率が上がることを基準とする。イベントの規模を上げる方法として、二つの商店街が協力したイベントを開催することで、資金力を増やしつつ二つの商店街を同時にアピールすることができる。協力イベントの成功例として、神奈川県横浜市における「横浜橋通商店街」と「弘明寺商店街」で協力した「商店街スタンプラリー」という二つの商店街とそれぞれの最寄り駅をまわるスタンプラリーがあり、運営側の想定を上回る結果となった（1）。これらを参考に、高尾市の「商店街京王リトナード商店街」と「名店街」では、「商店街巡りでポイント GET 連携スタンプラリー in 高尾」を実施しる。スタンプラリーの景品として、それぞれの商店街で使われていない店舗のスペースを活用する。具体的には、1 年間そのスペースを自由に利用したビジネスチャンスの権利を景品とする。期限付きにすることで一回限りではなく毎年の恒例行事として継続的に地域を盛り上げられ、都会へのアクセスもいい立地であるため、市外の人の興味も惹けると考える。しかし、使われていない店の数にも限りがあるため、スタンプを集めた人の中からその場で当たった人がその権利を得られるようにし、外れた場合でも高尾の名産品がもらえるようにすることで、高尾の魅力を伝えられるようにする。

効果の見通し

以下の効果が期待できる。

1. イベントによる新規客層の増加と地域の活性化が期待できる。
2. 若年層の参加による SNS 拡散の効果が期待で、話題性がある。
3. 県外からの観光客もターゲットととし来訪のリピート化が期待できる。
4. 商品とビジネスチャンスを絡めることで高齢化改善、活性化が期待できる。
5. 他地域にも流用性の高いモデルケースになる

先行研究・連携団体

商店街同士で協力して行ったイベントの例として、横浜橋通商店街と弘明寺商店街が予算面などで市や区が支援する形でスタンプラリーを行った。スタンプを集めると両商店街のロゴマーク入り保冷バッグがプレゼントされるといったものであり、目的としては買い物をしながら２つの商店街を回ることを目的としている。成果としてはプレゼントされていた保冷バッグが早期に定数に達し、予定では一カ月間の予定だったが二週間弱で早期終了となるほどの反応があり、十分な成果があったと言える。

参考文献

（1）https://www.townnews.co.jp/0114/2022/02/24/613906.html

アピールポイント

少子高齢化が進む高尾で､「スタンプラリー」というイベントを打ち景品を空きスペースにすることによって、企業の参入や一般の人々のビジネスチャンスに繋がる。以前に行った郵便局でのイベントでもかなりの集客が見込めたため、このイベントでの集客もある程度の見込みはできるのである。このイベントを一年周期で行うことによって高尾の認知度が向上し、多くの人がビジネスチャンスを得ることができる。結果高尾の今後の活性化につながると考えられる。

エントリー No.28

創価大学　安田ゼミ　耀

対象地域：八王子市

建設現場における仮設トイレの悪臭問題を解決

働く環境を整え暮らしやすい街へ

キーワード：建設現場、仮設トイレ、悪臭問題、労働環境

メンバー　苅田諒平・幸城貴之・寺井桃香・前田秀俊・矢合和人　　担当教員名　安田賢憲

まちづくりの目的・概要

【背景】

私たちは建設現場で発生する仮設トイレの悪臭問題を解決することを目指す。きっかけは、チームメンバーの兄から建設現場に設置される仮設トイレは悪臭が酷く目に染みるほどであり、時折近隣住民から悪臭の苦情があるという話も聞いたからだ。そこで、私たちは創価大学がある八王子市で建設現場の仮設トイレの悪臭問題に関する調査を開始した。八王子市には中小・中堅の建設企業が 1,603 社存在し、その数は多摩地域で最も多い。八王子市では「地域産業のイノベーションによって、より豊かな生活を享受して暮らしている」という目標を掲げ、「働く環境が整っている」状態を目指している (八王子市 2023)。ゆえに八王子市内の建設現場の衛生環境を改善する事で八王子のまちづくりに大きく貢献できると考える。

【現状】

現在建設現場では主に便槽にし尿を溜める「簡易水洗トイレ」と、し尿を下水道に流す「本水洗トイレ」が使われる。本水洗トイレはし尿を下水に流す為、悪臭が発生しない。しかし、簡易水洗トイレはし尿を一時的に便槽に貯めるため悪臭が発生する。このことから簡易水洗トイレに課題があると分かる。

独自調査（N=28）により、八王子市内の建設企業における仮設トイレの導入比率は、簡易水洗トイレが 52%、本水洗トイレが 48% であることが判明した。中でも、工期が短い現場が多いハウスメーカーの 7 割が簡易水洗トイレを導入する傾向にある。

ターゲット数は、八王子市の建設従事者数約 15,000 人であり (国勢調査 2020)、上記独自調査とあわせ、八王子市の簡易水洗トイレ利用者は 7,800 人と推定される。

現状簡易水洗トイレの悪臭の原因である、便槽への効果的な解決策は存在しない。独自調査（N=46）によると、現状悪臭に対する主な対処方法である「市販の消臭剤の使用」は 94% が効果が実感できないと答えた。さらにし尿の汲み取りも高価で費用負担が大きい為、現実的な対処法ではない。

【施策】

私たちは建設現場に向けた悪臭のない仮設トイレ「Clean Airy」を提案する。本施策は、携帯トイレの販売事業を行う企業に協力を仰ぎ、石灰とゲル化剤が含まれる特許取得の薬剤を活用して建設現場に対応した仮設トイレを企業に提供するものである。この薬剤により強力な消臭・除菌が見込め、建設現場の悪臭問題を解決できる。ただし悪臭以外に、「住宅街で囲いの無いなかトイレに出入りすることに抵抗感がある」など、建設現場特有のトイレに関する課題があると考えられる。上記のようなニーズを今後も調査し、悪臭問題の解決に加えてより建設現場に最適化されたトイレの提供を目指す。

効果の見通し

本施策で仮設トイレの悪臭問題を解決することにより、メインターゲットである悪臭に悩む建設現場作業員の労働環境改善に貢献する。加えて、主な対象となるハウスメーカーの建設現場は住宅街に集中するため、この問題を解決することは八王子市民の生活を悪臭問題から守ることにも繋がる。私たちは 1 年で 40% の建設現場従業員の問題解決を目指し、様々な関係者の巻き込みを加速させ、八王子市が目指す「働く環境を整え、暮らしやすい街」の実現に貢献する。

先行研究・連携団体

参考文献

八王子市（2023）「八王子未来デザイン 2040 八王子市基本構想・基本計画」https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/001/005/001/p031827_d/fil/2040honsatu.pdf（閲覧日 :2023/7/16）

八王子市 (2020)「国勢調査」https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/002/006/aw0035/p005941.html（閲覧日 :2023/7/19）

独自調査（実施期間 5 月 20 日～ 7 月 10 日）

建設企業へのヒアリング（N=28）

現場監督、職人へのヒアリング（N=46）

建設現場への訪問とヒアリング（N=21）

協力団体

㈱石田工務店、㈱アールシーコア、菊島建設㈱、ハタノ木材㈱、土屋企業㈱

㈱ヒロ建工、八王子市 水再生施設課

アピールポイント

私たちは建設現場のトイレ問題の現状を把握する為、これまで 400 社超に電話、建設現場 21 箇所に足を運び、悪臭に悩む建設現場作業員の生々しい話を聞いた。そして、建設現場における仮設トイレの悪臭問題の改善に向けた薬剤の消臭効果と現場への影響を検証すべく、実地検証の依頼を行っている。7 月 19 日時点で、購買意欲のある 6 社に協力をしていただくことが決まっている。協力をしてくださった方々のためにも、引き続き、私たちは粘り強く活動を行っていくつもりだ。

エントリー No.29

亜細亜大学　白井ゼミ　多摩リベンジャーズ

対象地域：南多摩地域

多摩リベンジャーズ

再び多摩を Liven up させよう

キーワード：空き家、公園、自然、リノベーション

メンバー　黒木怜帆・清水麻那・小松采加・須山慎一郎・樫村碧・堀井真琴・伊藤麟之介・青木七海・馬場みちる
担当教員名　白井宏昌

まちづくりの目的・概要

多摩地域は東京都の中にありますが、23 区とは少し違う位置づけがされていると考えます。高尾山や井の頭公園、国営昭和記念公園をはじめ、多摩川沿いに広がる雄大な自然、玉川上水沿いの緑の散歩道など東京と思わせない自然が広がっています。自然が広がるにもかかわらず、交通の利便性も高く、伸び伸びとした子育てをしたい人や都会と距離を置きたいと考える人に魅力的な多摩地域です。しかし近年では、人口減少や高齢化の問題が出ています。総務省の 2015 年の結果ですが、北多摩南北エリア、南多摩は人口減少が高く、西多摩エリアは高齢化率が非常に高いです。2013 年度の「住宅・土地統計調査」(総務省) では空き家率は多摩地域全体で 226,330 戸ありました。調査時より時間も流れ、件数は増加の一途を辿っている、今後も増加する一方だと予測されます。

私達はこうした人口減少や高齢化によって生まれる「空き家問題」に着目しました。問題を解決しようと少しでも改善できるようにと、空き家の所有者・管理者への調査を行ったり、相談窓口を開いたりするなどの対策が行われていますが、まだ数多くの空き家が残されていることが現状にあります。平成 29 年 3 月の多摩市による「多摩市空家等実態調査報告書」からは、賃貸・購入者がいない、活用できず売却・賃貸を考えている人が多いということが分かります。そこで私達は、活用可能とされる「腐朽・破損なし」の空き家の再生方法に注目して考えていきたいと思っています。

戸建ての空き家を勉強や休憩スペース、テレワークの場になるようにリノベーションや開発をすることで、近隣住民や学生のコミュニティスペースに生まれ変わることが出来ると考えています。また、多摩市全体に多くの集合住宅の空き家があります。土地が広いことや部屋が多いことを利用し、グランピング施設や大型イベントの開催が出来ると考えます。多摩の豊かな環境にある公園や自然を取り入れて、普段自然と触れ合う機会が少なく、人口が一極集中する都心から人を呼び込む目玉になると思いました。同様に公園内ではオープンキッチン、マーケット等を開催することでオープンスペース化したいと思います。オープンスペース化することで、住民にとっては身近なところに新しい空間を作ることができます。その近くを通勤通学で利用する方にもある種のスポットにし、住民と通勤通学者にとっても交流の架け橋となればと考えました。多摩の明るい未来を一緒に作っていきます。

効果の見通し

防犯リスクの高さ、景観の悪化等が懸念される空き家問題の解決を図るとともに空き家を勉強や休憩スペース、テレワークの場など地域の憩いの場としてオープンスペース化させることで市民の交流の機会や新たな働き方、生活へと対応したまちに変化することができる。それにより市民の生活の質や地域への定着を高めることが期待できる。さらに公園とオープンスペースを連携させたイベントなどの開催で観光客増加の効果も見込まれる

先行研究・連携団体

参考文献

https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/419/zentaiban.pdf
https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/05gyousei/sinkou/tama_shinkouplan2/tamaplan205.pdf
https://www.juutakuseisaku.metro.tokyo.lg.jp/akiya/gaiyou.

アピールポイント

高齢化社会が進み、今後ますます空き家が増えていくことは避けられないと考えられます。

そうした中で空き家のリノベーションが当たり前となっていくように、その先駆けとなるような提案ができればという想いから“空き家と公園を連携させたリノベーション”をテーマに選びました。マーケットやカフェなどの収益施設をつくることで公園等の公共部分にも収益を充当して整備することができます。公園で子供を遊ばせている横で親が一息つけるように大人も子供も居心地の良さを感じてもらえる空間の創出は、子育てしやすいまちづくりに繋がります。まちなかにコミュニケーションスペースをつくり地域交流を活発にさせるのみならず、デザイン性や、独自性のある外観とイベントの主催により市外からも訪れるきっかけや話題性もつくり、賑わいのあるまちづくりを目指します。

エントリーシート No.31

法政大学　杉浦ゼミ　チーム３

対象地域：多摩地域

魅力発見！

サウナで伝える豊かな自然

キーワード：マーケティング

メンバー　清水結奈・城賢治・庄司光希・竹村航　　担当教員名　杉浦未樹

まちづくりの目的・概要

背景

サウナブームの影響でコロナ以前である 2020 年までの数年間、サウナを年一回以上利用する愛好家は 250 万人を上回り続けていました。コロナ流行によって 2021 年には大幅な利用者減少を見せましたが、翌

年には利用者数の増加がみられました。さらにSNSにおいてサウナに関する話題が多くみられるようになり、2020年には「サウナ」というワードの入った関連ツイートが「銭湯」というワードのツイート数を超し、SNSを頻繁に利用するZ世代からの注目が高まっているといえます。　また多摩地域は都心から一時間程で移動可能という高い利点を持ちながら、豊かな自然から溢れ出るゆったりとした時間の流れやワサビなどの名産品を使用した郷土料理を楽しむことができます。多摩地域は空き家問題や高齢化に伴う人口減少という問題を解決するために、多摩地域の魅力を活かした多様な観光メニューを用意し、新規利用者やリピーターを増やすことが必要です。

目的

以前からあったような温泉に併設されたサウナではなく、テントの中で自然の音や空気を感じながらサウナ活動（サ活）をするという、都心では味わえないようなコンテンツを提供することで、多摩地域、特に奥多摩などの自然豊かな土地を訪れるきっかけを作ります。多摩地域の自然サウナとキャンプ場や飲食店などの関連情報をまとめ、同時に利用しやすくすることで、今ある体験の魅力もアピールすることができます。

概要

東京都西多摩群檜原村にある北秋川自然休暇村と提携し、テントサウナの貸出を行います。利用者はキャンプ用品などの重たい持ち物を持ってくる必要がないので、気軽に参加することが可能です。多摩にあるサウナ情報や周辺で体験できるアクティビティ、さらにサ飯と呼ばれるサウナ後にリフレッシュのために食べるご飯が楽しめる飲食店をまとめてモデルコースを作りSNSなどで発信し話題性を高めます。

効果の見通し

多摩地域がもともと持っている自然を活用したキャンプやハイキング等のアクティビティに加え、サウナという若い世代を中心に話題性があるような新しい体験を作ることで新規利用者数の増加を狙います。新規利用者が増えることにより多摩地域のの自然、文化を発見できる機会となり、リピーターの創出も期待できます。またワサビや治助イモなどを提供する飲食店と利用券などを通じて連携することで、地域産業の活性化を目指します。

先行研究・連携団体

北秋川自然休暇村

【1】「サウナ欲が抑うつ・ストレスに及ぼす影響について」（2021年）神戸誠好
【2】「東京圏の郊外住宅地における空き家問題の認識と対策」（2017年）鄭 容濟 , 若林 芳樹
【3】「【日本のサウナ実態調査2023】」（2023年）日本サウナ総研
【4】「Twitterで考察！ サウナブームの構造」（2020年）Tribal Media House

アピールポイント

最も強調したいのは、サウナと自然を掛け合わせたこの企画は、多摩地域を訪れる新規観光客をつくるきっかけになるということです。多摩地域は都心の主要駅に1時間以内で行け、小田急線の複々線の恩恵を受け、立地やアクセスお良さに関しては非常に優れており、他のキャンプ場よりも集客力が高いと考えられます。加えて、多摩の名産品の販売を行うことにより、多摩の魅力をさらに知ってもらえる機会の創出になるとも考えられます。

第５章

講評・総評

総　評

副 審 査 委 員 長

西 浦 定 継　公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩　常務理事
明星大学　教授

今年度は、二次審査が対面で行われた。2 次審査に残った 12 の研究チームが、各々の個性的かつ斬新な研究成果をいきいきと発表していたのが印象的であった。コロナ禍では、まちづくり・ものづくりコンペだけでなく、学業にかかわる多くの発表がオンラインないしは書面で行われていたことと思われる。今回、学生の晴れ晴れとした様子を目の当たりにし、改めて face to face で行う教育現場の重要性を認識した次第である。確かに、オンラインの利便性は理解できるが、対面での発表ならではのハプニングなども含めて、人と人が同じ空間で時間を共有することで伝わるものの重要性は今後も大事にしてゆきたいと強く感じた。

さて、以下が今回のまちづくり･モノづくりコンペを通じて、課題として挙げられたことである。

1) 調査分析、評価において、エビデンスベースの発表に課題が残った。例えば、評価方法として、アンケート、インタビューなど手法を用いて実施している発表があった。確かに、限られた対象であり、大規模なアンケート、インタビュー調査などを実施することは難しいと理解できるが、集めたデータをそのまま図表にして考察して、評価することは避けてもらいたい。少なくとも、対象者の属性や、立場などを整理し、個々の評価に至ったバックグラウンドも含めて考察してもらいたかった。近年、データサイエンスの分野では、母集団を細分化し、統計的有意性を検証する優れた手法が提案されている。その辺も学習してもらい、しっかりとしたエビデンスに基づく発表を期待したい。
2) 都市、地域全体の課題や計画提案などが多くあったが、もう少し、地区レベルでの現状に即した課題解決方法の提案を期待したい。例えば、今回、多摩ニュータウンの再生に関する研究発表が多く見られた。いずれも、よく勉強し、チームで提案を練ったうえで発表していたが、いずれも多摩ニュータウン全体の話にとどまっていたのが残念であった。多摩ニュータウン再生の取組みは、ここの 10 年にわたって実施されてきており、諏訪永山地区、愛宕貝取豊ヶ丘地区などの再生計画が作られている。また、現在の重要課題は、尾根幹線沿道の土地利用転換による再生である。その辺の情報もしっかりと把握した上での発表であれば、より説得力のあるものになったと思っている。
3) 今回、2 次審査ではパワーポイントのプレゼンテーション資料だけの提出であった。来年度は、論文の提出も検討したいと考えている。論文形式で、数枚程度で内容を取りまとめるプロセスを踏むことにより、内容を客観的に眺められ、論理性も磨かれる。また、自分たちの考えを、きちっとした形で言語化することは、頭の中を整理することにもつながる。是非、次年度は検討としたいと考えている。
4) 今回、ビジネス賞を設けたが、審査員の講評としては、いずれも内容も興味深いが、もう少し実現性の部分で工夫があるとよかったのではとの意見が多かった。大胆な提案も必要であるが、実現性の部分も考慮してもらいたいと考えている。

審査委員による講評

田　渕　隆　俊　　中央大学国際経営学部　教授

今回第９回目のコンペティションを拝見させていただき、一段とレベルが向上してきたと実感しております。多摩地域の問題として、少子高齢化社会の進展、中心市街地の衰退、空き家問題などが挙げられますが、発表の多くは真摯に取り組んでいて大変素晴らしいと思います。特に学生の視点から何ができるかを問う発表が数多く見受けられました。自分たちの力で社会に役立つアイデアを考案し、提案の実現性や社会的有用性のある発表もあって、今後さらに期待が持てると感じました。

たとえば、中央大学のチームレンコンですが、母子家庭の子供の成長をサポートするさまざまなアイデアには社会的有用性があると思います。中央大学のさとる食堂ですが、子ども食堂を通じて相対的貧困家庭の子供を支援する試みは高く評価できると思います。都立大学のチームＡですが、多摩大祭りという画期的なアイデアをもとに地域の活性化を図ろうとする試みは、大変興味深いと思います。創価大学の eyes ですが、登山におけるトイレ問題を解決しうる画期的で実現可能な試みだと思います。その他のプレゼンテーションも、多様性を尊重しつつ多摩地域が直面している問題に正面から取り組んでいたと思います。来年も楽しみです。

和　田　清　美　　東京都立大学　名誉教授・客員教授

今回初めて審査員として参加させていただきました。まずは、エントリーされた 31 チームの事業提案のいずれもが、「若者らしい着眼点と発想」による「多摩地域の元気につながり、多摩地域の魅力づくりの一助となる」という本コンペティションの目的にかなった提案をされましたことを評価いたします。そして、受賞されたチームの皆さま、おめでとうございます。

審査にあたっては、「若者らしい着眼点と発想」を起点とし、「妥当な分析方法をもちいた調査研究」がなされ、この調査結果に根拠づけられた「オリジナリティ」と「提案の実現性、社会的有用性」をもつ事業提案であるかをとくに重視しました。受賞されたチームは、こうした一連の科学的手続きを踏んだ事業提案であったと思います。

多摩地域は、さまざま地域課題をかかえている一方で、たくさんの魅力ある地域資源を有している地域でもあります。多摩地域のあらたな発展に向けての「若者らしい着眼点と発想」を期待すると同時に、「科学的手続き」を踏まえた事業提案がなされること希望いたします。

荻　島　正　義　　福生市　企画財政部企画調整課　課長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

エントリーされた皆さん、お疲れ様でした。また、賞に選ばれたチームにつきましては、受賞おめでとうございます。

まずは、学生の皆さんが、多摩地域のことをしっかりと分析し、真剣に課題に取り組んでいただいたことを、自治体の職員として大変嬉しく思いました。

また、久しぶりの対面開催のコンペディションで、皆さんの溌溂としたプレゼンを目の当たりにし、私自身も大変刺激を受けました。

賞に選ばれたチームは、課題やその解決策に対する分析が客観的にデータで示されており、特に説得力がある提案であったと感じました。また、そのデータに裏打ちされた自信からか、プレゼンも安心して見ることができました。

新たな事業を企画し、実現するためには、どんなに優れた提案であっても、やはり説得力あるデータの提示は不可欠です。

皆さんの瑞々しい発想を大事にしながら、一つ一つの事象に対する分析や探究もぜひ深めてください。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

日本は、人口減少や少子高齢化が課題と言われて久しいですが、社会は今まさに担い手不足が顕在化し始めています。学生の皆さんは、多摩地域だけでなく、これからの日本を担う大切な「人財」です。今回のコンペディションのように、日頃から仲間と切磋琢磨しながら素晴らしい企画を提案していただくことを期待しています。

木内基容子　八王子市　副市長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

コロナ禍が明け、久しぶりに参加チームと審査委員が一堂に会する本来の姿の第二次審査が行われ、オンライン方式では伝わりにくい熱量、緊張感を肌で感じることができたことを嬉しく思います。参加チームにとって得難い経験になったはずだと思いますが、実は審査委員としても、審査中の活発な意見交換が自ずと各委員の立場の違いを鮮明に感じとれる刺激に満ちた機会となったことに、改めてこの事業の魅力を実感しました。

私自身は、オリジナリティと社会的有用性を特に重視しつつ、学生ならではのアイディアや行動力を伴った提案について高く評価しました。第一次審査も含め、審査の過程で行政を担うものとして考えさせられることも多く、エントリーされたすべてのチームの皆様に感謝いたします。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

コンペである以上、採点による順位を付けざるを得ませんが、入賞するという結果を出すことがゴールではありません。本コンペへの参加を、多摩地域に目を向け、多摩地域の将来像を模索する大人たちを刺激し、ともに未来を語り合う機会と捉えて、果敢にチャレンジしてもらいたいと思います。

高田康宏　町田市　政策経営部企画政策課　担当課長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

今回のコンペでは、良い意味でも悪い意味でも学生らしいプレゼンであった。

良いプレゼンは、本賞もビジネス賞も重複して受賞しており、学生の創意工夫を感じられるものであった。また、惜しくも受賞できなかったプレゼンも、もう少し視野を広く、しっかりと研究ができれば、受賞するチャンスはあると思われた。

今後、継続していく、このコンペに対して、学生の視点から、企業や行政が思いつかないようなプレゼンをしてもらえることに期待したい。

一方で、運営側に対して、重複受賞する今の制度を再度検討していただきたいと思う。

プレゼンの大半は、社会課題に対するものである。最初からビジネス賞を目指す研究・発表をしていれば、もっと異なったプレゼンも出てきたと思います。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

ネットワーク多摩は、大学、企業、行政が連携している団体であるため、今後も学生ならではの視点で、企業、行政へ有意義かつ具体的な提案をしてもらうことを期待したいと思います。

一方で、課題としては、テーマの提示の仕方だと思います。テーマは、推奨テーマ、テーマとなるキーワードを提示していますが、企業、行政が関わる団体だからこそ、事前に、企業や行政に対してアンケートを実施し、ぜひ学生に取り組んでもらいたいテーマ（今抱えている課題）を提示してあげられれば、企業にも行政にも、もっと有意義かつ具体的な提案になるのではないかと考えます。

田　中　準　也　　立川市　副市長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

私は委員になって初めて皆さんから直接プレゼンテーションを受けることができ、熱い思いを感じることができました。

私自身、行政に携わる人間として、少子高齢化を起因とするあらゆる分野での課題の解決は本当に難しいと日々感じています。その課題に果敢に立ち向かって発表してくださった皆さんに改めて敬意を表します。

また、多摩地域にとって負のベクトルとして捉えがちな事柄について、それを様々な角度から分析し、プラスに転じていくチャレンジがこのコンペティションの醍醐味だと思っています。

そしてこの間培ったノウハウだけてなく、仲間やお話を伺った地域の方とのつながりを大切にして、これからも活動を続けていただけたらと思います。期待しています。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

いろいろな提案があり、良かった一方で、全体的に実現へのプロセスを考えたときに少し最後の詰めが甘い印象を持つものも多くありました。そこを掘り下げていただくともっと説得力のある発表になったと思います。

波　戸　尚　子　　日野市　副市長

「このまちをよくしていこう」という皆さんの熱意が伝わってくるプレゼンテーションでした。審査は、「提案が持続可能なものか」、「皆さんが地域に出て実践を積み重ねたものか」という２点に着目して評価させていただきました。

まちづくりには年単位の時間が必要です。私自身、常に意識していることは、自分が職を離れた後も（皆さんの場合は卒業した後も）続いてく仕組みを作るということです。その場かぎりの取組では、根本的な課題解決にはつながりません。そして、まちづくりの究極の目的は、そこに住む人の幸福感（ウェルビーイング）を高めることです。今は多様な価値観が尊重される時代です。そこに住む人たちが何を求めているか、地域に足を運び、見て・知って・共に作ることで、机上では気づくことのできないニーズや課題が見えてきます。「共感の輪」は地域とともに創ることで広がっていきます。

「まちづくり」の主人公は私たちです。私たち一人ひとりが持っているアイデアを、私は「幸せのタネ」と呼んでいます。今日は、皆さんの「幸せのタネ」を沢山共有していただきました。今回の経験をステップに、私たちの暮らすまちがより良いまちとなるよう、一緒に盛り上げていきましょう。

早 川　　修　昭島市　副市長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

どのチームも学生ならではの視点で考えられており、主体的に地域に関わりを持ってくれる若者が多いことを心強く感じました。２次審査においては、１次審査での好評価のポイントをどのように表現するのかを興味深く審査させていただき、その中で優れた調査分析を行い、実現可能性と社会的有用性とがともに高いと期待できる提案を高く評価させていただきました。教室や研究室における情報収集に加え、実際に現地へ足を運び、現実を見聞きして得られる情報にはリアリティがあり、実現可能性が高いと考えます。それまで見えていなかった課題を表面化させる力は、問題解決の第一歩となる重要な能力であり、それは実際に現場で見て感じることにより培われます。ぜひ、現場に足を運び、自分で実際に見て感じるという経験を大切にしていただきたいと思います。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

審査においては、今までにない斬新な視点で取り組んだ提案であることを求められると同時に、提案の実現性・社会的有用性を求められるため、まずテーマの設定に苦労されたのではないかと思います。両方のバランスを取るのは難しいと思いますが、消極的にならず、未来を切り拓く若者らしい挑戦的な提案を期待しています。

担当教授におかれましては、学生への指導に大変な御苦労があることは承知をしていますが、学生のレベルアップのために更なる協力をお願いしたいと思います。

簑 島 紀 章　国立市　政策経営課長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

人口減少や子どもの貧困など社会的課題に対して、学生という立場でどのようなアプローチができるかを真剣に考えていたことに非常に心強く感じました。また、複数の課題をつなぎ合わせることで新たな解決策を考える、まさに政策を生み出す過程を体験されたものと思います。

「ゲーム」や「祭り」といったアイデアは、行政からは発想しにくく、良い視点であった一方、課題の分析は一般論に近いものもあり、その地域・地区ならではの課題や状況の把握することができるとよい良い提案につながるのではないかと感じました。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

多摩地域で生活し、活動する学生が地域の社会的な課題について考え、その解決策を考える「まちづくり・ものづくりコンペティション」の取組は、官民を問わず多摩地域における人材を育成する非常に重要な機会であると思います。

引き続き課題の発掘し、解決のためのアイデアを考え、その効果を検証するとともに、より具体的に実現性のある事業としての提案、また、その事業が行政からの補助金や企業からの協賛金に頼らず、ビジネスとして自走していける提案がなされることを期待します。

元　木　　博　　東京都市長会事務局　企画政策室長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

今回初めて審査をさせていただきましたが、それぞれの視点から得られた多様なアイデアを形にしようとする努力と意欲を素直に称賛します。審査にあたっては、提案が今後どのように多摩地域の連携・発展につながるかということを意識しましたが、そのあたりの言及はやや少ない印象でした。将来的な展開を構想することは、提案の細かい部分を良くすることにも効果的ですので、是非視点に取り入れてみてください。

今後、皆さんは様々な場面で「自らの提案を実現したい」と思うことがあるはずです。その時こそ、今回の調査研究活動と提案の経験が必ず役に立ちます。厳しいコメントこそヒントと想いが必ずあります。賞の有無に関わらず、この経験を前向きに活かしてください。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

優れたアイデアでも実現には、仲間だけでなく「広く共感してもらうこと」が必要ですが、一次・二時審査とも、内容・表現など基礎的な工夫・検討が必要だと感じました。

提案の良さを理解してもらうには「この分析方法で良いのか、根拠は正しいのか、表現は適切かつ興味を持ってもらえるか」など疑問を持ち、様々な手法を学び、活かすことが重要です。応募に際しては過去の例だけでなく、優れた論文や企業人の発表も参考としてください。とはいえ、まず大事なのは積極性です。今後の熱意ある応募に期待いたします。

雨　宮　克　也　　三井不動産 株式会社　建設企画部長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

・明確な差が出たと思います。コンペティションである以上、勝つための技術的指導が必要です。指導する先生方の課題だと思います。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

・多摩エリアを盛り上げていこう、学生に機会を与えよう、という意味においては大切な機会だと思います。
・今後も継続していくことが大事だと思います。

井　上　　成　　三菱地所 株式会社　エリアマネジメント企画部　担当部長

学生の皆様、最終発表に至るまでに多くの探究、苦労、気づき、そして学びがあったものと拝察致します。本当にお疲れ様でした。

今年は２０１９年以来となる最終審査会のリアル開催が叶いました。３年間味わえなかったリアルの臨場感、醍醐味を皆様は楽しむことができましたか？他の大学の方々との交流機会となったとしたら最高です。

審査を通して感じた点は以下の２点です。率直な感想として、総じて皆さんのプレゼンテーションのレベルが高かったということ。２点目は少し辛口になりますが、机上の調査に時間を割くのは当然として、もっともっと足を動かした結果提案が増えていけば良いと感じたこと。現場を隈なく観察し、調査し、関係者に接触し、施策を試すといった“より現場に入り込む”ことが、提案にリ

アリティ、迫力をもたらすのではないかと思料するからです。

皆様には、今回の経験、知見を磨いて、是非社会実装の機会を得るべく、研究を継続して頂ければ幸いです。既に街づくりの実装に学生時代から入り込む人材は増えています。

最後に、事務局含め関係者の皆様のご努力、ご尽力に対し、この場を借りて心より御礼を申し上げます。そして次年度の更なる進化発展を祈念しております。

小　澤　一　郎　　独立行政法人都市再生機構　東日本賃貸住宅本部　多摩エリア経営部　次長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

身近に起こっている社会的な問題を、学生らしく率直に捉え、解決策を提案しようという姿勢が見られ、好感した。一方で、多くの提案で、リサーチが不十分のため、結論がひとりよがりになりがちであった点が気になった。学術においても、ビジネスにおいても、この点は重要なので、審査においても、しっかり指摘してあげるべきだろう。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

「まちづくり」は、本来、時間軸を長く、分野は広く捉え、理想的なゴールを描くものであり、これを示した上で、一里塚として直近でどのような取り組みを行うか、といった提案があっても良いと感じた。また、ソフトの提案が多く、街路や建築そのもの、物産など「ものづくり」そのものの提案が少なかった。参加している大学の他分野の研究室にも宣伝するなどして、多様な提案がなされるようにすべきと考える。

久　保　憲　一　　一般社団法人立飛総合研究所　理事長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

審査員を拝命して３年目となる今回、初めてプレゼンテーションを対面で拝聴することができ、皆さんの熱意を直接感じることができる良い機会となった。大人数の中、やり直しのきかない一発勝負のプレゼンテーションは、皆さんにとっても大変緊張する場であったと思われるが、審査員もしっかりと聞き逃さないようにという真剣勝負の場であった。

このコンペティションは、多摩エリアの現状の課題を見つけ出し、分析し、具体的な解決策を提案するというものであるが、「見つけ」、「分析し」、「提案する」、という緻密な作業に加えて、「共感を得る」、という別の種類の技術が重要だと、今回改めて感じた。つまり、プレゼンテーションの良し悪しが、提案の質に大きく影響するということである。メモを読みながら進めるプレゼンテーションは、間違えずに伝えるためのよい方法ではあるが、メモを見ず、会場の空気を感じながら聴衆の目を見て行うそれは、人の共感を得る最も有効な手段になりうる。提案を熱意をもってそらで語るには、その魅力について自信をもって伝えるだけの内容が必要であり、逆説的ではあるが、プレゼンテーション力を鍛えることがよい提案を行うための近道になるかもしれない。

皆さんには是非これからも、「共感を得る」ことを意識した魅力的な提案をして頂きたいと思う。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

まちづくり・ものづくりコンペティションは、分野を超えた様々な視点や手法で取り組むことができる異種格闘技戦のように感じている。建築、経済、経営など、多様な学部学科の方が参加していることもそれらを端的に示している。その点大変興味深く、また期待をしている。一方、工学系、

理学系、芸術系の方の参加は多くない印象である。同じ問題を違う視点で見たり、違う視点に接したりすることは重要であり、参加者すべてにとって有益であると考えられるため、多分野の方々の参加については、課題として認識してよいのではないかと思われる。

小　林　久　恵　　エム・ケー株式会社　専務取締役

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

リアルの開催となり、学生がチャレンジする場を提供できていることに意義があると思うが、担当大学の教授による学生のプレゼンの質をあげる指導を事前にした上で、最終審査（本番）という流れにすれば学生のレベルはもっとあがるし、学生の成長にもつながると思う。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

コンペで賞を取ることよりも、そのコンペで賞をとったことを実践実装するスキームにしてほしい。打ち上げ花火で終わっている印象があり、その点が残念だ。企業は収益を出して企業の意義があり、社員の雇用も地域への還元もできる。構想から地元企業とコラボして収益化につなげる苦労を少しでも学生が体験できると、より意味のあるコンペになると考える。

→八王子市他、他の事業団体での「使いまわし」のネタが多い印象である。新規のアイディアでなく、使いまわし＝ブラッシュアップ案であるのであればその旨も事前に概要に記載してほしい。

東　浦　亮　典　　東急株式会社　常務執行役員

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

はじめてのリアル参加でしたので、このように運営されているのかということが分かって新鮮でした。

学生ということで割り引いて考えないといけないかもしれませんが、指導教官がついていることを考慮するともう少しビジネス視点で課題を解決するという姿勢が欲しかったです。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

課題解決の対象が多摩地区とある程度限定されており、高齢化・人口減少・空家・買い物難民・移動の不自由など、ある程度課題は共通認識されているので、全チーム毎回同じ分析を聞かされるのは少々冗長な印象を受けました。もっとビジネススキームを活用した課題解決に焦点を絞って、学生らしい自由な視点でのビジネスモデルに発表時間を当てていった方がよいと感じました。

村　井　隆　三　　医療法人社団おなか会おなかクリニック　理事長・院長

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

全体としては、学生さんらしい、ユニークな視点が多く、楽しい審査となりました。実現性については様々でした。プレゼンテーションについては、工夫が見られて楽しいものでした。

同じ企画であっても、プレゼンテーションの仕方で、評価は大きく変ります。このような面からも、参加された学生さんにとっては、得がたい経験になったのではないかと思います。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

私の個人的な意見ですが、たとえ実現性が低くても、学生さんらしい視点からの、ユニークな企画を応募して欲しいと思います。プレゼンテーションについても、パワーポイントで話すだけでなく、それぞれに工夫して頂ければ楽しいコンペになると思います。人前で話すのは、ある程度の訓練が必要です。好感度の高いプレゼンテーションをお願いいたします。

矢 部 俊 男　森ビル株式会社　都市開発本部　計画企画部　メディア企画部　参与

１．今回の結果をふまえての全体的な講評

発表された学生の皆さん、お疲れ様でした。発表までの道のりは大変だったと思います。
特に優秀をされた研究室の発表内容はとても素晴らしかったです。
他の皆さんも独自の視点で考えられてとても良かったです。
選定テーマについてもても良かったと思いました。

２．まちづくり・ものづくりコンペティションへの応募に対して、今後の期待と課題

学生の皆さんも研究室も回を重ねるごとにノウハウも蓄積してきたと思います。

コロナが明けて、フィールドワークもできるようになってきて良かったと思いました。

まちづくり･ものづくりコンペティションでは､テーマの選定がとても大事だと思います｡しかし、地域の課題やテーマは数に限りがあるので、過去のテーマを掘り起こすことも考えないかもしれません。アートの世界では従来からあった物に新たな創造価値を見出すキュレーションという言葉があります。過去では実現できないことも、現在何ならできることもできるかもしれないので、来年に向けて掘り起こしてみたらいかがでしょうか？

「編集後記：次回に向けてのメッセージ」

本コンペティションの特徴は、発足当初から学術的な観点と実学的な観点の双方から審査が行われています。審査員の構成と講評でお判りのように、審査は学術の現場・実務の現場の各界の第一線級の方々にお願いしております。

審査については、まず各界の方のアプローチや評価の仕方で素点をつけていただき、それの結果を「評価の素点が持つ歪みを修正するために」統計的に処理し、標準得点を計算して最終的な順位と賞を決定しています。このような手続きを踏むことで、多角的な視点と厳正かつ公正な採点を実施しております。

学生諸君に本事業にふるって参加を促しているのは、「本コンペティションを通じて、将来の多摩地域のまちづくりにつなげる新たな気づきを持って欲しい、そして大学の枠を超えて自らの調査研究活動の水準を確認し、新たな学びにつなげて欲しい」という思いを込めております。ですからここに参加し、一つの成果物を提出する長い過程で学び合い勝ち取った「無形の何か」の方が、入選したか否か、順位が高かったかなどよりずっと貴重なのです。

それはともかく、本年度受賞された皆様、大変おめでとうございます。ぜひ皆様の活動を「まちづくり・ものづくり」の現場につなげていって欲しいと思います。

また、本年度惜しくも受賞を逃した皆様、ぜひ来年度も応募していただけると嬉しいです。自らの作品のみでなく、他の団体の作品もこの報告書で参考にしていただくことで、どういった点が皆様のご提案の「のびしろ」だったのか、が見えてくるはずです。そこを気づき、さらに発展したものにできれば、きっとよりよい成果が出てくると信じています。来年の新たな挑戦に期待しております。

第９回　多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション２０２３　報告書

2024 年 2 月 15 日　発行

発行　公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩
〒 191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1　明星大学 20 号館 6 階
TEL 042-591-8540 FAX 042-591-8831
E-mail office@nw-tama.jp

主　催

network TAMA

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

協　賛

M&K ともに まちづくりを エム・ケー株式会社

Kanazawa 関わるすべての人が、HAPPY スマイルに。 金澤建設株式会社

京西テクノス株式会社

TACHIHI

たなべ物産株式会社

TSC Challenge 東洋システム株式会社

METROL

吉野化成 YOSHINOKASEI CO.,LTD.

YOSHIMASU 株式会社 吉増製作所 Yoshimasu Seisakusho Co., Ltd.

後　援　昭島市・国立市・小金井市・立川市・多摩市・八王子市・日野市・福生市・町田市・公益財団法人 東京市町村自治調査会